

奈良高専の教育・研究・社会貢献への取組みと課題



自己点検・評価報告書

2023年10月

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校

ま え が き

奈良高専は、高度経済成長前期の1964年に設立された国立高等教育機関であり、15歳から5年間一貫の高専独自の教育システム実施に加え、本科卒業後2年間のより高度な専門性を習得する専攻科を最初に設置した高専です。「都市型高専としての地の利」「研究力の高さ」「学生の質の高さ」などの強みを活かして、時代が求める実践的技術者を養成する教育研究や、産学官連携による産業活性化において重要な使命を担ってきました。現在5学科2専攻で運営し、学生総数は約1,100名、本科卒業後の就職：進学割合は4：6程度で推移しています。産学官連携では京阪神企業の技術者教育、全国規模での技術相談・共同研究や地域交流イベント・公開講座等に、学生と共に積極的に取り組んできました。その結果、学生は国内外の研究発表会で数々の受賞をし、課外活動でもロボコンやラグビーをはじめとして大きな成果を挙げており、産業連携・地域連携も進んでおります。

奈良高専では産業界のニーズを捉え、イノベティブなモノ・コトづくりができるグローバルエンジニアリーダー人材の育成を目指してきました。2019年度末に始まった新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、人・物の移動は停止し、グローバル活動は大きく制限されました。これまで築き上げられた産業グローバル・サプライチェーンは寸断され、リスク管理の観点から、国内外の企業は産業活動拠点や事業内容・計画の大きな見直しを余儀なくされました。一方で、衛星通信の高度化・活発化が驚異的な速さで推進され、陸上、海洋、空域、宇宙に至るまであらゆる領域をシームレスにつなぐ高度な情報通信ネットワークが構築され、移動を伴わない高度で多様な人的交流に基づいたイノベーション創生が期待されています。これらの変化に対応した人材育成へのシフトは優先的課題と考えます。

時代の求めに応じて、これまで取り組んできた「世界で活躍するグローバルエンジニア育成」のための英語コミュニケーション力と専門英語力の更なる強化に加え、デジタル化に対応するための知識や技術を持ち、異文化を理解し尊重する資質をも身につけた実践的技術者を養成するために、2018年度に開始した「グローバル工学協働教育プログラム」を更に進化させます。学生の国際交流を推進し、積極的に留学生を受け入れ、生活レベルで自然に国際的コミュニケーション能力を身につけられる環境整備を進めていきます。工学教育に加えて、感性や表現力を涵養する異分野の学びを取り入れるために、2019年から導入した「しなやかエンジニア教育プログラム」の学びを2024年度から正課科目に取り入れて継続させ、工学の基礎であるSTEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) にアート (Art) の要素を組み込んだSTEAM教育の標準化を目指します。今後はダイバーシティ・インクルージョン (D&I) という観点から、グローバル、しなやか、二つの教育プログラムの融合と、高度なデジタル人材の育成を柱とした組織改革・カリキュラム再編も計画していきます。

多様化する生産環境の中で、女性エンジニアの比率向上という社会的要請があります。多様な感性・背景を持つ人材が多面的に交流することで、既成概念にとらわれない斬新なアイデアが生まれ、イノベーションを引き起こすことが期待されています。奈良高専では、D&

Iへの取組の一環として、女子学生の比率30%を目標として推薦入試で女性エンジニアリーダー養成枠を設け、優秀で意欲の高い女子の入学を促しています。本年度の入学生に占める女子割合は26%で、より一層の取組が必要です。また、女子学生の比率増加に対応した女性教員の比率向上も課題です。女性教員の研究環境整備による負担軽減と研究力向上など、様々な男女共同参画推進に関する活動を「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の事業（代表機関：奈良女子大学）により実施しておりますが、ライフワークバランスに対応した教職員全員の環境整備も重要です。

奈良高専を含む国立51高専の設置機関である独立行政法人国立高等専門学校機構では、企業・自治体・大学などと幅広く連携した事業として「高専発！Society5.0型未来技術人材育成事業」を展開しております。この事業は研究の高度化を目標としたGEAR5.0、次世代基盤技術教育のカリキュラム化を目標としたCOMPASS5.0の二つのプロジェクトで構成されています。奈良高専は、令和3年度からGEAR5.0防災・減災（エネルギー）分野の中核拠点校としての活動しております。全国各地域からの5高専が協力して高専のスケールメリットを活かした研究拠点を創り上げ、分散型エネルギーデバイス、物質変換技術、ICT・AI技術などの開発を推進します。GEAR5.0に先立ち、全学組織として「共通機器管理センター」を設置しており、この共創拠点をハードとソフトが融合する場として活用し、共同研究や産学官連携を進めていきます。

今後は、早期エンジニア教育機関である高専の利点を活かし、地域の高等教育機関と連携し、「高専発！高度エンジニアリーダーの育成」を目指します。社会実装力を強化するために企業との共同教育・共同研究を推進し、その果実をリカレント教育に繋げるダイナミックな人材育成の推進に向け、産官のご支援・ご協力を期待します。2022年4月に奈良女子大学に工学部が設置され、奈良教育大学と奈良女子大学とが統合して国立大学法人奈良国立大学機構が設立されました。今後は、国立高等教育機関として、協力体制を更に強めていきたいと思っております。奈良先端科学技術大学院大学とは専攻科との接続性の良さから長年に亘る多くの教育・研究交流実績があり、今後はさらに連携を深め高専専攻科と大学院大学の共創によるイノベティブ人材育成のためのシステム実現を目指します。

本報告書には、教育・研究・社会貢献などについての記載にとどまらず、多岐にわたる実績データを掲載しました。記載内容のみならず学校の管理・運営に関しても忌憚の無いご意見・ご批判をお待ちしております。今後とも、奈良高専が産業発展に資する人材育成を継続できますよう、一層のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

令和5年10月

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校長 近藤 科江

目 次

まえがき

本文編

第1章 重点課題, その他特筆すべき事項	1
1. 1 教務部門	1
1. 2 学生部門	5
1. 3 寮務・グローバル教育部門	8
1. 4 専攻科・研究推進部門	10
1. 5 総務部門	15
1. 6 その他	16
1. 7 管理運営等	20
1. 7. 1 運営組織	20
1. 7. 2 教員組織	23
1. 7. 2. 1 専任教員の配置(現員数)状況	23
1. 7. 2. 2 出身大学等の構成	24
1. 7. 2. 3 年齢構成	25
1. 7. 2. 4 採用・昇任等の手順・基準	26
1. 7. 2. 5 教員人事について	26
1. 7. 3 事務組織	27
1. 7. 4 自己点検・評価	28
第2章 学科総括	30
2. 1 一般教科	30
2. 2 機械工学科	31
2. 3 電気工学科	33
2. 4 電子制御工学科	34
2. 5 情報工学科	36
2. 6 物質化学工学科	38
第3章 研究活動	40
3. 1 教育研究支援室における研究活動	40
3. 2 研究ならびに研究支援以外の活動状況	40
第4章 奈良高専自己点検評価チェックリスト	47

資料編

第1章 教育に関する評価関係

資料1	入試説明会等状況	61
資料2	入学試験状況	63
資料3	編入学試験状況	64
資料4	令和4年度開講科目一覧表	65
資料5	令和4年度年間行事予定表	78
資料6	令和4年度授業時間割表（本科）	80
資料7	令和4年度特別講演会実施一覧	82
資料8	令和4年度第4学年対象進路セミナー実施一覧	83
資料9	令和4年度秋季社会工場見学，専攻科学外研修	84
資料10	年度別博士号取得者一覧	85
資料11	令和4年度クラブ顧問・部長・部員数一覧	86
資料12	令和4年度大会等成績一覧	87
資料13	学生会組織図	90
資料14	学生支援センター相談件数	91
資料15	令和4年度保健室利用学生数	92
資料16	令和3・4年度 学生事故発生件数	93
資料17	入学料免除者数	94
資料18	授業料免除者数	94
資料19	日本学生支援機構貸与奨学生採用者数	95
資料20	日本学生支援機構給付奨学生採用者数	95
資料21	進路状況	96
資料22	単車通学許可申請者	97
資料23	奈良高専学生関係事故等緊急時連絡ルート	98
資料24	学生委員会違反件数	99
資料25	寮生数推移調	100
資料26	学寮の日課表	101
資料27	寮生会の組織	102
資料28	令和4年度学寮の年間行事	103
資料29	専攻科入学者選抜方法	104
資料30	年度別専攻科入学状況	105
資料31	専攻科学力検査科目と学力検査の日時及び検査場（令和5年度）	106
資料32	令和4年度授業時間割（専攻科）	107
資料33	専攻科特別講演会	108
資料34	専攻科修了者の進路	109
資料35	JABEE修了者進路状況	112

資料36	専攻科入学者数の推移（専攻科）	113
資料37	企業・大学等インターンシップ参加者数（専攻科）	114
資料38	専攻科生の論文等の学会発表件数（専攻科）	115
資料39	専攻科生の学外表彰実績（専攻科）	116

第2章 研究に関する評価関係

資料40	科学研究費等受入実績調べ	119
資料41	科学研究費採択状況一覧	120
資料42	令和4年度 受託研究・受託事業・補助金事業一覧	121
資料43	令和4年度 共同研究一覧	122
資料44	令和4年度 奨学寄附金一覧	123
資料45	学会賞等の受賞状況	125
資料46	特許等申請・取得状況	126

第3章 社会との連携，グローバル教育，男女共同参画推進関係

資料47	公開講座実施実績一覧	129
資料48	令和4年度 学市連携事業一覧	130
資料49	令和4年度 学市連携以外派遣事業一覧	130
資料50	令和4年度 展示会・地域連携事業一覧	130
資料51	施設開放状況一覧	131
資料52	留学生年度別受入一覧表	132
資料53	国際交流 派遣・受入事業一覧	133
資料54	教員の兼業状況	134
資料55	非常勤講師の配置状況	134
資料56	教務部門アンケート関係	135
資料57	総務部門アンケート関係	136

あとがき

※凡例

本書は令和4年度実績を元に令和4年度末時点で点検・評価を行い、令和5年10月に発行したものである。

特に記載のない場合、本書において「昨年度」は「令和3年度」、「本年度」または「今年度」は「令和4年度」、「次年度」は「令和5年度」を指す。

本文編

第1章 重点課題, その他特筆すべき事項

1. 1 教務部門

教務委員会

1 教育の質保証

1-1 教育の質保証を踏まえた教育改革

1-1-1 教育の質保証重点6項目(5項目)の学内展開(継続)

- ・ポートフォリオ作成と試行, R6年3月のチェックと改訂依頼を教務委員会で行ったが, ①教員に対する直接の周知②学生への周知③教員から学生へのフィードバック法の検討が課題である。
- ・実験スキル表の作成・公開と後期からの試行を教員に依頼した。今後は学生の自己点検と教員から学生へのフィードバック法の検討が課題である。
- ・卒研, 実験・実習, 講義における分野横断的能力のMCC対応表を作成し, 不足する部分をR6年度新カリキュラムで正課外プログラムの正課化を行うことで対応できる見通しである。
- ・CBTの利用に加え, 教務データや入試データ収集を教学マネジメント推進事業で対応することで, データに基づく教育改善を実施した。
- ・ピアサポーターについては, 数学TA制度を再開するとともに, 学生部門における学生サポート体制の点検を実施した。
- ・データの一元化は, IR準備室において教務関係, 成績, 入試のデータの収集とデータベース化を開始した。

1-1-2 教学IR準備室との連携(新規)

- ・教務主事補1名が教学IR準備室員に加わり, モデルデータを用いて分析基盤の構築に協力した。また, 教学マネジメント推進事業における第3ブロック先行実施校としてブロック内情報交換会の開催等, 情報収集と共有に努めた。なお, R5年度からは, 教学IR準備室は教学IR室となる。

1-1-3 令和5年度からのカリキュラム改訂(継続)

- ・新MCCに完全対応できるよう, カリキュラム改訂年度をR6年度からにした上で議論を深化し, 科目配置の改訂を完了した。新カリキュラムでもクサビ型科目配当を堅持し, 可能な限り低学年の授業終わりの時間を合わせて放課後に自学自習のための時間が確保できるよう配慮した。

1-1-4 令和5年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラム申請に向けた対応(継続)

- ・全学科学生を対象とした数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを実施するため、学則の改正及び奈良工業高等専門学校数理・データサイエンス・AI 教育プログラム履修規程を制定し、実施体制の構築、運用を開始した。この教育プログラムで令和5年5月に文部科学省認定の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）に申請できるよう以下の準備を行った。

(1) 対応シラバスの作成と授業の実践

(2) 外部と内部による点検評価の実施

1-1-5 学生の自律を促す教育の実質化と環境整備（継続）

- ・コロナ禍で図書館等の自習空間を十分に解放できなかったが、今年度も定期試験期間中の静粛性向上および自学自習の環境整備を図るため、定期試験期間中の地域創生交流室・地域創生大講義室の開放、教室への入退室時間の周知と徹底、教室の見回り等の指導を行った。

1-1-6 ICT 教育の充実

- ・本年度も、全教科について Teams 上で教科・クラス単位のチーム作成を依頼し、遠隔授業への対応だけでなく、教材や課題提出等での利用を促した。来日できていない政府派遣留学生と新型コロナウイルス感染症対策として、必要かつ可能な教科から対面授業と遠隔授業のハイブリッド化を実施した。

R 5 年度より、高専機構の統一 LMS が WebClass に変更されることに合わせて、本科の全授業を WebClass に登録し、利活用可能な環境を構築することとした。

1-2 新制度の検証と教育改革

1-2-1 新学級担任制度（学年主任導入含む）についての点検・評価（継続）

- ・一般教科からの中間総括を受けて、専門学科から意見聴取した。1，2 学年の学級担任を一般教科教員が、3～5 学年の専門学科教員が担当することについては概ね好意的であったものの、一般教科と専門学科とのつながりの希薄さが指摘された。また、学年主任とその役割について、一般教科と専門学科との間に認識の隔たりが見られ、その役割については、人員削減の問題と相俟って、全学的にも更なる議論が必要である。

1-2-2 進級認定制度についての点検・評価（継続）

- ・R 4 年度から 2 年連続留年による退学規程を廃止し、在学期限を 10 年とする新たな制度に変更した。また、不可（A）指導の点検・評価と休退学・原級留置学生の原因を分析したところ、過大な不可（A）教科を抱えた学生が休・退学することが多く見受けられたり、4 年生の原級留置率が高くなったりしている等、学力不足学生が増加した可能性も示唆され、現制度の弊害も認められた。以上のことから、令和 6 年度か

ら低学年においても不可（A）科目を5教科・10単位以内とする進級要件を適用するよう進級認定規程を改正するとともに、学力を高めることで原級留置率を下げ、高学年で着実に力をつけた学生を輩出する方策に転換することとした。

2 教務部門関係業務の効率化とDX化

2-1 教務部門における関係業務の整理・効率化と分担・連絡体制の見直し（継続）

・非常勤講師の勤務時間管理を紙媒体から、Microsoft Forms を用いた方法に変更した。

2-2 委員会資料の電子化対応

・原則、電子媒体での提供可能な資料は電子化を行った。なお、電子書類配布が困難で回収を要する資料については共有画面の閲覧等に対応しており、紙媒体資料の配布は、審議において真に配布が必要な資料（入試判定と進級・卒業認定資料）に限って運用した。

2-3 Microsoft365 を利用した Web 入力による出欠管理システムへの移行（継続）

・後期から紙の出席簿を廃止し、オンライン出席簿を正式な出席簿として運用していくために12月に中間評価として意見聴取を行った結果、出席簿の電子化に関する異論はなく、オンライン出席簿への移行を正式に決定した。オンライン出席簿の入力の簡略化、視認性の向上についてはシステムの最適化を踏まえた検討が必要である。

3 新型コロナウイルス感染症対策（継続）

3-1 授業時間の確保と学修機会の保障

・本年度も、全教科について Teams 上で教科・クラス単位のチーム作成を依頼し、遠隔授業への対応体制を構築した。また、必要に応じて補講対応を実施するとともに、オンデマンドでの補講実施も可能となるようにした。

3-2 ICT 環境を利用した授業

・R5年度から、警報発令時の補講による授業補償を、ICTによる補講実施として促すこととした。

3-3 教務関連各種行事の検討

3-3-1 公開授業

・新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、7月と12月にそれぞれ1週間ずつ保護者への授業公開を実施した。参観する保護者は多く、大変好評であった。後期実施の授業参観では、保護者向けの授業参観（公開授業）アンケートを Forms によって実施し、集計・分析等の負担軽減を実現した。次年度以降は教職員向けのアンケートも同様の形に移行することが望ましい。

3-3-2 インターンシップ

・今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が残る中での実施となったが、公募制の企

業を含めて231件の募集案内をいただき、本科4年生98名が企業等での就業実習に参加した。今後においては、高専機構はインターンシップの受講率80%を達成目標としていること、経団連からインターンシップを採用活動に活用することについて要望が出されていること、等への対応が必要と思われる。

3-3-3 古典芸能鑑賞会とマリンバ演奏鑑賞会

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、古典芸能鑑賞会を10月に、マリンバ演奏鑑賞会を11月に開催した。鑑賞会の性質上、前者は第一体育館で、後者は大視聴覚室で開催した。特に後者は換気と学生同士の会話に注意しながらの開催となったが、問題なく開催できた。

3-3-4 社会工場見学

- ・10月21日(金)に第4学年を対象として実施した。1クラスはオンラインで実施し、4クラスは貸切バスで現地へ訪問した(第3学年以下は新型コロナウイルス感染症対策のため未実施)。R5年度は、4年以下の全クラスで実施できるように年間行事予定を立てた。

3-4 感染拡大防止策

- ・一部学級閉鎖を余儀なくされたクラスもあったが、感染防止対策(手指消毒、マスク着用、換気と黙食等)を徹底して全学年とも対面授業を実施できた。

4 入試関連

4-1 入学選抜制度(女性エンジニアリーダー養成枠、調査書点導入等)の検証(継続)と改革

- ・受験生の動向等を踏まえて女性枠のあり方を含めた改訂案を策定して企画会議に提出した。IR準備室と連携して検証を深めながら具体的な改革が必要であることを答申した。

4-2 入試業務の効率化

- ・入試業務に係るリソースを精査し、業務の信頼性を担保した上で、必要リソースをどの程度低減できるか検討し、省人数化を図った。

4-3 機構本部が実施する入試制度改革への対応

- ・入試のWEB出願への変更に伴い、入試に係る変更箇所を精査し、必要な対策を講じている。(例)入試システムの改修、出願書類の精査と募集要項の変更、マニュアル整備、中学校や受験生へ周知し、実施することができた。大きな混乱は生じなかったが、編入試験や専攻科入試での利用については様子を見た上で導入の是非を検討する必要がある。

5 その他

5-1 学生指導必携の改訂

- ・昨年度および今年度に改正等を行った規程や申し合わせ等に関する記述を変更・改訂した。

5-2 定期試験実施方法・16週授業などについての見直し

- ・昨年度は後期授業と夏季休業期間間に前期分の16週目の試験返却と解説期間を設けたが、今年度は、前期末試験後直ちに設けた。未検証ではあるが、早期返却は学生には効果的と考えており、次年度も今年度の学事日程を踏襲することとした。

教育支援センター

1 メディアリテラシーの向上(継続)

- ・e-Learning等によりメディアリテラシーの向上を図った。

2 利用環境の充実と利用の促進(継続)

- ・常に活動基準がレベル1以上であったため、情報処理演習室の積極的な利用促進は行わなかった。

3 その他(継続)

3-1 今後のICT環境の整備の方向性の検討

- ・ICT教育対応のための体制整備を行った。

3-2 情報リテラシー教育及び情報セキュリティ教育の充実

- ・学年ごとにe-Learningを進めている。リテラシーについては「情報リテラシー」科目の実施が始まっている。

3-3 無線LANの教育・研究への利用促進を考えたAPの増設・運用方針の整理

- ・無線APの増設に伴い運用方針の検討を行った。

3-4 図書館棟の施設・設備の利用促進

- ・今年度も活動基準がレベル1のままであったため、図書閲覧室は積極的な利用促進を行わなかったが、ラーニング commons の開放中にはその掲示を目立たせ利用促進を行った。

3-5 FABスペースの運用方針の整理

- ・運用方針の整理を行ったが、規程改正による業務の明確化は検討中である。

1.2 学生部門

学生委員会

- 1 感染防止指導や課外活動ステップの再点検など、新型コロナウイルス感染症対策の継続的な検討(継続)

- ・令和2年度に作成した課外活動の段階的な開始のための指針「課外活動のステップ」について、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じた課外活動とするよう内容の見直しを行い、運用を行った。また、これに合わせ「新型コロナウイルス感染防止のための奈良工業高等専門学校活動基準表」のレベルの内容についても見直しを行い運用した。
- 2 課外活動の方針および計画の公表や課外活動指導員の配置など、課外活動の運営指導体制の継続的な検討（継続）
- ・課外活動の活動時間管理について、令和3年度から「施設・設備使用許可願（兼月間計画表／活動報告書）」の運用を開始し、実際に活動した時間の管理ができる体制とした。課外活動指導員の配置については、全国および近畿地区高専の動向を窺いつつ検討を継続している。
- 3 セミナーや講演会を通じた学生生活の充実（継続）
- ・コロナ禍により学年集合形式の講演会については見送っているが、講師を招聘してTeamsを使ったライブ配信による講演をおこない、学生はクラスごとに受講教室を分けるオンライン分散方式によりセミナー等を行った。また、講演会の対象学年について見直しを行い、令和4年度以降、段階的に講演会対象学年を変更した。
- 4 学生定期健康診断における検診項目の点検（新規）
- ・学校保健安全法に基づく高専機構からの指摘により、耳鼻科を健康診断項目に追加することについて、近隣の高等学校等を参考に引き続き検討する。
- 5 学生生活環境に関する意見の聴取方法および改善について継続的な検討（新規）
- ・認証評価項目の1つとして、令和3年度に学生会を通じて学生から学生生活環境全般に関する意見聴取を行った。引き続き意見聴取項目や方法について継続的な検討を行う。
- 6 課外活動等における公欠基準の検討（新規）
- ・課外活動等における公欠基準が曖昧なため、引き続き検討を行う。
- 7 大和小泉方面からの自転車通学経路の点検と検討（新規）
- ・大和小泉方面からの自転車通学経路について、郡山警察からの指摘により地域住民の生活道路を通らないように見直し、該当学生全員に説明会を実施した。
- 8 学生生活の継続的な指導および学生の規範意識の向上と、自主的・自発的活動の涵養（継続）
- ・コロナ禍で必要となる規範意識の一つとして、学校生活に関する注意喚起や掲示、マスク着用に関する指導ならびに前期中は学生委員会による昼食時の黙食指導を行った。また、学生会を中心に、登下校状況の調査や学内クリーンキャンペーンを実施す

るなど、自主的・自発的な活動を継続的にサポートした。

9 奨学金など就学支援体制の強化と効率化（継続）

- ・日本学生支援機構給付奨学金在学採用等の奨学金関係の周知期間を1か月程度延長し、申請期間を確保するとともに、提出物及び提出期限を記載したチェックリストを申請者に配付するようにし、手続きの効率化を図った。また、周知方法においても本科生及び専攻科生用の各掲示板で周知していたものを集約し、奨学金専用の学生掲示板を設置することで支援体制の強化を図った。

学生支援センター

- 1 学生全体の心の状態の把握のために適当な時期にアンケート調査を実施する（継続）
 - ・全学生に対し、6月から7月にかけて適応感尺度調査を実施した。
- 2 令和2年7月に制定された「奈良工業高等専門学校いじめ防止等のための基本計画」及び令和4年度の「いじめ防止プログラム」に基づいて、いじめの防止に取り組む（継続）
 - ・5月・10月・1月に「いじめ防止週間」を設定し、学生に対して「いじめアンケート」を実施した。教職員については、「いじめ対応チェックリスト」を同様に実施した。また、12月2日（金）には「高等専門学校におけるいじめ防止について」と題する講演・ワークショップを教職員対象に開催した。
- 3 合理的配慮のためのフローに基づいて具体的支援内容を協議しながら対象学生の支援を実施する（継続）
 - ・配慮の申し出があった学生に対し、学生支援センター運営委員会にて具体的支援を協議し、必要な支援を行った。
- 4 学生支援センターの機能的な運営体制の構築について検討する（継続）
 - ・専任のセンター担当者の配置が無くなったため、かつての専任担当者が行っていた業務を、センター担当教員、事務職員、SSW等で分担して、行っている。併せて、令和4年度の体制での不具合の是正、効率化を引き続き検討する。
- 5 学生のメンタルヘルスを向上させる方策について検討する（継続）
 - ・1年生においては教室に向いて、支援センターの利用方法や仕組みの説明を行い、また支援センタールームを「心の休憩室」と名付け、学生のクールダウン等に利用できる環境であることの啓発活動を行った。
- 6 学生支援に関する情報管理と共有の在り方について検討する（継続）
 - ・学生支援に関しては担任との連携が重要であるが、センターとしての独立も確保する必要がある。これらの線引きの指針について引き続き検討中である。

- 7 人権教育およびいじめ防止対策について学外機関と連携して推進する（継続）
- ・人権・いじめ教育について、学外機関に講師を依頼し、講演を行った。

1. 3 寮務・グローバル教育部門

寮務委員会

1 安全な寮生活のための環境整備

1-1 推薦入試制度の変更（女性エンジニアリーダー養成枠）に伴い女子寮生数の増加が見込まれるため、女子寮生の定員増が具体化した際の寮の在り方について、規則や宿直の方法などの検討（継続）

1-1-1 令和4年度概算要求事業に申請（具体的には管理棟の7部屋を女子寮居室化することで女子寮生定員を増加）

- ・採択された結果を基にした改修工事の実施が完了した。

1-1-2 女子寮生への生活指導やケアを行っていただくために、寮務委員以外の女性教員の寮業務への協力を検討

- ・引き続き調査を実施する。

1-2 飛鳥寮・管理棟改修工事期間の寮生活の安全管理を徹底する。（新規）

- ・工事実施中は工事業者の作業空間を寮生の移動経路と分割し安全を保ち、事故の発生なく工事が完了した。

1-3 学寮定員管理の見直し（新規）

1-3-1 高学年（4, 5年生）の入寮定員を制限し、低学年（1～3年生）の入寮定員を増やす

1-3-2 人数を制限するための選考基準を設ける

- ・入寮基準の改正が完了した。令和5年度以降の新入寮生及び2年生在寮選考から予定通り基準に基づいて高学年の残寮選考を行う。

2 寮業務の効率化

2-1 教員の負担軽減を目的として、土日祝宿直の外注化の実現した際を見据え、宿直に関する規程や申し合わせの改訂（継続）

2-1-1 外注化の実現に向けて仕様書の充実を図り、委託先を探し見積りを依頼

2-2 教員の負担軽減を目的として、宿直業務内容の見直しを行う。（新規）

- ・他高専における土日祝日宿直業務の外部委託状況について各種資料の入手や視察による現場の確認などを行い、規程改正、外注のため準備を進めている。

グローバル教育センター

1 学術交流の活性化

1-1 短期留学生の受け入れ（継続）

1-1-1 ナンヤン・ポリテクニク（NYP），リパブリック・ポリテクニク（RP），香港 IVE，勤益科技大

- ・ 3月22～29日の8日間，協定締結校である NYP の学生 32名を受け入れた。

1-2 国際交流事業の推進（継続）

1-2-1 協定締結校との交流推進

1-2-2 海外 KOSEN 事業への支援

1-2-3 海外インターンシップ派遣先（2週間程度）の新規開拓

1-2-4 新型コロナウイルス禍においても学術交流の継続が可能な方策の検討

- ・ 協定締結校の NYP と 9～11月にかけてオンライン交流事業を行った。なお，3月に NYP に派遣で本科生 20名を募集したが集まらず，20名以下は費用が高額となるため実施を見送った。

2 国際教育の活性化

2-1 グローバルエンジニア養成教育プログラム（GEP）/グローバル工学協働教育プログラム（GECEP）事業の推進（継続）

- ・ 総務部門と連携し英語 HP の充実を図った。

2-1-1 関係委員会（寮務，学生，教務，専攻科，女性エンジニア養成推進等）と連携し実施

- ・ 特に教務委員会及び女性エンジニア養成推進委員会と連携し事業を進めている。

2-1-2 GEP，GECEP の評価

- ・ 関係委員会と連携し実施した。

2-1-3 正課科目への導入を含めた GECEP カリキュラム検討

- ・ WG で検討した結果，令和6年度カリキュラム改定にて正課内に組み入れ，GECEP ベーシックプログラムは新規科目，海外協働研修及び異文化交流で構成した新 GECEP とすることとした。

2-2 語学教育の推進（継続）

2-2-1 国際学会での学生の発表を促進

- ・ 国際学会での学生の発表を促進した結果，国際学会奨励金の申請数は16件であった。（昨年度15件）

2-2-2 TOEIC-IP テストの実施

- ・ 10/15・16に実施した。

2-2-3 英語学習表彰（優秀賞，奨励賞）の実施

- ・英語学習表彰を実施した結果，今年度は優秀賞を11名，奨励賞を14名が受賞した。

3 留学生指導

3-1 令和4年度の正規留学生の受け入れ（継続）

- ・国費留学生1名，マレーシア政府派遣留学生2名を受け入れた。

3-2 寮務係と連携した学業及び生活指導，グローバル教育プログラム事業への参加促進

- ・寮務係やチューターによる指導及びGECEP事業への参加促進を行った。

3-3 マレーシア政府派遣留学生のための集中講義支援

- ・1月16～20日に教員1名が現地マレーシアでの集中講義講師として支援を行った。

1. 4 専攻科・研究推進部門

専攻科委員会

1 連携教育による新たな人材養成のための教育プログラムの推進

1-1 豊橋技術科学大学との連携教育プログラムのフォローアップ（継続）

- ・豊橋技術科学大学との連携教育プログラム「先端融合テクノロジー連携教育プログラム」を履修している令和4年度入学生1名に対し，就学が円滑に進むように履修計画や共同開設科目の履修確保の確認，研究活動に係るフォローを継続した。
- ・令和6年度入学予定者に対し，ガイダンス等で概要説明を行うとともに研究マッチングを継続した。

1-2 奈良先端科学技術大学院大学との新たな連携教育プログラムの構築（新規）

- ・文部科学省により令和4年度予算化された「高等専門学校と大学の連携教育プログラムの構築支援」の事前調査経費が予算措置されたのを受けて，奈良先端科学技術大学院大学と専攻科との連携教育プログラム『高専専攻科と大学院大学の共創によるイノベティブ人材育成モデルの構築』の実現に向けて，検討メンバーを選定し，教育課程の制度設計や共創教育コースの設計等の検討を開始した。
- ・「高専と大学との連携教育プログラム構築支援事業」の一環で，本科3，4，5年生および専攻科1年生の計24名が，奈良先端科学技術大学院大学のオープンキャンパスに参加した。

2 専攻科特例認定にかかる取り組み

2-1 「研究力強化プログラム」のフォローアップ（継続）

- ・高専機構が令和2年度より実施している「研究力強化プログラム」に参画していた4名のプログラム対象者については，プログラムが修了し，2名の教員が「適」の追加

認定を受けた。

- ・今年度から新たに2名のプログラム対象者、1名の研究活動メンターがプログラムに参画し、「適」の認定を目指して、2年間にわたって論文投稿に向けた継続的な研究進捗管理と成果管理を行っている。

2-2 次回特例適用認定の審査に向けた準備（新規）

- ・特例適用専攻科における教育の実施状況等の審査については、令和5年度実施である旨、大学改革支援・学位授与機構より通知があった。
- ・提出書類作成のスケジュールを策定し、各種会議において教職員へ通知するとともに、教育の実施状況等に関する書類の作成を行った。

3 専攻科入試における Web 出願システムの導入（新規）

- ・令和5年度（令和6年度入学者選抜）での Web 出願システムの導入に向けて、募集要項への Web 出願に関する記載を進めてきたが、機構本部の方針変更により、導入を1年先送りすることとした。
- ・特に、専攻科入試が行われる5月の時点において、本科の入試を含めた綱領を定めることは困難であることが問題点として認識された。

産学協働・地域創生研究センター

1 奈良高専地域イノベーションコンソーシアムの充実（継続）

1-1 「特典」の見直し

- ・令和3年度に高専機構本部より指摘された対価とみなされる可能性がある規約と HP・パンフレット上の表記について、委員会で議論し、見直しを行った。令和3年度に実施した会員向けのアンケート調査及び分析も踏まえ、イノベーションコンソーシアムの目的やビジョン（地域創生、共創教育）に共感・共鳴する企業・団体に対して入会・支援を募り、会員となることで企業活動が活発化する具体的なイメージを持ってもらえるような書きぶりとした。特典の見直しを契機としてイノベーションコンソーシアムの目的や活動方針の明確化と、会員企業の支援を得た教育研究活動の活性化を図るための方策検討を行った。外部のコンサルタントを利用した見直しは今後とも継続して行う。

1-2 産学・地域創生事業の活動報告

- ・イノベーションコンソーシアム総会での新たな取り組みとして、会員企業に就職したOB・OGの事例を紹介と、GEARをはじめとする本校の取り組みを紹介するポスターセッションを行った。
- ・共同研究申請書の様式を変更し、企業の合意が得られる範囲で研究タイトル等を公表

できるようにした。

- ・researchmap への研究成果登録方法のルール化について議論を進めた。
- 1-3 イノコン会費（寄附金）を財源とした活動報告による寄附の増進
- ・若手・新任教員研究費補助制度に基づき、申請のあった3名の教員に10万円の研究費補助を行った結果、1名が本予算で英語校正を利用し、論文誌の採択につながった。次回の総会で成果報告を実施する。
 - ・研究クラスターや特色研究など、学校の特色となる研究に対して集中した支援を行うことを検討している。
 - ・高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業で構築する環境を利用した活動の持続的な財源として活用することを検討している。

2 3 組織統合に伴う業務整理と効率化（継続）

2-1 業務分担の整理

- ・共通機器管理センター発足後も旧産学交流室の申し合わせとして産学協働・地域創生研究センターが管理していた設備機器利用料金表とその運用方針に係る申し合わせについて、委員会で議論し、共通機器管理センターに移譲した。

2-2 定型業務のRPA化

- ・事務から教員宛に照会やデータ更新などを依頼する各種業務のうち、定型的なやりとりを行う部分について Teams の Power Automate 機能と Microsoft Forms を組み合わせたシステム化による自動化を進めた。発注した業者からシステムの納入があり、マニュアルの整備と運用方法の検討を進めている。

3 地域創生事業の推進（新規）

3-1 奈良市・奈良先端大との3者協定に対応する具体的活動の推進

- ・奈良女子大を含む4者による2度の協議で(A)起業機運醸成学生交流イベント事業、(B)共同研究・開発支援補助金事業、(C)理系OB人材と企業との就職マッチング支援事業の3件を議論しており、奈良市議会に対する予算申請案に反映して頂いた。
- ・協定に基づき奈良市サテライトオフィス誘致事業視察ツアーに2度協力し、内1回は本校での実施となった。
- ・奈良先端大主催の防災シンポジウムで本校の取り組みを紹介し、NHKのニュースで報道されたほか、その後の個別取材にもつながった。

3-2 自治体・企業との協定締結による共同研究推進、共創教育、寄附の増進

- ・自治体および金融機関からの協力を得て、以下の講義における連携教育を実施した。
 - (1) 地域と世界の文化論（専2）
 - (2) 地域社会技術特論（専1）

- (3) ビジネスデザイン (専2)
 - (4) 人間環境学 (本科5年)
 - (5) 政治・経済 (本科3年)
 - (6) 地域学 (本科5年)
- ・奈良市との3者協定に基づき、奈良市内企業との共同研究・機器利用・技術相談にかかる経費を補助(補助率3分の2, 上限100万円)する事業について協議し、奈良市議会での予算申請を準備中である。
 - ・大和ハウス工業株式会社と人材育成に関する連携を軸に打ち合わせを実施, COI-Next 協力依頼も申請に至らなかった。
 - ・公益財団法人寺田科学技術育英会助成事業の対象校への指定を受け, 今年度より年150万円の教育研究活動への助成を受けられることとなった。
 - ・新型コロナの影響で中止していた県内企業との産学交流会を再開し7月, 12月に実施した。合計で企業から15社22名, 県職員3名, 教職員18人が参加し, 産学連携, 共同研究に関する発表と質疑を設け, 共同研究の増進と意見交換を行った。

共通機器管理センター

- 1 センターの業務計画及び管理運営に関すること (継続)
 - ・学内の共用機器の選定を行った。多様な装置の維持管理についてマネジメント方針を来年度協議したい。
- 2 学内及び学外の機器共用推進 (継続)
 - ・全学共通マスタープランの採択により,
 - 光学-卓上 SEM 顕微鏡システム
 - 動的光散乱 - ゼータ電位計
 - レーザー共焦点蛍光顕微鏡
 の設置が完了し, 利用されている。今後も研究体制整備に尽力していきたい。
 - ・共同調達についても積極的に活用していく。来年度は共同調達により熱重量測定装置 (TG) が納品される予定である。
- 3 「機器共用」の高専モデルの構築への取組(継続)
 - ・高専機構研究推進本部会議において, 共通機器のガイドライン規定について, 奈良高専を含む4名がワーキングメンバーとして選定された。これまでの取り組みで得た経験値を元に高専モデル構築を担うこととなり, 引き続き検討していく
 - ・N I I 「AI 等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」ユースケースに採択され, 年度内のシステム構築を実施する。

- ・液体 He 問題について SHARE ネットワークを活かしてサポートする体制を検討しており、本取り組みについてはアントレプレナー事業にも密接に関係するのでセンターとしても本事業のバックアップをしていく必要がある。

4 組織力の強化(規程改正) (継続)

- ・ガイドラインと合わせて引き続き規程改正の検討を進めていく。

研究推進

1 科研費獲得に関する分析と計画の検討 (継続)

1-1 傾斜配分制度の更新, 若手・新任支援制度の設置による効果分析と改善

- ・科研費の申請, 評価結果による傾斜配分制度により, 今年度の傾斜配分が行われた。傾斜配分制度の更新以外の施策による効果も含まれるが, 今年度の申請率は 8.1% であり, 過去 5 年間の平均 (7.4.1%) を上回っている一方, 採択率は 12.1% と過去 5 年の平均 (16.2%) より低かった。
- ・若手・新任教員研究費補助制度に基づき, 申請のあった 3 名の教員に 10 万円の研究費補助を行った。うち 1 名について, 本支援を用いた英語論文誌の校閲を行っており, 採択につながった。年度末の成果報告を受け, 効果を分析する。

1-2 採択率向上に関する検証・分析・方策の検討

- ・昨年度申請の内, 不採択だった申請の評価を分析した。若手への申請 6 件中 5 件が不採択であり, そのうち 4 件が C 判定であった。また, 未申請者の 70% が講師・助教であることから, 若手教員に対する, 申請書の事前レビューやグループ化によるベテラン教員からの補助などの支援が必要である。また, 全体で A 判定が 6 名おり, 支援による採択の見込みが高いと思われる。
- ・令和 5 年度の申請について採択率が 12.1% と過去 5 年の平均 (16.2%) より低下しており, 学内での相互査読や添削などの補助が必要である。

2 GEAR5.0 未来技術の社会実装教育の高度化 (継続)

- ・令和 4 年度 Gear5.0 の中間報告会では, 先の改善点と他高専との効率的な連携実績により, 高評価を得た。引き続き, 同事業を推進し, 高専の社会実装力について認知度を向上させられるように尽力していきたい。中間報告後に, Gear メンバーに向けて取り組みと評価について報告した。佐世保ユニット (谷口ユニットサブリーダー) との連携もあり, 教育関連での学内連携例も増加している。

1. 5 総務部門

総務委員会

- 1 将来計画の立案(継続)
 - ・1月に動画により説明, 意見を求めた。2月下旬, 3月上旬に意見を求め暫定案として提出した。
- 2 継続的な教育の質保証の実施(継続)
 - ・内部質保証に係る以下の点検評価を実施した。
 - (1) 卒業生・修了生アンケート
 - (2) アドミッションポリシーの適合割合の確認(1年学級担任, 専攻科1年指導教員対象)
 - (3) 内部質保証に係るカリキュラムレベル点検(学科主任対象)
 - (3)については, 継続的な改善のため, 学科主任からの点検要望事項を各部門などに割り振り, 来年度以降, 対応状況等についての報告を求めることとした。
 - ・「奈良高専の質保証についてのガイドブック」(案)を作成し, 次年度委員会に引き継いだ。
- 3 FDの充実(新規)
 - ・学内外より講師を招き, 各種FDを行った。詳細は別紙参照。
 - ・アドミッションポリシーの適合割合の確認(学科主任対象)の設問に, FDに関する項目を設けた(FDが適切になされているか, 今後のFDへの要望等)。出された要望等を次年度の実施計画の参考とする。

広報センター

- 1 広報戦略の立案(継続)
 - ・広報戦略を立案し, 来年度以降の広報活動の指針とした。
- 2 本校公式ホームページのリニューアルの検討(継続)
 - ・年度内にWeb業者の見積もりをとる予定であったが, 実施できなかった。
- 3 本専在学学生・保護者への効果的な広報の検討(新規)
 - ・来年度に向けた改定の取り組みも行っている。
- 4 高専制度創設60周年に関する広報活動の実施(新規)
 - ・ホームページにバナーを掲載した。

1. 6 その他

教育研究支援室

1 新体制の整備

1-1 業務の効率的・効率的運用のための人員配置(新規)

- ・人員配置の見直しについては、当初の計画通り配置する事は出来たが、5月から募集している育休代替職員が未採用のまま年度末を迎えたことから、各技術職員の授業支援や、設備等の維持管理業務を新体制の人員配置で分担することが出来ていない。
- ・新規採用技術職員については、順調に業務内容を把握し、求められるスキルの習得にも積極的な事から、次年度も引き続き現状の体制での育成を継続する。

1-2 業務内容の把握・整理（依頼申請書による業務、および依頼申請書を必要としない業務の精査と確認）（継続）

- ・教育研究支援室設置規程等の改正を検討しており、業務の依頼や審議の流れを再確認している。
- ・業務支援依頼の流れについても、教育研究支援室設置規程等の改正に伴う変更を反映させる目的から、書類作成作業は保留となっている。

2 教育支援センターとの連携強化

2-1 FAB スペース設置の設備機器管理体制の整備(新規)

- ・現状、何も進んでいない状況である。来年度以降の進展を目指し、関係部署と協議する必要がある。

2-2 学生向け「パスワード関連相談窓口」の整理(新規)

- ・ネットワーク機器の更新が2023年3月に変更になったことで進展はない。

2-3 実習工場の運用を【教職員が協働で行う】体制の構築（新規）

- ・施設設備の管理と予算管理を教育研究支援室から教育支援センターへ移行する。
- ・業務・運用体制は、施設設備に関する事案を教育支援センター管轄とし、そこで技術職員が携わる事案については教育研究支援室が支援する体制で整理を進めている。

ダイバーシティ推進委員会

1 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）（継続）

1-1 女性研究者の研究力向上を図るための体制及び取組内容

- ・年2回開催されたダイバーシティ推進センター運営委員会及び連携機関長会議に参加し、事業に関する事項を決定している。また、ほぼ毎月開催された実務者会議にも出席し、関係機関との連携を図った。
- ・「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」に参加し、連携を

行った。

- ・奈良女子大学が運用している保育システムの共同利用を推進し、学内で新規1名の利用があった。
- ・新任女性教員を対象に女性教員研究環境支援として研究費支援を実施したが、今年度は応募がなかった。次年度以降、対象者については制度の周知と説明を十分行うことが必要である。
- ・高専教員職体験(インターンシップ)の受け入れは中止した。次年度以降、実施については再検討する。

1-2 女性研究者の上位職への登用に向けた取組

- ・高専機構または他機関主催の講演会等について女性教員に限らず、学内教職員にも周知し、参加を促した。

1-3 連携機関等の研究者への支援を通じた好事例の展開

- ・男女共同参画推進委員会のホームページから、ダイバーシティ推進委員会のホームページへと変更を行った。コンテンツの更新頻度が低いことが問題である。次年度は、コンテンツ更新頻度を増やし、積極的に情報発信をしていきたい。
- ・本校と奈良女子大学、武庫川女子大学で制定した優秀な女性研究者への研究賞を継続実施したが、本校から今年度の応募はなかった。
- ・共同研究スタートアップ支援を3機関連携で共同実施し、共同研究者として参加している課題が1件採択された。

1-4 意識啓発や組織改革等を図るための取組

- ・2月21日に神戸大学大学院経営学研究科 教授 上林憲雄先生を講師に招き、SDGs時代のワークライフバランスをテーマとし、講演会(ライブ、オンデマンド配信)を開催した。さらに、希望のあった他高専等へも同様に配信し聴講があった。(参加者:教職員56名)
- ・シンポジウム、研修会への参加を促すとともに、ニュースレターを配布する等ダイバーシティに関する意識の啓発を行った。
- ・女子学生および女性教職員対象に、10月と1月にそれぞれ Teams 実施あるいはメールで要望を集約した。すぐに対応が可能なものについては、各担当部署と情報共有を行った。また、例年要望の多いトイレに関しては、施設整備委員会に要望として出し、トイレ整備方針の一部に反映していただいた。

1-5 女子学生・女性研究者向けキャリアパス支援の取組

- ・女性エンジニア養成推進センターの協力のもと、研究力向上およびリーダー養成のため、リーダー養成セミナー(きららかセミナー)を10月から1月まで5講座、9回

開催し、関係機関に告知したところ、1機関1名の参加があった。

- ・高専女子フォーラム in 関西を12月10日（土）に3年ぶりの対面で実施し、発表学生16名、学生スタッフ2名の参加があった。

女性エンジニア養成推進センター

- 1 しなやかエンジニア教育プログラムベーシックコースの円滑な実施（継続）
 - ・予定通り円滑に実施できた。
- 2 しなやかエンジニア教育プログラムアドバンストコースの円滑な実施（継続）
 - ・予定通り円滑に実施できた。
- 3 プログラムの教育成果の発信による認知度の向上（新規）
 - ・プログラムのための動画を作成中である。
- 4 1期生修了後のプログラムの在り方の検討（新規）
 - ・プログラム履修生の募集をR5年度入学生で終了し、教育成果を一般科目化することを決定した。
- 5 奈良高専アクティブコモンズの創成事業の実施
 - ・工事を行っている。利用の大体の方針を年度内に確定し、学生委員会に引き継ぐ。予算が足らずに半分ほどの機能しか実現できなかった。

施設整備委員会

- 1 講義棟，電子制御工学科・専攻科棟の改修計画の策定（継続）
 - ・改修計画を立てて，機構本部に提出した。
- 2 講義棟，本館北棟，専攻科南棟，総合情報センター棟の4つの総合的な計画の立案（継続）
 - ・専攻科南棟の工事がR5年以降になったこともあり，総合的な議論ができなかった。
- 3 学寮改修の実施（新規）
 - ・2月15日に完成した。
- 4 奈良高専アクティブコモンズの創成事業の実施
 - ・3月9日に完成した。

人事管理

- 1 第4期教員人員枠（教育体制整備）に基づく人事マネジメント（継続）
 - ・第4期中期目標・中期計画期間基礎人員枠については引き続き達成している。
 - ・2学科から各1名の教員を校長預り枠（情報関連業務及び共通機器管理業務）に継続

配置した。

- ・電気工学科で定年退職者の補充による公募を行い，10月に採用が決定した。
 - ・校長預かり枠を活用し，電気工学科及び電子制御工学科で女性教員限定公募し，電気工学科において新規採用が決定した。なお，機械工学科・電子制御工学科については，女性教員限定公募での採用には至らなかった。
- (・R4年度に引き続いてR5年度も休職となる教員2名について，代替人員の採用を決定した。)

2 働き方改革関連法の対応（年休5日取得，長時間労働者の健康管理）（継続）

- ・人事係より教職員向けに年休取得に係る通知を適宜発信した。
- ・超過勤務削減のため，部活などの課外活動の運営体制や入学試験や行事などの動員体制の見直し，会議時間の短縮について，各担当部署での検討を指示し，対策原案を策定し運営会議に報告した。また，可能な項目から順次実施するとともに，次年度も継続して検討することとした。

学内管理運営

1 危機管理マニュアルの整備（感染症対応の整備）（継続）

- ・国・地方公共団体の情報を速やかにキャッチし，感染症対応を含む危機管理マニュアルを整備した。

2 行事等の削減，見直し（継続）

- ・10月企画会議にて土日出勤の軽減方策の検討を校長より各部門長に指示し，12月，2月及び3月の同会議にて検討を行い，土日出勤の軽減を図った。

2-1 会議準備業務の効率化（ペーパーレス化会議の拡大）（継続）

- ・ペーパーレス化会議の拡大を含む会議準備業務の効率化を図った。

2-2 会議進行の見直しによる会議時間の短縮（新規）

- ・教職員会議において会議時間短縮を念頭に置き進行していることで会議時間を短縮できた。他の会議や委員会においても会議時間短縮を念頭に置き進行するよう広めることで，多数の会議や委員会の会議時間短縮を図った。

情報セキュリティ関係

1 情報セキュリティに関する啓蒙(新規)

- ・前期に引き続いて新規採用者に対しては「奈良工業高等専門学校情報倫理ガイドライン」を配布し，既に赴任されている教職員に対しては誓約書提出時や情報セキュリティインシデント対応訓練等での未報告者に対する所属長からの聞き取り調査，機構

本部や公的機関提供の教材を利用した本校の情報セキュリティの実施、未受講者（教材へのアクセス記録の無い者）への受講の督促等、受講者の受講完了のサポートを行った。

- ・1月に発生した情報セキュリティ（メールアカウントハッキング、フィッシングメール詐欺被害）発生時において、機構本部から指示のあった緊急対策について確実に実施するよう周知するとともに、誰もが被害にあう可能性があり、各自が日頃より対策を行うとともに、対策についてわからないことがあれば、各学科の情報セキュリティ推進員へ確認する等の注意喚起を行った。

2 情報関係規程等の整備(継続)

- ・機構本部からの『令和4年1月31日付高機第70号「情報関係規程のひな形の修正に伴う規程の改正依頼について(通知)」』の通知に基付き、本校「情報セキュリティ管理規程」「情報セキュリティ推進規程」「情報セキュリティ教職員規程」について、改正が完了した。

その他特記案件

1 寄附金取扱規則等の改正への対応

- ・寄附金取扱規則の改正について、事務担当者間にて改正案のたたき台を作成し、事務手続きを洗い出し、産学協働・地域創生研究センターにて改正案等内容の審議を行い、本校としての方針を定めた。
- ・押印見直しにより、規則改正については対象となる押印廃止の規程の確認作業を進め、規則改正の検討を行った。

2 安全保障輸出管理制度の整備

- ・特定類型該当者が受講するシラバス掲載の各授業科目や卒業研究発表会等の該非確認のため、各学科主任等から提出頂く事前確認シートの提出先を各事案を所掌する事務担当係に事前確認シートを提出して頂くべく、事務取扱要項を作成した。

1. 7 管理運営等

1. 7. 1 運営組織

H30年度に人員削減への対応、また学内業務の効率化、教員業務の平滑化、責任体制の明確化、運営体制の強化及び特色化等を目的として、全学委員会と5部門（教務部門、学生部門、寮務・グローバル教育部門、専攻科・研究推進部門、総務部門）に組織される委員が兼務となる体制に再編し、運営を開始した。R2年度から再編後の運営体制について検証及び運営組織の最適化を始め、優れた点として業務分担が明確となったこと、委員

会数の削減が進んだことが挙げられる一方、改善すべき点として教員個人の業務軽減、情報共有、構成員からの意見の吸い上げがされていないこと及び部門横断的な業務に係る連携が不十分であることが挙げられた。要因の一つとして、令和元年度からの第4期中期目標・計画期間における人員枠の適用により、専門学科の教員枠が削減され部門兼任が必要となったことが考えられたため、R3年度に各部門の人員構成の一部見直しと総数の削減を行い、R4年度には産学協働研究センターと地域創生研究教育センターを統合した産学協働・地域創生研究センターならびに共通機器管理センターを専攻科・研究推進部門管轄とした。

5部門以外においては、R元年度に第1学年の学年主任を新たに配置し、学生指導の面において学科の枠を超え学年を通して指導方針を統一したほか、施設整備委員会委員に3主事及び事務部長を追加し、施設整備計画を学内で共有できる体制とした。また、将来計画委員会と点検・評価委員会を総務委員会に統合し、組織体制を整えた。

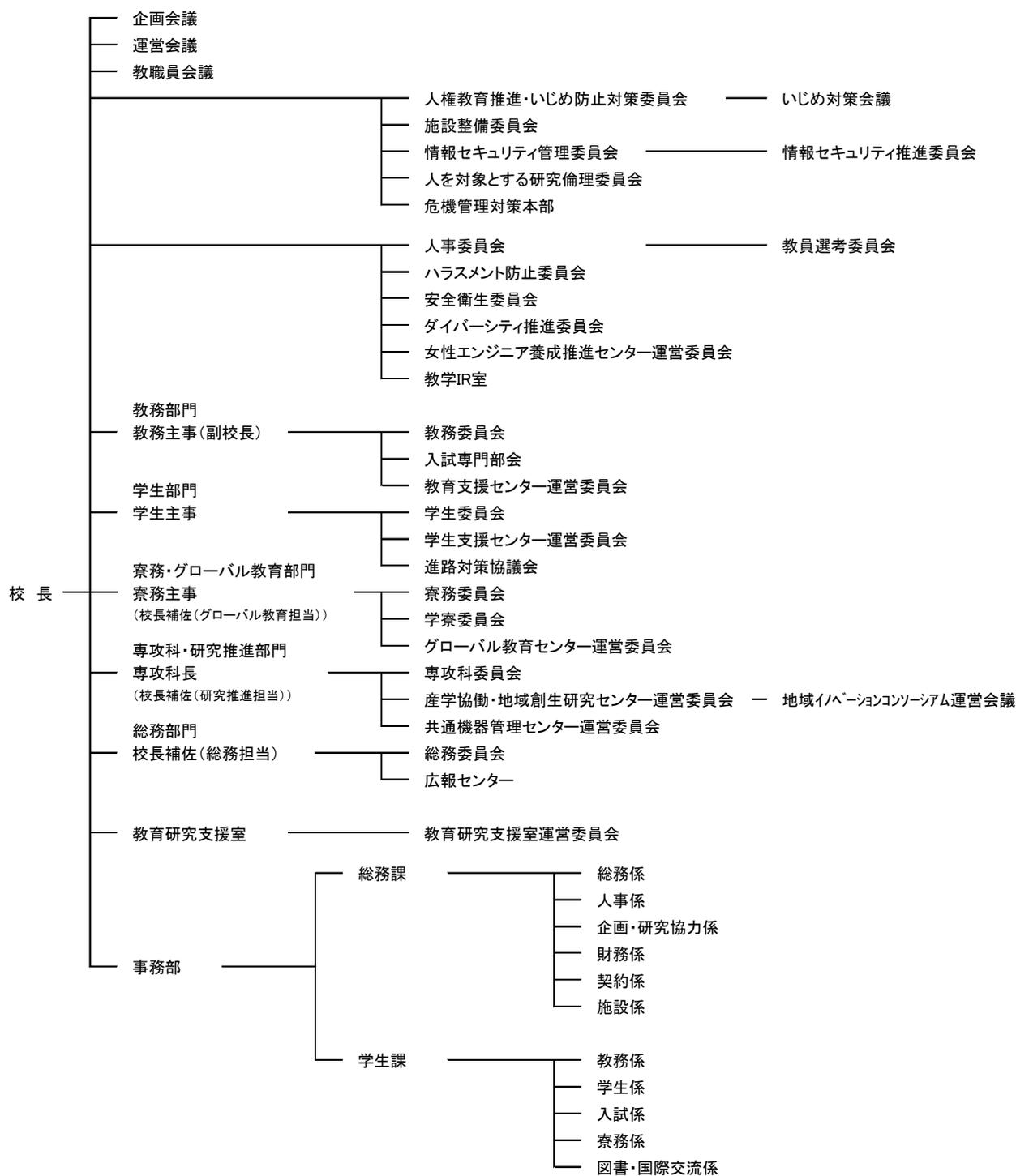
R2年度には、学年主任を第1学年だけでなく第2学年にも配置し、また研究設備・機器の共用化を促進させるため、共通機器管理センターを起ち上げた。さらに業務合理化及び業務に応じた人員の適正配置のため、事務組織においても図書・国際交流係を設置し、組織体制を整えた。

R3年度に教育の質保証定着を目的として教学マネジメント機能を有する学内組織体制の強化策を検討した結果、これまで蓄積されたデータを活用することにより、本校が取り組んできた教育の効果を評価することが不可欠であることから、R4年度に教学IR準備室を設置した。また、同年、男女共同参画推進委員会からダイバーシティ推進委員会への組織名称ならびに審議事項の変更を行い、既存の校務分掌（男女共同参画に関すること、女性研究者の養成支援や女子学生のキャリア支援等の裾野拡大）に加え、他部門からの要請に基づくダイバーシティ推進に係る事項の調整に関することが盛り込まれ、学生や留学生支援等も対象となるよう範囲が拡大された。

※R5年度の運営組織図を次ページに示す。

R5年度の運営組織図

奈良工業高等専門学校運営組織図(令和5年度)



1. 7. 2 教員組織

1. 7. 2. 1 専任教員の配置（現員数）状況

本校教員数の配置（現員数）は次のとおりである。

（令和5年5月1日現在）

所属 職名	校 長	一般教科	機械 工学科	電気 工学科	電子制御 工学科	情報 工学科	物質化学 工学科	合 計
校 長	1							1
教 授		6	6	3	3	5	6	29
准教授		9	2	4	4	4	6	29
講 師		3	0	1	0	0	0	4
助 教		6	0	2	2	1	1	12
合 計	1	24	8	10	9	10	13	75

※その他に次の教員が在籍。

電気工学科 嘱託准教授 1 名（短時間再雇用教員）

1. 7. 2. 2 出身大学等の構成

本校教員の出身大学等の構成は、次のとおりである。

(令和5年5月1日現在)

大 学 名	人数	大 学 名	人数
北海道大学	2	山口大学	1
東北大学	2	徳島大学	1
千葉大学	1	九州大学	1
東京大学	1	佐賀大学	1
東京農工大学	1	熊本大学	1
電気通信大学	1	宮崎大学	1
金沢大学	2	琉球大学	1
北陸先端科学技術大学院大学	1	富山県立大学	1
岐阜大学	1	大阪府立大学	3
豊橋技術科学大学	5	大阪市立大学	2
名古屋工業大学	1	神戸市立外国語大学	1
名古屋大学	1	法政大学	1
京都大学	4	同志社大学	4
奈良教育大学	4	立命館大学	1
奈良先端科学技術大学院大学	4	関西大学	1
大阪大学	11	近畿大学	1
神戸大学	4	大阪電気通信大学	1
広島大学	1	関西学院大学	1
鳥取大学	1	外国の大学・その他	2
岡山大学	1	(うち本校卒業者)	7

1. 7. 2. 3 年齢構成

本校教員の年齢構成は次のとおりである。

全教員75名の平均年齢は47.8歳であり、そのうち教授(29名)は55.0歳、准教授(29名)は46.2歳、講師(4名)は39.3歳、助教(12名)は35.6歳である。

(令和5年5月1日現在)

年 齢	校 長	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	合 計
67							0
66							0
65	1						1
64		1					1
63		1					1
62		2					2
61		2	1				3
60			1				1
59		4	1				5
58							0
57		2					2
56		3					3
55							0
54		4	1				5
53		1	1				2
52							0
51			2				2
50		3			1		4
49			1				1
48		3	2				5
47		2	2				4
46		1		1			2
45			4				4
44			3				3
43			2				2
42			1				1
41			1				1
40			2	1			3
39			1				1
38			2		1		3
37			1		2		3
36				1	2		3
35				1			1
34					3		3
33					1		1
32					1		1
31							0
30							0
29							0
28							0
27							0
26					1		1
合計	1	29	29	4	12	0	75

1. 7. 2. 4 採用・昇任等の手順・基準

教員の採用・昇任等については優秀な人材をより公正に選考するため、校長の諮問機関である人事委員会において、採用の場合は教員選考委員会から、昇任の場合は学科から推薦のあった任用候補者について、奈良工業高等専門学校教員選考基準を踏まえて審査している。

1. 7. 2. 5 教員人事について

新規採用については、教員の退職等に伴う補充人事であるのが一般的である。したがって、当該教員の専門分野を継承する人材の採用が原則となっている。一方、H29年度以降は学生支援専任教員や女性エンジニア養成推進センター担当教員を採用する等、全学的な重点課題へ対応するための新たな教員人事も行っている。

H30年11月には、優れた人材の確保及び教員の採用・昇任等選考体制における公正性・透明性を担保する観点から、人事委員会の下に教員選考委員会を新設した。当委員会において公募要領の作成並びに応募書類及び面接（模擬授業を含む）により、候補者の選考審査を行うこととした。採用にあたっては採用予定者を人事委員会へ推薦し審議する。人事委員会の承認後、校長が最終的な決定を行っている。

R4年度に実施した電気工学科の女性限定公募では、博士号を持っていない候補者を初めて、任期付きの助教として採用した。3年以内に博士号を取得できれば無期雇用に変換する。この制度を使っただけの初めての採用であった。これも人材確保のための有効な手段であると考えられる。

なお、独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標にも掲げられているとおり、優れた教員を確保するため、教授、准教授について本校以外の勤務経験者、長期海外研究・経済協力者の占める割合を向上させることや、高専のみならず、大学を含めて採用校以外への人事交流を活性化させること等が必要である。

1. 7. 3 事務組織

本校における、事務部職員の配置状況は次のとおりである。

(令和5年5月1日現在)

課名	係名	部長	課長補佐・ 専門職員		主任		一般職員		看護 師	計	再雇用・ 有期雇用・ 非常勤					合 計		
			事務系	技術系	事務系	技術系	事務系	技術系			事務系	技術系	再雇用職員	事務補佐員	技術補佐員		技能補佐員	臨時用務員
	部長	1																1
総務課	課長	1									1							1
	課長補佐		1								1							1
	総務係				1		1				2		1					3
	人事係				1				2		3							3
	企画・研究協力係				1		1		1		3						1	4
	事務電算担当				1						1							1
	専門職員				1						1							1
	財務係				1		1		1		3		1					4
	契約係					1		2			3		2					5
	施設係					1		1			2							2
	計	1	1	0	8	0	6	0	4	0	20	0	4	0	0	0	1	25
学生課	課長	1									1							1
	課長補佐		1								1							1
	教務係				1		2		1		4		1				1	6
	学生係				1		1		1		4	1	1				1	7
	寮務係								1		1		2		4	1		8
	入試係						1				1							1
	図書・国際交流係				1						1	1	3				1	6
	計	1	1	0	3	0	4	0	3	0	13	2	7	0	4	1	3	30
教育研究支援室				3		6				2	11			3				14
一般教科											0		1					1
機械工学科											0			2				2
電気工学科											0		1					1
電子制御工学科											0		1	1				2
物質化学工学科											0			1			1	2
合計		3	2	3	11	6	10	0	7	2	45	2	14	7	4	1	5	78

1. 7. 4 自己点検・評価

本章においては、管理運営等にかかるこれまでの取り組みを自己点検・評価し、次年度以降の課題を明確にして、その改善を図る。

○運営組織について

- ・ H29年度に国際交流委員会と留学生委員会をグローバル教育センター運営委員会に統合し、更なるグローバル教育推進のための体制を整えたことは、高専機構が重要事項として掲げている「国際化」に対応しており、優れた取り組みである。
- ・ H30年度に校長補佐にグローバル教育，研究推進，総務の各担当を新設し、それぞれ寮務・グローバル教育，専攻科・研究推進，総務の各部門を担当することにより責任体制を明確にし、運営体制の強化をもたらしたことは評価できる。
- ・ H31年度に第1学年における学年主任の新たな配置による学科の枠を超えた学生指導方針の統一，施設整備委員への3主事及び事務部長の追加による施設整備計画の学内共有体制の確立及び将来計画委員会と点検・評価委員会の総務委員会への統合は組織体制の強化をもたらした。
- ・ R2年度に第2学年にも学年主任を配置し、更なる学生指導方針の統一を図ることができた。また、全学組織として設置した「共通機器管理センター」が保有する共用機器を学内外で利用可能な体制を整備するとともに、「先端研究設備整備補助事業」による設備の遠隔化・自動化と、「阪奈機器共用ネットワーク」への参画による学外機関との共用化を進め、さらなる共同研究や産学官連携の推進を強化した。

○教員組織について

- ・ 教員の出身大学等は、北海道から沖縄までの国公立大学及び外国の大学と幅広く、多様な人材により構成されていることがわかる。なお、教員の年齢構成は全世代間に広がっていることから、適正であると判断できる。
- ・ 採用等に関しては、広く公募を行い本校選考基準に基づき選考をするとともに、模擬授業を行わせることで、研究実績だけでなく、講義力のある優秀な人材の確保を図っている。
- ・ 人事委員会の下に教員選考委員会を新設することにより、優れた人材の確保及び教員の採用・昇任等選考体制における公正性・透明性を担保している。
- ・ 女性教員の採用・登用の促進等，男女共同参画推進を図るための継続した取り組みとして、第4期中期目標・計画期間における教員人員枠を考慮に入れながら、各学科の基本人員枠を設定するとともに、当該人員枠を超過したポストを校長預かりポストと

して管理し、当該ポストを女性教員限定公募に使用することにより女性教員の増加につなげていることは評価できる。

- ・ R3年度に新任女性教員を対象としたスタートアップのための研究費支援を実施すべく、「女性研究者環境支援プロジェクト実施要項」を制定し、女性教員の研究環境及び研究力向上を図っている。（令和3年度2名採択、令和4年度1名採択）
- ・ 他高専及び他機関の教育研究活動に従事させることにより教員の能力を高めるべく、「高専と両技科大との教員人事交流制度」等の活用による更なる人事交流の推進が必要と考える。教授昇任の要件の1つとして「当該人事交流経験者」を要件に加えるなどの方策が必要である。

○事務組織について

- ・ 事務職員においても組織の活性化や個人の能力を高めるべく、大学などの他機関や近隣国立高専との積極的な人事交流が必要と考えているところではあるが、近隣大学の人事交流縮小（大学内での人材育成への方向転換等）の影響を受けており、人事交流を実施できていない状況であるが、他機関への積極的な働きかけを継続する。

第2章 学科総括

2.1 一般教科

一般教科では、幅広い視野と教養、豊かな人間性とコミュニケーション能力、創造力と実践能力を有した技術者を育成するため、各専門学科と連携しながら教育実践を行っている。本科での5年間、あるいは専攻科2年間を含む7年間にわたる専門教育を確実なものとするために、特に本科低学年における基礎学力の獲得に重点をおいた指導を心掛けてきた。この「基礎学力」の定着のためには、通常の授業における学習に加え、自学自習の習慣付けを欠かすことができないため、日頃から適切な課題を課すなど地道に指導を行い、また各学生の必要性に応じた補習や補講も実施している。併せて、一般教科の教育実践に必要な物理実験室、応用物理実験室、化学実験室、学習指導室、体育館、25mプール、武道場、運動場、テニスコート、地域創生交流室などの各種施設の環境整備・維持管理を行い、また、地域のイベントに参加するなど、教育・研究の地域還元も積極的に行っている。以下、令和4年度における一般教科の専任教員23名（うち、育児休暇取得教員1名）にて行った重点的な取り組み、およびその状況について述べる。

1) 令和4年度の重点取り組み課題

- ① 低学年教育の充実（継続）
- ② 就職／大学編入学に関する相談や支援（継続）
- ③ 令和6年度のカリキュラム改訂へ向けた一般教科カリキュラムの見直し（継続）

冒頭にもあるとおり、①、②については一般教科の性質上、常に一般教科の（最大の）重点的取り組みとなる。その2つに加え、令和6年度のカリキュラム改訂に向け、令和3年度から行っている一般教科カリキュラムの見直し・改訂を完了させることを、令和4年度における重点的取り組みとした。

2) 重点取り組み課題の達成状況

- ① 数学科では1年生を対象とし、毎週1回、放課後に数学担当教員の指導のもとで非常勤講師や専攻科生のティーチングアシスタントも配置して補習を行っている。また、英語科では成績不振者対象の補習授業や、海外派遣・留学生受入などの国際交流事業プロジェクトに対応した学生指導（英語プレゼンテーション指導なども含む）を実施している。
- ② 進学に関する相談や指導に対し（また①に関連する低学年指導に対しても）、各教員はオフィスアワーはもちろんのこと、それ以外にも放課後等に相談や質問を受け付け、指導を行った。特に大学編入学指導に関しては、物理科においては平成23年度から大学編入学を希望する4～5年生を対象とし、放課後に定期的に編入問題への対応を中心としたハイレベルな補講を実施している（ただし令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策

のため、集合形式ではなく文章による指導を行っている)。その他、英語科、数学科、化学科においても、編入学試験に関する質問に随時対応しており、また、文系科目、特に国語科を中心に就職・進学に必要な小論文指導や志望理由書・手紙の書き方等の相談に応じ、本校が就職・進学を高いレベルで維持していることに貢献している。

③ 本科5年間にわたるバランスの良いカリキュラム構成と授業形態を構築し、また令和5年度から適用されている新しい「モデルコアカリキュラム」に対応するため、令和6年度からのカリキュラム改訂が予定されており、これに合わせて、一般教科の現行のカリキュラムの見直し・改訂を行った。専門学科が行っている教育をより強固なものにするため（例えば数学や物理の授業構成の見直しなど）、また一般教科が考えるよりよい教育の実践（例えば国語科において文書作成の指導を現行よりも低学年に配置することなど）や法律の改正などへの対応（例えば社会科における成人年齢の引き下げのための教育や選挙教育など）にも配慮し、全般的なカリキュラムの見直しを行っている。併せて、芸術科目や保健体育教育の在り方を議論し、また、サブプログラムの成果を用いた分野横断型能力の育成教科を新設し（低学年にしなやかエンジニア教育プログラムの成果を反映した「エンジニアの感性と表現」、および高学年にグローバル工学協働教育プログラムの成果を反映した「グローバルコミュニケーション」を新設）、一般教科のカリキュラムの見直し・改訂を完了させている。このカリキュラム改訂は年次進行となるため、令和10年度において本科の全学年に適用されることとなる。

3) 令和5年度に向けた課題

- ① 低学年教育の充実
- ② 就職／大学編入学に関する相談や支援
- ③ 学年主任制度（新学級担任制度）の検証

一般教科の使命を鑑み、「①低学年教育の充実」、および「②就職／大学編入学に関する相談や支援」の2つは、令和5年度においても引き続き一般教科の重点課題となる。その2つに加え、令和5年度をもって、平成31年度に導入した新学級担任制度（第1学年・第2学年の担任をすべて一般教科の教員が担当し、併せて各学年に学年主任を置いて各クラス担任をサポートする新たな担任制度）が本科の全学年にいきわたるにあたり、この制度の検証（「③学年主任制度（新学級担任制度）の検証」）を、令和5年度における重点課題の1つとしたい。

2. 2 機械工学科

1) 令和4年度の重点取り組み課題

- ① 教員8名体制における業務の効率化（新規）
- ② 志願者増を目指した学科広報（継続）
- ③ 進路指導方針・体制の検討（継続）

2) 重点取り組み課題の達成状況

① R4年度より、機械工学科の教員数は8名（教授5名、准教授3名）となり、昨年度と比べて教員一人あたりの業務が増加している。教育・研究活動、学生指導に従事する時間を確保するためにも、業務効率化を進めていく必要がある。令和4年度は情報共有、意見聴取などにMicrosoft Teamsを活用したことや会議の進め方を変更したことで、会議時間を昨年度より大幅に短縮した。

教員個人の業務の軽減・効率化についての方策は検討中であり、機械工学科としても業務効率化のためのDX推進や、教員間のサポート体制を構築する必要があると考えている。

② 機械工学科内に広報担当を設け、志願者獲得につながる広報イベントにおける広報活動を行った。広報担当教員は学生と協同して広報活動に取り組み、学生の課外活動の支援も兼ねている。年度当初に広報活動に興味のある学生を募集し、広報担当教員とともに年度活動計画を立案したのち、いくつかのテーマを設定して取り組んだ。テーマの中には、具体的に「ものづくり」に関わるものや各種コンテストを目指したもの等、多岐に渡っており、自ら課題設定を行い、実践することができることから機械工学全般に強い興味や関心を持つ学生にとっては好評であり、学年を問わず多くの学生が参加した。その成果は、体験入学、高専祭、入試・学科説明会などで展示され、学生による説明は、各イベントに参加した中学生やその保護者からも好評であった。なお、広報活動の志願倍率増への効果に関しては、未だ十分な成果を上げるまでには至っていないが、継続して機械工学科の取り組みを学生と共に発信していくことで倍率増につながると考えている。

③ 進路指導に関して、4名の教員が分担して指導を行った。2月上旬に4年生を対象に進路ガイダンス（就職・進学のための説明会）を行い、その後、機械工学科の進路指導室を開放し、学生に求人情報を閲覧させることで就職活動に対する意識を高めるように指導した。なお、学生の進路相談については、進路指導担当教員が主として対応するが、事前に研究室の仮配属を行い、指導予定教員からもアドバイスが受けられるよう複数体制をとっている。また、Microsoft Teamsを用いて求人情報を閲覧できるようにしており、遠隔での進路指導も行える体制を整えた。

R4年度の進路内訳は、就職17名、進学16名（専攻科への進学5名を含む）であった。就職先の分類としては、機械、建設、電気、化学等、製造業を中心に就職している。就職に関しては、コロナ禍においても例年通り、機械工学科に対する求人件数は非常に多く、採用担当者との面談において高専卒業生の実力を高く評価される方が多いことから、その期待の大きさを感じている。一方、進学に関しても専攻科を含め多くの国公立大学等へ進学している現状から、在校生及びその保護者の進学に対する興味は高まる一方である。いずれの場合も多様な進路を保障しているという点では、一定の成果を示しているように思えるが、現実には進路決定の際、思うような結果を導けない者も数人みられた。指

導方法を含めた改善策を検討する必要があると考えている。

3) 令和5年度に向けた課題

- ① 教員8名体制における業務の効率化（継続）
- ② 志願者増を目指した学科広報（継続）
- ③ 進路指導方針・体制の検討（継続）
- ④ 各種プロジェクトを活用した実験・実習の検討（新規）

2. 3 電気工学科

1) 令和4年度の重点取り組み課題

- ① 少人数で運営していくための業務の効率化（継続）
- ② 教育・実験環境の整備（新規）
- ③ 学力不振学生およびハンディがある学生の対応（継続）
- ④ キャリア教育の充実（継続）
- ⑤ 志願者増を目指した学科広報（継続）

2) 重点取り組み課題の達成状況

① 令和4年度の学科教員数は、10名（電気を専門とする教員：教授3名、准教授4名、講師1名、助教1名、女性エンジニア養成推進担当：准教授1名）で、このうち博士号取得者は9名である。令和4年度で1名が定年を迎え、1名が高専間教員交流期間終了のため、現教員の人数が2名減少する。このため、教員2名の公募（うち1名は女性限定公募）を行い、令和5年4月から2名採用している。

令和5年度の教員入れ替わりに備えて、体験入学、公開講座など学科イベントの主担当メンバーを1年早く入れ替え、方法の見直しも含めて令和4年度に実施した。結果、おおむね問題なく終了することができ、また、負担が少数に集中する箇所や、来校者への配慮など、次年度に向けた課題等も明確になった。

さらにMicrosoft Teamsを利用して、共通設備（共通実験室）を利用する際の予約の効率化と確認漏れによるダブルブッキングを減少させることができた。

② 教員削減の影響もあり、イベントの完了と次のイベントのスタートが重なることが多くなり、学科イベントや学生実験が行われるたびに、実験室や共通スペースに古い物品が残っていく傾向にあった。このため、物品の保存場所を見失ったり、新しい物品の置く場所がなくなったり、非効率な状況となっていた。そこで、1年かけ、各共通スペースにある不必要物品の廃棄や片付けを行い、スペースの有効利用と各種作業の効率化が可能となった。

③ 低学年の不可A持ち上がり制度の影響や社会の変化に伴い、学力不振学生の増加が顕著となっている。また、ハンディをもつ学生が以前より目立ってきており、日々の登校や

卒業研究の遂行が難しくなる状況も出てきている。一方、これらの学生と近い教員に過剰な負担がかかってしまう傾向もあり、改善が必要であった。

電気工学科では、ほぼ毎月、全クラスの状況および学生の情報を交換する場を設け、学科で情報の共有を図っている。この情報交換会により、早期に担任や学生支援室と相談するなど、学生への的確で早い対処が可能になっている。また、経験を積んだ教員、学生と年齢が近い教員がともに話し合うことで、教員の学びの場にもなっている。令和4年度は、卒業研究の遂行が難しい学生に対して、学生の不利益にならず、公平に卒業研究を評価するための基準も設けた。

④ 4年生に対し、5月と12月に進路ガイダンスを実施し、年度末までに複数回進路調査および教員との面談を行いながら進路選択から決定までの支援を行った。また、電気工学科卒業生による進路セミナー、外部講師による2つの講演会を実施し、視野を広げまた具体的に進路対策を行うために参考となる情報を提供した。さらに、3月に2日間、就職希望者を対象とした企業説明会（複数の Teams 会議室を用意し、入れ替わり企業説明、オンライン）を実施した。4年生の12月に、保護者対象の進路ガイダンスも行っている。

3年生には、卒業生と語る会やインターンシップ報告会への参加等を通して、自らの進路について考える機会を設けた。また、4年生の保護者に対する進路ガイダンス（12月オンライン、1～3年生の保護者も参加可）も行っている。

⑤ 未来の志願者増を目指して以下の公開講座およびオンライン授業を実施し、多数の参加があった。

<公開講座>

- ・「とっても楽しいIoT教室 ～こんなものがインターネットにつながる～」
- ・「手作りモーターを作ろう！ ～電気エネルギーから運動エネルギーへ～」

<オンライン授業>

- ・第1回「超伝導を作る！ 材料系実験を体験しよう」
- ・第2回「宇宙を電波でみる！ 通信系実験を体験しよう」
- ・第3回「ミニ雷を発生！ 放電実験を体験しよう」

3) 令和5年度に向けた課題

- ① 少人数で運営していくための業務の効率化（継続）
- ② 教育・実験環境の整備（継続）
- ③ 学力不振学生およびハンディがある学生の対応（継続）
- ④ キャリア教育の充実（継続）
- ⑤ Web を有効活用した学科広報（新規）

2. 4 電子制御工学科

1) 令和4年度の重点取り組み課題

- ① 問題解決能力を身につける実践的な技術者教育の充実（継続）
- ② 進路指導体制の充実（継続）
- ③ 学科広報および地域社会との連携体制の充実（継続）

2) 重点取り組み課題の達成状況

① 電子制御工学科では、実際に設計・製作するという体験学習が効果的であるとの考えに基づいて、1年から4年まで系統的に「工学実験」プログラムを構築している。プログラムに基づき、システムデザイン能力、システム開発能力さらには問題解決能力に富む技術者を育成する教育プログラムとして、ロボットを題材とした多段階体験型課題解決プログラムを1学年から「工学実験」で行い、大いに学習効果を上げている。

さらに、4年次の「システム設計製作」においては、自律型ロボットを設計製作し、学科内ロボットコンテスト（『レスキューロボット』、『清掃ロボット』、『配達、回収ロボット』等、学生のスキルを踏まえ、毎年課題内容、難易度を見直し、適切な課題を設定している）を実施し、総合的なメカトロニクス技術を身に付けさせると共に、豊かな創造力の育成を行った。そして、予備知識、設備、予算、時間等様々な制約がある中で、設定された課題を解決するロボットシステムの設計、製作をプロジェクトとして進めて、より実践的な活動を通して問題解決能力を養うことができた。

なお、多段階体験型課題解決プログラムの特徴である、1年次からのレゴマインドストーム等を教材として、学年進行と共に多段階的に学習レベルを積み上げていく方式（多段階体験）をR4年度も継続して行った。またH30年度より第3学年に、新たにTETRIS及びmyRIOを用いたベースロボット教材を導入し、これを用いたライントレース競技を行い、課題解決のための手法について学習させている。これらの取り組みにより、学生の自主性が助長され、学生の創造性の育成に大きく寄与していると考えられる。また、これらの実践教育では、自ら製作したロボットについて実演を交えたプレゼンテーションを、近隣企業・保護者・在校生に対し行うことで（R4年度は新型コロナウイルス感染症のため外部へは非公開で実施）、プレゼンテーション能力の育成も図った。

② 進路対策委員会を設置し、各指導教員及び保護者との連携を図りながら、学生の就職・進学について学生本人の希望を尊重し、進路指導を行った。学生への指導は、4年次学年末に進路に対するガイダンスを行うとともに、就職、進学各卒業生との懇談会を持ち、進路決定の参考とした。また、年末以降にR3年度分の各企業からの求人資料を公開し、将来の進路に対する意識を喚起した。さらに、5年生の保護者に対する進路ガイダンスをR4年度直前の3月下旬に実施し、学科の進路方針について説明を行った。そして、5年次当初に就職・進学の希望調査を行い、進路対策委員、指導教員、保護者等のアドバイスのもと4月中旬に具体的な受験企業及び進学受験先を決定した。なお、R4年度の採用選考等就職活動時期の変更に対しては、学生重視の観点から、各企業側の計画に応じて対応した。

R4年度は求人企業数が521社（R3年度474社）で例年並みであった。卒業生3

5名中、就職を希望した学生13名であった。このうち10名は7月までに就職先が内定した。一方、22名の学生が専攻科、大学等へ進学した。専門分野は本学科が複合系学科であることから、機械系、電気系、情報系等多岐に渡ってきているのが最近の特徴である。22名のうち、本校専攻科には9名が進学した。

③ 小学校高学年生を対象とした公開講座「楽しく作るライン追跡ロボット」を実施した。本公開講座は、毎回参加希望者が定員の2倍近くに達しており、抽選により参加人数を調整している。実施アンケートの結果を見ても概ね好評であり、数年後に本校を受験し入学している参加者がいる等、長期的視点においても有効であることがわかる。

また、産学連携への取組にも力を入れ、各種展示会等への展示、奈良県内外企業からの技術相談、共同研究や受託研究等を積極的に行った。地域社会との連携としては、本校電子制御工学科棟電子工学実験室を会場として生駒市科学教室・高専教室を開催した。さらに、学市連携出前授業として大和郡山市・生駒市の小学校等に出向き授業を行うなど、近隣地域の小中学生の科学技術に対する興味の一層の増進に貢献した。

3) 令和5年度に向けた課題

- ① 問題解決能力を身につける実践的な技術者教育の充実（継続）
- ② 進路指導体制の充実（継続）
- ③ 学科広報および地域社会との連携体制の充実（継続）
- ④ 知財教育の充実および体系化の検討（新規）

2. 5 情報工学科

1) 令和4年度の重点取り組み課題

- ① 情報工学科棟改修計画の策定（新規）
- ② 学内の情報共通教育への支援・協力（継続）
- ③ 体験入学など学科広報の充実に向けたシステム化（継続）

2) 重点取り組み課題の達成状況

① R5年度の情報工学科棟改修申請に向け、R4年度には、学科内でWGを立ち上げて改修計画の検討と立案を行った。主な改修項目は、現在1クラス用の情報処理演習室3を2クラス用に拡張し、2クラス同時実習可能な演習室とすることである。この改修により、R1年度新カリキュラムで導入した、3、4年生の2クラスで同時開講している学年横断PBL科目である情報アクティブラーニングI、IIの実習場所の確保や、1年次の情報リテラシー科目など共通シラバスでの実習授業において、複数クラスでの同時実習授業が可能となる。

② 情報工学科では、1年次の情報リテラシー科目の全学導入化に伴い、共通シラバスの作成、非情報系4学科の情報リテラシー立ち上げ作業および授業を担当し、その後は教務

委員会と協力して、各専門学科教員への授業担当の引継ぎ支援を行ってきた。R 4年度には、教務委員会からの依頼により、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度への申請に向けて、下記の2点をAI分野を専門とする教員2名で行った。

(1) 上記プログラム認定におけるリテラシーレベル申請のための、数理・データサイエンス・AI 実習授業の準備と実施

情報リテラシー分野における新MCC改定への対応を兼ねて、1年次の情報リテラシー科目の後期3週分について、数理・データサイエンス・AI分野の実習コンテンツを作成した。非情報系学科の1年生向けの内容とするため、R 5年度から実施予定の高校・情報Ⅱの教科書を比較検討し、データサイエンス分野およびPythonプログラミングの記述が最も充実していた実教出版の情報Ⅱ第2章データサイエンス、の内容を基にして、授業スライドおよび実習コンテンツを準備した。特に実習用のPythonプログラムでは、データ分析の基本項目および分析結果を、あらかじめ分析、グラフで可視化するプログラムを準備し、step by stepで実行・表示する方法で実習の難易度を下げると共に、実行結果をグラフ表示することで、初学者に対して分かり易くなるよう工夫した。なお、上記の実習3週分の担当については、R 5年度は各科担当教員への引継ぎを兼ねて情報工学科教員で担当し、R 6年度以降は、各科情報リテラシー担当教員による実施を予定している。

(2) 上記プログラム認定における応用基礎レベルの申請準備に向けた、4年次の情報共通科目のシラバス案の検討および作成

応用基礎レベルのコア実習項目をカバーするための4年次の情報共通新科目のシラバス案を検討・作成し、教務委員会へ提出した。

③ 情報工学科では、これまで情報工学分野での技術の進展、特にネットワーク、情報セキュリティ、IoT、AIなど時代のニーズに伴い注目される新分野、新技術に対して、公開講座、体験入学、学校入試説明会、大和郡山市少年少女パソコン教室、生駒市出前授業など様々な学科広報の機会を通して積極的に関わってきた。このうち体験入学について、R 4年度から、学科教員を(1)ネットワーク・セキュリティ・AI、(2)ハードウェア・IoT、(3)ソフトウェア・マルチメディア、の3グループに分け、各年の担当についてローテーション制を導入して、毎年異なるテーマで体験授業を行えるように変更した。R 4年度には、AI分野を専門とする教員2名を中心として、ネットワーク・セキュリティ・AIを学ぶゲーム形式の実習を実施した。加えて公開講座および体験授業などで毎年実施している「夏休みAI講座」のコーナーで、R 4年度は最近注目されている画像生成AIについて、大量の本物画像からニセモノ画像を生成する学習の仕組みと特徴、注意点などについて分かり易く紹介した。小中学生対象の公開講座および中学生対象の体験授業3日間でWebアンケートの結果では、大半の受講者および保護者が、公開講座、体験授業それぞれの実習内容および、「夏休みAI講座」での紹介内容に興味を持って頂いていた。手間はかかっているが、毎年実習内容および紹介内容を刷新し、新技術、新分野に前向きな姿勢を受験生および保護者に示すことが、情報工学科の活力および入試倍率の維持・向上に貢献し、ひいては将来の社会ニーズに応える人材育成に対する社会からの期待に応えている

と考えている。

3) 令和5年度に向けた課題

- ① 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援事業への対応の検討（新規）
- ② 生成AIの教育利用に関する科内・学内ガイドラインの検討（新規）
- ③ 予算獲得に伴い、学内で増加し続けるネットワーク接続機器の維持管理問題（新規）
- ④ 学内の情報共通教育への支援・協力（継続）
- ⑤ 体験入学など学科広報の充実に向けたシステム化（継続）

2. 6 物質化学工学科

1) 令和4年度の重点取り組み課題

① ポストコロナに向けた実践教育の取り組み

当該学科では、『化学と生物の二つの学問領域を礎とする幅広い技術領域で活躍できる、時代に流されない確かな学問と技術を有したダイナミックレンジの広い創造的人材の育成』という目標を掲げて教育を行っている。コロナ前の生活様式に戻りつつある中で、対面式授業において従来の手を動かして行う実験技術とICT教育との融合により、化学と生物の分野においてイノベーションを起こせる人材育成を行う必要がある。

② 地域社会貢献の拡充

当該学科では、学生が機器分析技術や原理を習得することの重要性を考え、学生・教職員の教育研究活動の高度化と活性化、さらには産学連携活動の推進をめざして、物質化学工学科機器分析センター（H25年度に高専教育の高度化予算の支援を受けて設立、今年度に全学的な組織に改編）の拡充を行ってきた。引き続き、高度な能力を有する技術者の育成を行うとともに、IoT技術に対応できる化学・生物分野の人材育成の先にある、地域企業への社会貢献を検討してゆく。

③ 先端技術教育の国際化

当該学科では、化学と生物に係わる産業分野において、急速な時代の流れにも対応できる創造的人材の育成を目指している。現在、我が国を取り巻く国際情勢は風雲急を告げ、先端技術教育の趨勢が国の存亡に係るところにまで事態が進行している。そこで、応用化学からバイオテクノロジーの基礎と応用力を使って、分子・ナノレベルの微小な世界から化学工学によるプラント設計や地球環境の保護といったマクロ的な世界にも対応できる人材の育成を行い、産業界に優れた人材を送り出すことが重要である。

2) 重点取り組み課題の達成状況

- ① 昨今のコロナ禍により、従来の対面授業を行えない状況があったため、手を動かして行う実験技術習得の遅れが懸念された。それらを補うべく当該学科教員や職員が尽力し、学生の実験技術はコロナ禍中より改善されたといえる。一方で、コロナ禍で定着した

Microsoft Teams によるグループワークやプレゼンテーションを駆使し、ICT 教育を取り込んだ形での実践的教育を行うことを可能にしてきた。

② 例年、教員が公開授業、学市連携協定に基づく科学教室、出前授業等を通して学外協力にも積極性に参画し、理科教育支援及び産学連携活動を推進している。また、研究活動における社会貢献は、各教員レベルで取り組んでおり、それぞれ専門分野での学協会に所属して学会活動を行っている。さらに、科学技術研究費をはじめとする競争的資金、企業との共同研究・受託研究あるいは奨励寄付金を獲得する教員もおり、その研究成果を通じた社会貢献にも積極的に取り組んでいる。

上記に加えて当該学科では、高度な分析装置の有効利用と維持管理の観点から、学外にも広く門戸が開かれた組織としての役割を担えるように、機器分析センターに設置されている研究設備・機器について、地域企業や近隣大学・研究機関による共用化による有効活用を促進してきた。また当該学科は、高専発「Society5.0 型未来技術人財」育成事業における GEAR5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）の防災・減災分野「K-SMART が拓く超スマート社会の実現に向けた実装技術の開発」に協力することで、社会実装を遂行する能力を備えた人材を地域社会に送り出す仕組みを整備してきた。

③ グローバル人材の育成に対応した技術教育への対応として、長岡技術科学大学を中心とするコンソーシアムに基づいた英文電子ジャーナルを活用した卒業研究・講義等における文献調査の推進を行ってきた。特に、学生に対する技術分野の外国語教育は、卒業研究において、英語の文献調査等、研究遂行による実践的な取り組みを通じて推進し、専門用語に慣れる機会を増やして英語力の増強をはかってきた。また、学生・専攻科生がコロナ禍にもかかわらず、オンラインなどを通じて国内外で開催される国際会議において研究発表を行ってきた。

3) 令和5年度に向けた課題

① 実践教育の取り組み

化学と生物の理解と実験技術の習得は密接に関連している。実験スキルチェックなどを活用し、実験技術習得の向上を図る。また ICT 教育を併用することで、効率の良い学習のありかたを検討する。

② 地域社会貢献の拡充

化学・生物分野の人材育成や研究開発を通じた、地域や社会への貢献をいかに行うか検討する。

③ 先端技術教育の国際化

教員および学生が海外に出て研究や技術教育で交流を進めるための仕組みの拡充をいかに行うか検討する。

第3章 研究活動

※教員の研究活動については国立高専研究情報ポータルへの掲載に代えています。

(<https://research.kosen-k.go.jp/>)

3. 1 教育研究支援室における研究活動

【学会講演等】3件

◎ 技術職員のみ (2件)

1. 旋盤作業における危険行動自覚システム開発に向けた取り組み

福田龍一

第14回高専技術教育研究発表会 in 木更津 概要集, 2023年2月28日, 概要集, pp. 21-22

2. 実習工場見学者向け施設案内改善への取り組み

島田大嗣, 尾崎充紀, 福田龍一, 萩原奈月

第14回高専技術教育研究発表会 in 木更津 概要集, 2023年2月28日, 概要集, pp. 31-32

◎ 教員 (*1) と本科生 (*2) との連名 (1件)

1. マグネシウム合金における塑性加工とアークスポット溶接の条件についての考察

溝上穹*2, 鎌谷恵衣*2, 宮本博司*2, 水田来悟*2, 尾崎充紀, 島田大嗣, 福田龍一, 須田敦*1, 谷口幸典*1, 福岡寛*1

日本設計工学会関西支部 2022年度研究発表講演会, 2023年3月11日, 講演論文集 B3-1, pp. 55-58

3. 2 研究ならびに研究支援以外の活動状況

【公開講座】1件

タイトル: からくり人形を作ろう

開催日時: 令和4年9月17日(土)

参加者名: 尾崎充紀

開催場所: 奈良高専

開催組織: 奈良高専 機械工学科

【広報活動等】3件

タイトル: ひらめき☆ときめきサイエンス 光を探る ～光で透明な材料は削れるか?～

開催日時: 令和4年8月4日(木)

参加者名：笹山智仁
開催場所：奈良高専 ラーニングコモンズ
開催組織：奈良高専 電子制御工学科

タイトル：小中学生ロボコン
開催日時：令和4年8月26日（金）説明会
令和4年9月23日（金 / 祝）走行会
令和4年11月19日（土）予選会
参加者名：笹山智仁，西野貴之
開催場所：奈良高専 合同教室・大視聴覚室
開催組織：広報センター / 小中学生ロボコン実行委員会

タイトル：電気を通すものを探そう
開催日時：令和4年11月13日（日）
参加者名：島田大嗣，福田龍一，松浦亮太
開催場所：奈良教育大学
開催組織：「青少年のための科学の祭典2023」奈良大会実行委員会

【研修への参加】5件

研修名：情報システム統一研修（令和4年度 第1 / 四半期）
開催日時：令和4年4月28日（木）～7月1日（金）（eラーニング）
令和4年6月1日（水）～6月2日（木），6月7日（火）（WEB集合研修）
参加者名：松浦亮太
開催場所：eラーニング，オンラインセミナー（Webex_Meeting）
主催：デジタル庁

研修名：令和4年度国立高等専門学校機構初任職員研修会
開催日時：令和4年5月20日（金），令和4年5月24日（金）（オンデマンド研修）
令和4年6月13日（月）～6月15日（水）（集合研修）
参加者名：松浦亮太
開催場所：動画配信（オンデマンド研修），学術総合センター（集合研修）
主催：国立高等専門学校機構

研修名：現場巡視（作業現場及び事務室）のポイント
開催日時：令和4年7月7日（木）
参加者名：加藤綾子
開催場所：WEB研修（Cocriipo）

主催：愛知産業保健総合支援センター

研修名：第20回近畿地区国立高等専門学校技術研修

開催日時：令和4年9月8,9日

参加者名：島田大嗣

開催場所：舞鶴高専

主催：舞鶴高専

研修名：令和4年度IT人材育成研修

開催日時：令和4年10月13日（木）～10月14日（金）

参加者名：松浦亮太

開催場所：大同生命霞が関ビル

主催：国立高等専門学校機構 本部事務局

【講習等への参加】23件

講習名：令和4年度 分析装置総覧講習会

開催日時：令和4年6月10日（金）

参加者名：笹山智仁，加藤綾子

開催場所：WEB ミーティング（ZOOM）

主催：大学連携研究設備ネットワーク

講習名：SPM初歩講習会

開催日時：令和4年6月23日（木）

参加者名：笹山智仁，加藤綾子

開催場所：WEB ミーティング（ZOOM）

主催：大学連携研究設備ネットワーク

講習名：【WEB】令和4年質量分析講習会3 質量分析MALDI-MSハイブリッド講習会

開催日時：令和4年7月7日（木）

参加者名：笹山智仁，加藤綾子

開催場所：WEB ミーティング（ZOOM）

主催：大学連携研究設備ネットワーク

講習名：2022年度 実践的サイバー防御演習 CYDER 集合演習Aコース

開催日時：令和4年7月29日（金）

参加者名：松浦亮太

開催場所：ハートンホテル北梅田

主催：情報通信研究機構・総務省

講習名：【WEB】令和4年質量分析講習会4 質量分析ESI-MSハイブリッド講習会

開催日時：令和4年8月4日（木）

参加者名：笹山智仁，加藤綾子

開催場所：WEB ミーティング（ZOOM）

主催：大学連携研究設備ネットワーク

講習名：令和4年度教職員・情報通信技術支援員（ICT支援員）著作権講習会
～教育機関における著作物利用と知財教育～

開催日時：令和4年8月25日（木）

参加者名：加藤綾子

開催場所：ライブ配信・オンデマンド配信（YouTube）

主催：文化庁著作権課

講習名：令和4年度 鋳造講習会

開催日時：令和4年8月30,31日

参加者名：尾崎充紀，島田大嗣

開催場所：奈良高専 ものづくり実験実習棟

主催：奈良高専 教育研究支援室 ものづくり領域

講習名：ESR初歩講習会

開催日時：令和4年9月16日（金）

参加者名：笹山智仁，加藤綾子

開催場所：WEB ミーティング（ZOOM）

主催：大学連携研究設備ネットワーク

講習名：【WEB】令和4年質量分析講習会5 機器分析における試料前処理講習会

開催日時：令和4年10月13日（木）

参加者名：笹山智仁，加藤綾子

開催場所：WEB ミーティング（ZOOM）

主催：大学連携研究設備ネットワーク

講習名：単結晶X線回折初歩講習会

開催日時：令和4年10月20日（金）

参加者名：笹山智仁，加藤綾子

開催場所：WEB ミーティング（ZOOM）

主催：大学連携研究設備ネットワーク

講習名：令和4年度第1回NMR構造解析講習会

開催日時：令和4年11月10日（木）

参加者名：笹山智仁

開催場所：WEB ミーティング（ZOOM）

主催：大学連携研究設備ネットワーク

講習名：【ハイブリッド】令和4年質量分析講習会6 ～GC/MSにおける定性分析～

開催日時：令和4年11月22日（火）

参加者名：笹山智仁

開催場所：WEB ミーティング（ZOOM）

主催：大学連携研究設備ネットワーク

講習名：SEM（走査形電子顕微鏡）中級講習会

開催日時：令和4年11月25日（金）

参加者名：笹山智仁

開催場所：WEB ミーティング（ZOOM）

主催：大学連携研究設備ネットワーク

講習名：【ハイブリッド】令和4年質量分析講習会8

質量分析装置メーカーに行ってみよう！ハイブリッドラボツアー

開催日時：令和4年12月14日（水）

参加者名：笹山智仁

開催場所：WEB ミーティング（ZOOM）

主催：大学連携研究設備ネットワーク

セミナー名：Fusion360トレーニング

開催日時：令和4年6月17日，8月29日

参加者名：尾崎充紀，島田大嗣，福田龍一

開催場所：奈良高専 ものづくり実験実習棟多目的室

主催：Autodesk

セミナー名：いまさら聞けない！滴定による酸度・塩分測定の基礎とコツ

開催日時：令和4年8月1日（月）

参加者名：加藤綾子

開催場所：WEBセミナー（Vimeo）

主催：株式会社HIRANUMA

セミナー名：ピペットセミナー

開催日時：令和4年8月4日（木）「ピペットの使い方 安全衛生編」

令和4年8月10日（水）「ピペットの校正間のチェックとメンテナンス」

令和4年8月24日（水）「ピペットの使い方 基礎編」

令和4年8月25日（木）「ピペットの使い方 応用編」

令和4年9月22日（木）「ピペットの使い方 実践編」

令和4年10月13日（木）「持続可能なピペッティングを目指して」

令和4年10月19日（水）「【学生に最適！】マイクロピペットの使い方」

参加者名：加藤綾子

開催場所：オンラインセミナー（Teams）

主催：メトラー・トレド

セミナー名：皆が悩んでる！電子天びん使用時の静電気対策と天びん基礎セミナー

開催日時：令和4年9月15日（木）

参加者名：加藤綾子

開催場所：オンラインセミナー（Teams）

主催：メトラー・トレド

セミナー名：ピペッティングアカデミー

開催日時：令和4年9月21日（水）「細胞ベースアッセイにおけるサンプル調製のベストプラクティス」

令和4年11月16日（水）「マイクロピペットの正しい取扱い方法と基礎知識編」

令和4年12月14日（水）「電動ピペットの取扱い方法」

参加者名：加藤綾子

開催場所：オンラインセミナー（Teams）

主催：メトラー・トレド

セミナー名：【機器利用セミナー】ゼータサイザーアドバンス(DLS)

開催日時：令和4年12月22日（木）

参加者名：笹山智仁

開催場所：奈良高専 共通機器管理センター事務室

主催：奈良高専 共通機器管理センター

セミナー名：熱分析の基礎から学ぶ，示差走査熱量測定・熱重量測定のエッセンス

開催日時：令和4年10月20日（金）

参加者名：笹山智仁，加藤綾子
開催場所：オンラインセミナー (Teams)
主催：メトラー・トレド

セミナー名：【機器利用セミナー】デジタルマイクロスコープ VHX-8000
開催日時：令和4年10月27日 (木)
参加者名：笹山智仁，加藤綾子
開催場所：奈良高専 第3機器分析室
主催：奈良高専 共通機器管理センター

セミナー名：【機器利用セミナー】プリズム分光型共焦点顕微鏡 STELLARIS 8
開催日時：令和4年12月22日 (木)
参加者名：笹山智仁
開催場所：奈良高専 共通機器管理センター事務室
主催：奈良高専 共通機器管理センター

第4章 奈良高専自己点検評価チェックリスト

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等		
1 教育の内部質 保証システム	1-1	【重点評価項目】 教育活動を中心とした 学校の総合的な状況 について、学校として 定期的に学校教育 法第109条第1項に規 定される自己点検・ 評価を行い、その結 果に基づいて教育の 質の改善・向上を図 るための教育研究活 動の改善を継続的に 行う仕組み（以下 「内部質保証システ ム」という。）が整 備され、機能してい ること。	1-1-①-①	【重点評価項目】 教育活動を中心と した学校の活動の 総合的な状況につ いて、学校として 定期的に自己点検 ・評価を実施す るための方針、体 制等が整備され、 点検・評価の基 準・項目等が設定 されているか。	1-1-①-(1)	1	学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針を定めているか。 ■定めている □定めていない	総務部門
					1-1-①-(2)	2	(1)の方針において、自己点検・評価の実施体制（委員会等）を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
					1-1-①-(3)	3	(1)の方針において、若しくは同方針に基づいて、自己点検・評価の基準・項目等を設定しているか。 ■設定している □設定していない	総務部門
			1-1-②-①	【重点評価項目】 内部質保証システ ムに基づき、根拠 となるデータや資 料に基づいて自己 点検・評価が定期 的に行われ、その 結果が公表されて いるか。	1-1-②-(1)	4	根拠となるデータや資料等を定期的に収集・蓄積しているか。 ■収集・蓄積している □収集・蓄積していない	総務部門
					1-1-②-(2)	5	自己点検・評価を定期的に行っているか。 ■実施している □実施していない	総務部門
					1-1-②-(3)	6	(2)の結果を公表しているか。 ■公表している □公表していない	総務部門
			1-1-③-①	【重点評価項目】 学校の構成員及び 学外関係者の意見 の聴取が行われて おり、それらの結 果が自己点検・評 価に反映されてい るか。	1-1-③-(1)	7	自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、□卒業（修了）時の学生、□卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、■保護者、□就職・進学先関係者	教務部門
							自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、□卒業（修了）時の学生、□卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、□保護者、□就職・進学先関係者	学生部門
							自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、□卒業（修了）時の学生、□卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、■保護者、□就職・進学先関係者	事務・グローバル教育部門
		自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、■卒業（修了）時の学生、■卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、□保護者、■就職・進学先関係者					専攻科・研究推進部門	
		1-1-③-②	【重点評価項目】 自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、■学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 □卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、■卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	1-1-③-(2)	8	自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、□学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 □卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 □外部有識者の検証、□教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	教務部門	
						自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、□学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 □卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 □外部有識者の検証、□教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	学生部門	
						自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、■学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 □卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 □外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	事務・グローバル教育部門	
						自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 □学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 □卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	専攻科・研究推進部門	

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
					自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価(進級時等、卒業(修了)前の評価)、■学生による満足度評価(進級時等、卒業(修了)前の評価)、□その他 【卒業(修了)時の意見聴取】 ■卒業(修了)時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、■卒業(修了)時の学生による満足度評価、□その他 【卒業(修了)後の意見聴取】 □卒業(修了)後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業(修了)後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価(機関別認証評価、JABEE等。)、□設置計画履行状況調査、□その他	総務部門
		1-1-④	【重点評価項目】 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備されるか、機能しているか。	9	自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような体制が整備されているか。 ■整備されている □整備されていない	総務部門
				10	前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■対応している □対応していない □指摘を受けていない 前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■対応している □対応していない □指摘を受けていない 前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■対応している □対応していない □指摘を受けていない	総務部門 専攻科・研究推進部門
				11	(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない (2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない (2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない (2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない (2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	総務部門 学生部門 業務・グローバル教育部門 専攻科・研究推進部門
				12	ガイドライン等を踏まえ、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■准学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他	総務部門
				13	卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が、「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ准学士課程全体、各学科の目的(本評価書Ⅱに記載したもの。)と整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	総務部門
				14	卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)の中で、学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。 ■示している □示していない	総務部門
		1-2-②	准学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)が、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)と整合性をもち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	15	ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■准学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他	総務部門
				16	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)は、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	総務部門
				17	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)は、どのような内容を含んでいるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■どのような教育課程を編成するかを示している ■どのような教育内容・方法を実施するかを示している ■学習成果をどのように評価するかを示している □その他	総務部門
		1-2-③	准学士課程の入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	18	ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■准学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他	総務部門(入試)
				19	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)は、学校の目的や学科の目的(本評価書Ⅱに記載したもの。)、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえて策定しているか。 ■目的・方針等を踏まえて策定している □目的・方針等を踏まえて策定していない	総務部門(入試)
				20	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)には、「入学選抜の基本方針」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	総務部門(入試)
				21	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)には、「求める学生像(受け入れる学生に求める学習成果を含む。)」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	総務部門(入試)
				22	受入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。 ■含まれている □含まれていない	総務部門(入試)

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等		
	1-2	1-2-④ 専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-④-(1)	23	ガイドライン等を踏まえ、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている ■専攻ごとに定めている □その他	専攻科・研究推進部門		
			1-2-④-(2)	24	修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に焦点を置き、専攻科課程全体、各専攻の目的と整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	専攻科・研究推進部門		
			1-2-④-(3)	25	修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。 ■示している □示していない	専攻科・研究推進部門		
			1-2-⑤ 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性をもち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-⑤-(1)	26	ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている ■専攻ごとに定めている □その他	専攻科・研究推進部門	
				1-2-⑤-(2)	27	(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	専攻科・研究推進部門	
				1-2-⑤-(3)	28	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■どのような教育課程を編成するかを示している ■どのような教育内容・方法を実施するかを示している □学習成果をどのように評価するかを示している □その他	専攻科・研究推進部門	
		1-2-⑥ 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-⑥-(1)	29	ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている ■専攻ごとに定めている □その他	専攻科・研究推進部門		
			1-2-⑥-(2)	30	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や専攻科課程の目的、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。 ■目的・方針等を踏まえて策定している □目的・方針等を踏まえて策定していない	専攻科・研究推進部門		
			1-2-⑥-(3)	31	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	専攻科・研究推進部門		
			1-2-⑥-(4)	32	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	専攻科・研究推進部門		
			1-2-⑥-(5)	33	受け入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。 ■含まれている □含まれていない	専攻科・研究推進部門		
		1-3 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。	1-3-① 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。	1-3-①-(1)	34	学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■なっている □なっていない 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■なっている □なっていない 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■なっている □なっていない	教務部門 専攻科・研究推進部門 総務部門	
	1-3-①-(2)			35	学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない	教務部門 専攻科・研究推進部門 総務部門		
	2			2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切であること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。	2-1-① 学科の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。	2-1-①-(1)	36	学科の構成が学校の目的及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。 ■整合性がとれている □整合性がとれていない
	2-1-② 専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。		2-1-②-(1)	37	専攻の構成が学校の目的及び修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。 ■整合性がとれている □整合性がとれていない	専攻科・研究推進部門		
	2-1-③ 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。		2-1-③-(1)	38	教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門 学生部門 業務・グローバル教育部門 専攻科・研究推進部門 総務部門		

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
			2-1-③-(2)	39	(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
					(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	学生部門
					(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	業務・グローバル教 育部門
					(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
					(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
	2-2 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。	2-2-① 学校の目的を達成するために、準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。	2-2-①-(1)	40	一般科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門
			2-2-①-(2)	41	専門科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門
			2-2-①-(3)	42	専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門
			2-2-①-(4)	43	適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 ■担当が適切である □担当が適切でない	教務部門
			2-2-①-(5)	44	適切な教員配置について専門分野以外に配慮していることがあるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■博士の学位 □ネイティブスピーカー(担当する言語を母国語とする) □技術資格 ■実務経験(教育機関以外の民間企業等における勤務経験者等) □海外経験 □その他	総務部門
		2-2-② 学校の目的を達成するために、専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。	2-2-②-(1)	45	専攻科の授業科目担当教員を適切に確保しているか。 ■適切に確保している □適切に確保していない	専攻科・研究推進 部門
			2-2-②-(2)	46	適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 ■担当が適切である □担当が適切でない	専攻科・研究推進 部門
			2-2-②-(3)	47	適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当しているか。 ■担当が適切である □担当が適切でない	専攻科・研究推進 部門
		2-2-③ 学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため、教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。	2-2-③-(1)	48	教員の配置について、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮しているか。 ■配慮している □配慮していない	総務部門
			2-2-③-(2)	49	(1)以外に配慮している措置はあるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■教育経歴 ■実務経験 ■男女比 □その他	総務部門
			2-2-③-(3)	50	在職する教員に対して教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るために行っている措置等はあるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■学位取得に関する支援 ■任期制の導入 ■公募制の導入 ■教員表彰制度の導入 □企業研修への参加支援 ■校長裁量経費等の予算配分 □ゆとりの時間確保策の導入 □サバティカル制度の導入 ■他の教育機関との人事交流 □その他	総務部門
	2-3 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。	2-3-① 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われており、その結果が活用されているか。	2-3-①-(1)	51	全教員(非常勤教員を除く。)に対して校長又はその委任を受けた者による教育上の能力や活動実績に関する評価を定期的に行い、その結果を基に給与・研究費配分への反映や教員組織の見直し等の適切な取組を行う体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			2-3-①-(2)	52	(1)の体制の下、教員評価を実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門
			2-3-①-(3)	53	把握した評価結果を基に、行っている取組はあるか。(該当する選択肢にチェック■する。) □給与における措置 ■研究費配分における措置 □教員組織の見直し ■表彰 □その他	総務部門
			2-3-①-(4)	54	非常勤教員に対し教員評価を実施しているか。 ■実施している □実施していない	教務部門
		2-3-② 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用されているか。	2-3-②-(1)	55	教員(非常勤教員を除く。)の採用・昇格等に関する基準を法令に従い定めているか。 ■定めている □定めていない	総務部門
			2-3-②-(2)	56	(1)で定められている基準等では、教育上の能力等を確認する仕組みとなっているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■模擬授業の実施 ■教育歴の確認 ■実務経験の確認 □海外経験の確認 □国際的な活動実績の確認 ■その他	総務部門
			2-3-②-(3)	57	(1)の基準等に基づき、実際の採用・昇格等を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
			2-3-②-(4)	58	非常勤教員の採用基準等を定めているか。 ■定めている □定めていない	総務部門
	2-4 教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必	2-4-① 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究(ファカルティ・ディベ	2-4-①-(1)	59	学校として、授業の内容及び方法の改善を図るためにファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)を実施する体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等専門学校 整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当する部門等		
	<p>要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。</p>	<p>ロップメント)が、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善が図られているか。</p>	2-4-①-(2)	60	定期的なFDを実施しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施している <input type="checkbox"/> 実施していない	総務部門		
			2-4-①-(3)	61	(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 結びついていない	教務部門		
						(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 結びついていない	学生部門	
						(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 結びついていない	業務・グローバル教育部門	
						(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 結びついていない	専攻科・研究推進部門	
						(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 結びついていない	総務部門	
			<p>2-4-② 学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。</p>	2-4-②-(1)	62	教育支援者等(事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。)を法令に従い適切に配置しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 配置している <input type="checkbox"/> 配置していない	総務部門	
		2-4-②-(2)		63	図書館に専門的職員その他の専属の教員または事務職員等を法令に従い適切に配置しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 配置している <input type="checkbox"/> 配置していない	総務部門		
		2-4-②-(3)		64	指導補助者を配置する場合、その定義、業務内容、採用手続等が規定されているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 配置している <input type="checkbox"/> 配置していない	総務部門		
		2-4-③ 教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。		2-4-③-(1)	65	教育支援者等(事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。)に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組を適切に行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	総務部門	
				2-4-③-(2)	66	指導補助者を配置する場合、研修等、その資質の向上を図るための取組を適切に行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	総務部門	
		3 学習環境及び学生支援等		3-1 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。また、ICT環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究に必要な資料が系統的に収集、整理され	3-1-① 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	3-1-①-(1)	67	校地・校舎面積を法令に従い適切に確保しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 確保している <input type="checkbox"/> 確保していない
			3-1-①-(2)			68	必要な施設を法令に従い適切に備えているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 備えている <input type="checkbox"/> 備えていない	総務部門
			3-1-①-(3)			69	学科の種類に応じ、附属施設を法令に従い適切に整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) <input checked="" type="checkbox"/> 実験・実習工場 <input type="checkbox"/> 練習船 <input type="checkbox"/> その他	総務部門
			3-1-①-(4)			70	自主的学習スペースを設けているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 設けている <input type="checkbox"/> 設けていない	教務部門
								自主的学習スペースを設けているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 設けている <input type="checkbox"/> 設けていない
3-1-①-(5)	71		教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。(該当する選択肢にチェック■する。) <input type="checkbox"/> 厚生施設 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションスペース <input type="checkbox"/> その他			教務部門		
						教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。(該当する選択肢にチェック■する。) <input checked="" type="checkbox"/> 厚生施設 <input type="checkbox"/> コミュニケーションスペース <input type="checkbox"/> その他	学生部門	
						教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。(該当する選択肢にチェック■する。) <input type="checkbox"/> 厚生施設 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションスペース <input type="checkbox"/> その他	業務・グローバル教育部門	
3-1-①-(6)	72		施設・設備の安全衛生管理体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない			総務部門		
3-1-①-(7)	73		(6)の体制が有効に機能しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 機能している <input type="checkbox"/> 機能していない			総務部門		
3-1-①-(8)	74		施設・設備のバリアフリー化への配慮を行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない			総務部門		
3-1-①-(9)	75		整備された教育・生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善を行う体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない			総務部門		
3-1-①-(10)	76		(9)の体制において、教育・生活環境の利用状況や満足度等を把握し、改善等を実際に行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない			総務部門		
3-1-② 教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。	3-1-②-(1)		77			教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境を適切に整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	教務部門	
	3-1-②-(2)		78			ICT環境のセキュリティ管理体制を適切に整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	教務部門	
	3-1-②-(3)		79			ICT環境は有効に活用されているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 活用されている <input type="checkbox"/> 活用されていない	教務部門	
	3-1-②-(4)	80	(3)について学生や教職員のICT環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	教務部門				

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等		
			3-1-②-(5)	81	(4)の体制が機能しているか。 ■機能している □機能していない	教務部門		
		3-1-③	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。	3-1-③-(1)	82	図書館の設備を法令に従い備えているか。 ■備えている □備えていない	教務部門	
				3-1-③-(2)	83	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を系統的に収集、整理しているか。 ■系統的に収集、整理している □系統的に収集、整理していない	教務部門	
				3-1-③-(3)	84	(2)の資料は、教職員や学生に有効に活用されているか。 ■活用されている □活用されていない	教務部門	
				3-1-③-(4)	85	(4) (2)の資料が有効に活用されるための取組を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門	
	3-2	教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。	3-2-①	履修等に関するガイダンスを実施しているか。	3-2-①-(1)	86	教育を実施する上でのガイダンスをどのような対象に対して実施しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■学科生 ■専攻科生 ■編入学生 ■留学生 ■障害のある学生 □社会人学生 □その他 教育を実施する上でのガイダンスをどのような対象に対して実施しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■学科生 ■専攻科生 □編入学生 □留学生 ■障害のある学生 ■社会人学生 □その他	教務部門 専攻科・研究推進部門
		3-2-②	学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	3-2-②-(1)	87	学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■担任制・指導教員制の整備 ■オフィシアラーの整備 □対面型の相談受付体制の整備 □電子メールによる相談受付体制の整備 □ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ■外国への留学に関する支援体制の整備 ■その他 学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) □担任制・指導教員制の整備 □オフィシアラーの整備 □対面型の相談受付体制の整備 □電子メールによる相談受付体制の整備 □ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ■外国への留学に関する支援体制の整備 ■その他 学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■担任制・指導教員制の整備 ■オフィシアラーの整備 □対面型の相談受付体制の整備 □電子メールによる相談受付体制の整備 □ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ■外国への留学に関する支援体制の整備 ■その他	教務部門 業務・グローバル教育部門 専攻科・研究推進部門	
				3-2-②-(2)	88	(1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない (1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない (1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない	教務部門 業務・グローバル教育部門 専攻科・研究推進部門	
				3-2-②-(3)	89	学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■担任制・指導教員制の導入 ■学生との懇談会 ■意見投書箱 □その他 学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■担任制・指導教員制の導入 □学生との懇談会 □意見投書箱 □その他	教務部門 専攻科・研究推進部門	
				3-2-②-(4)	90	(3)は、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない (3)は、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない (3)は、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	教務部門 業務・グローバル教育部門 専攻科・研究推進部門	
		3-2-③	特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われているか。	3-2-③-(1)	91	留学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	業務・グローバル教育部門	
				3-2-③-(2)	92	(1)の体制において、留学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	業務・グローバル教育部門	
				3-2-③-(3)	93	編入学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門	
				3-2-③-(4)	94	(3)の体制において、編入学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門	

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
			3-2-③-(5)	95	社会人学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(6)	96	(5)の体制において、社会人学生の支援を必要に応じて行っているか。 □行っている ■行っていない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(7)	97	障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
					障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門
					障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(8)	98	(7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
					(7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	学生部門
					(7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(9)	99	障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条項も 含む。）に対応しているか。 ■対応している □対応していない	教務部門
					障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条項も 含む。）に対応しているか。 ■対応している □対応していない	学生部門
					障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条項も 含む。）に対応しているか。 ■対応している □対応していない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(10)	100	上記以外の特別な支援を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
					上記以外の特別な支援を行っているか。 ■行っている □行っていない	学生部門
					上記以外の特別な支援を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
		3-2-④ 学生の生活や経済 面に係る指導・ 相談・助言等を行 う体制を整備さ れ、機能している か。	3-2-④-(1)	101	学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の体制に関し、どのように整備してい るか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■学生相談室 ■保健センター ■相談員やカウンセラーの配置 ■ハラスメント等の相談体制 ■学生に対する相談の案内等 ■奨学金 ■授業料減免 □特待生 ■緊急時の貸与等の制度 ■いじめの防止・早期発見・対処等の体制 □その他	学生部門
			3-2-④-(2)	102	(2) 健康診断及び健康相談・保健指導を定期的実施しているか。 ■実施している □実施していない	学生部門
			3-2-④-(3)	103	(3) (2)以外で、(1)の体制に基づいた学生の生活や経済面における指導・相談・助言等 の活動が実際に学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない	学生部門
		3-2-⑤ 就職や進学等の進 路指導を含め、 キャリア教育の体 制を整備され、機 能しているか。	3-2-⑤-(1)	104	就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門
					就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-⑤-(2)	105	(1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校として どのような取組を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■キャリア教育に関する研修会・講演会の実施 ■進路指導用マニュアルの作成 ■進路指導ガイダンスの実施 ■進路指導室 ■進路先（企業）訪問 ■進学・就職に関する説明会 □資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談 ■資格取得による単位修得の認定 ■外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等 □その他	学生部門
					(1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校として どのような取組を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） □キャリア教育に関する研修会・講演会の実施 □進路指導用マニュアルの作成 ■進路指導ガイダンスの実施 □進路指導室 ■進路先（企業）訪問 ■進学・就職に関する説明会 □資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談 □資格取得による単位修得の認定 ■外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等 □その他	専攻科・研究推進 部門
			3-2-⑤-(3)	106	(2)の取組が機能しているか。 ■機能している □機能していない	学生部門
					(2)の取組が機能しているか。 ■機能している □機能していない	専攻科・研究推進 部門
		3-2-⑥ 学生の部活動、 サークル活動、自 治会活動等の課外 活動に対する支援	3-2-⑥-(1)	107	学生の課外活動に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等	
		体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。	3-2-⑥-(2)	108	(1)の体制において、責任の所在が明確になっているか。 ■なっている □なっていない	学生部門	
			3-2-⑥-(3)	109	学校としての支援活動の内容からみて、(1)の体制が機能しているか。 ■機能している □機能していない	学生部門	
			3-2-⑦ 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	3-2-⑦-(1)	110	学生寮を整備しているか。 ■整備している □整備していない	寮務・グローバル教育部
				3-2-⑦-(2)	111	生活の場として整備しているか。 ■整備している □整備していない	寮務・グローバル教育部
				3-2-⑦-(3)	112	勉学の場として整備しているか。 ■整備している □整備していない	寮務・グローバル教育部
				3-2-⑦-(4)	113	(2)(3)について、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	寮務・グローバル教育部
				3-2-⑦-(5)	114	管理・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	寮務・グローバル教育部
4 財務基盤及び管理運営	4-1 学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。	4-1-① 学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	4-1-①-(1)	115	過去5年間の貸借対照表等による財務状態は適切な状況となっているか。 ■なっている □なっていない	総務部門	
			4-1-①-(2)	116	校地、校舎等の資産を保有しているか。 ■保有している □保有していない	総務部門	
			4-1-①-(3)	117	過去5年間に於いて運営費交付金、授業料、入学料、検定料等の経常的な収入を確保しているか。 ■確保している □確保できない年があった	総務部門	
			4-1-①-(4)	118	過去5年間の収支状況において支出超過となっていないか。 ■支出超過となっていない □支出超過となった年があった	総務部門	
		4-1-② 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	4-1-②-(1)	119	収支に係る方針、計画等を策定しているか。 ■策定している □策定していない	総務部門	
			4-1-②-(2)	120	(1)に関係者(教職員等)へ明示しているか。 ■明示している □明示していない	総務部門	
			4-1-③ 学校の目的を達成するため、教育研究活動(必要な施設・設備の整備を含む)に対しての資源配分を、学校として適切に行う体制を整備し、行っているか。	4-1-③-(1)	121	学校の目的を達成するために、教育研究活動に対して適切な資源配分を決定する際、明確なプロセスに基づいて行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
				4-1-③-(2)	122	資源配分が、4-1-②の収支に係る方針、計画と整合性を有しているか。 ■整合性がある □整合性がない	総務部門
		4-1-③-(3)		123	資源配分の内容について、関係者(教職員等)に明示しているか。 ■明示している □明示していない	総務部門	
		4-1-④ 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表された。財務に係る監査等が適正に行われているか。	4-1-④-(1)	124	設置者は、法令等に基づき、財務諸表等を作成・公表しているか。 ■作成・公表している □作成・公表していない	総務部門	
			4-1-④-(2)	125	財務に係る監査等を実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門	
		4-2 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。	4-2-① 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	4-2-①-(1)	126	管理運営体制に関する規程等を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
	4-2-①-(2)			127	委員会等の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門	
	4-2-①-(3)			128	校長、主事等の役割分担が明確になっているか。 ■なっている □なっていない	総務部門	
	4-2-①-(4)			129	事務組織の体制を規程等に基づき整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門	
	4-2-①-(5)			130	教員と事務職員等とが適切な役割分担の下、必要な連絡体制を確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門	
	4-2-①-(6)			131	(1)～(5)の体制の下、効果的な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門	
	4-2-①-(7)			132	研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められており、また改善を図っていくための体制が整備され機能しているか。(より望ましい取組として分析) ■行っている □行っていない	総務部門	
	4-2-①-(8)			133	地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められており、また改善を図っていくための体制が整備され機能しているか。(より望ましい取組として分析) ■行っている □行っていない	総務部門	
	4-2-② 危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。			4-2-②-(1)	134	学校として、責任の所在を明確にした危機管理を含む安全管理体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
				4-2-②-(2)	135	危機管理マニュアル等を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
				4-2-②-(3)	136	(1)(2)に基づき、定期的に訓練を行うなど、危機に備えた活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
				4-2-③ 外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	4-2-③-(1)	137	外部の財務資源(科学研究費助成事業による外部資金、受託研究、共同研究、受託試験、奨学金等、同窓会等からの寄付金等)を積極的に受入れる取組を行っているか。 ■行っている □行っていない
	4-2-③-(2)		138		公的研究費を適正に管理するシステムが整備されているか。 ■整備されている □整備されていない	総務部門	

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 専用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等							
			4-2-③-(3)	139	研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。(より望ましい取組として分析) ■整備されている □整備されていない	総務部門							
			4-2-③-(4)	140	研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。(より望ましい取組として分析) ■整備されている □整備されていない	総務部門							
			4-2-④ 外部の教育資源を積極的に活用しているか。	4-2-④-(1)	141	外部の教育・研究資源を活用しているか。 ■活用している □活用していない 外部の教育・研究資源を活用しているか。 ■活用している □活用していない	教務部門 専攻科・研究推進部門						
				4-2-④-(2)	142	地域貢献活動等の目的に照らして、活動が計画的に実施されているか。(より望ましい取組として分析) ■実施している □実施していない 地域貢献活動等の目的に照らして、活動が計画的に実施されているか。(より望ましい取組として分析) ■実施している □実施していない	教務部門 専攻科・研究推進部門						
			4-2-④-(3)	143	地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。(より望ましい取組として分析) ■実施している □実施していない 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。(より望ましい取組として分析) ■実施している □実施していない	専攻科・研究推進部門 教務部門							
				4-2-⑤	144	管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組(スタッフ・ディベロップメント)が組織的に行われているか。	総務部門						
			4-3 学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。	4-3-① 学校における教育研究活動等の状況(学校教育法施行規則第172条の2に規定される事項を含む。)が公表されているか。	4-3-①-(1)	145	教育情報を法令に従い適切に公表しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 ■教育研究上の基本組織 □教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 ■校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ■授業料、入学科その他の高等専門学校が徴収する費用 □高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援 □選任教員に関する情報 教育情報を法令に従い適切に公表しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) □高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 □教育研究上の基本組織 □教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 □入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 □授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 □学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 ■校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ■授業料、入学科その他の高等専門学校が徴収する費用 ■高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援 □選任教員に関する情報 教育情報を法令に従い適切に公表しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 ■教育研究上の基本組織 ■教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 □校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 □授業料、入学科その他の高等専門学校が徴収する費用 □高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援 □選任教員に関する情報 教育情報を法令に従い適切に公表しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 ■教育研究上の基本組織 ■教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 □校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 □授業料、入学科その他の高等専門学校が徴収する費用 □高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援 □選任教員に関する情報	教務部門 学生部門 専攻科・研究推進部門					
							5 准学士課程の教育課程・教育方法	5-1 准学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。	5-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	5-1-①-(1)	146	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 ■配置している □配置していない	教務部門
										5-1-①-(2)	147	一般教育の充実に対応しているか。 ■配慮している □配慮していない	教務部門
										5-1-①-(3)	148	進級に関する規定を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
							5-1-①-(4)	149	1年間の授業を行う期間を定期試験等の期間を含め、35週確保しているか。 ■確保している □確保していない	教務部門			
							5-1-①-(5)	150	特別活動を90単位時間以上実施しているか。 ■実施している □実施していない	教務部門			

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等	
		5-1-② 教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。	5-1-②-(1)	151	学生が多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮としてどのようなことを行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) <input type="checkbox"/> 他学科の授業科目の履修を認定 <input type="checkbox"/> インターンシップによる単位認定 <input checked="" type="checkbox"/> 専攻科課程教育との連携 <input type="checkbox"/> 外国語の基礎能力(聞く、話す、読む、書く)の育成 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得に関する教育 <input checked="" type="checkbox"/> 他の高等教育機関との単位互換制度 <input checked="" type="checkbox"/> 個別の授業科目内での工夫 <input checked="" type="checkbox"/> 最先端の技術に関する教育 <input type="checkbox"/> その他	教務部門	
			5-1-②-(2)	152	他の高等教育機関との単位互換制度を設けている場合、法令に従い適切に取り扱っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 適切に取り扱っている <input type="checkbox"/> 適切に取り扱っていない <input type="checkbox"/> 単位互換制度を設けていないので、該当しない	教務部門	
			5-1-③ 創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。	5-1-③-(1)	153	創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	教務部門
				5-1-③-(2)	154	実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	教務部門
		5-2 準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。	5-2-① 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	5-2-①-(1)	155	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に照らして、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 採用されている <input type="checkbox"/> 採用されていない	教務部門
				5-2-①-(2)	156	教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。(該当する選択肢にチェック■する。) <input checked="" type="checkbox"/> 教材の工夫 <input type="checkbox"/> 少人数教育 <input checked="" type="checkbox"/> 対話・討論型授業 <input type="checkbox"/> フィールド型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 情報機器の活用 <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮 <input type="checkbox"/> 一般科目と専門科目との連携 <input type="checkbox"/> その他	教務部門
			5-2-② 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。	5-2-②-(1)	157	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえて適切に設定された項目に基づきシラバスを作成しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) <input checked="" type="checkbox"/> 授業科目名 <input checked="" type="checkbox"/> 単位数 <input checked="" type="checkbox"/> 授業形態 <input checked="" type="checkbox"/> 対象学年 <input checked="" type="checkbox"/> 担当教員名 <input checked="" type="checkbox"/> 教育目標等との関係 <input checked="" type="checkbox"/> 達成目標 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方法 <input checked="" type="checkbox"/> 教育内容(1授業時間ごとに記載) <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価方法・基準 <input checked="" type="checkbox"/> 事前に行う準備学習 <input checked="" type="checkbox"/> 高等専門学校設置基準第17条第3項の規定に基づく授業科目か、4項の規定に基づく授業科目かの区別の明示 <input checked="" type="checkbox"/> 教科書・参考文献 <input type="checkbox"/> その他	教務部門
				5-2-②-(2)	158	教員及び学生のシラバスの活用状況を把握し、その把握した状況を基に改善を行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善を行っている <input type="checkbox"/> 改善を行っていない	教務部門
				5-2-②-(3)	159	設置基準17条第3項の30単位時間授業では1単位当たり30時間を確保しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 確保している <input type="checkbox"/> 確保していない	教務部門
				5-2-②-(4)	160	(3)の30単位時間授業では、1単位時間を50分としているか。 <input type="checkbox"/> 1単位時間=50分で規定・運用 <input checked="" type="checkbox"/> 1単位時間=50分で規定、45分で運用	教務部門
5-2-②-(5)	161			1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合には、授業科目ごとのシラバス、あるいはシラバス集、履修要項等に、1単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて45時間であることを明示しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 明示している <input type="checkbox"/> 明示していない	教務部門		
5-2-②-(6)	162			(5)の履修時間の実質化のための対策としてどのような方策を講じているか。(該当する選択肢にチェック■する。) <input checked="" type="checkbox"/> 授業外学習の必要性の周知 <input checked="" type="checkbox"/> 事前学習の徹底 <input checked="" type="checkbox"/> 事後展開学習の徹底 <input checked="" type="checkbox"/> 授業外学習の時間の把握 <input type="checkbox"/> その他	教務部門		
5-3 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)並びに卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	5-3-① 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。		5-3-①-(1)	163	成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、策定しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 策定している <input type="checkbox"/> 策定していない	教務部門	
			5-3-①-(2)	164	成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	教務部門	
		5-3-①-(3)	165	1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 把握している <input type="checkbox"/> 把握していない	教務部門		
		5-3-①-(4)	166	成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 周知している <input type="checkbox"/> 周知していない	教務部門		
		5-3-①-(5)	167	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 把握している <input type="checkbox"/> 把握していない	教務部門		
		5-3-①-(6)	168	定期試験以外の試験(追試、再試、追認試験等)の成績評価方法を定めているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない	教務部門		
		5-3-①-(7)	169	成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	教務部門		
		5-3-①-(8)	170	成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価の妥当性の事後チェック <input checked="" type="checkbox"/> 答案の返却 <input checked="" type="checkbox"/> 模範解答や採点基準の提示 <input type="checkbox"/> 複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック <input type="checkbox"/> 試験問題のレベルが適切であることのチェック <input type="checkbox"/> その他(GPAの進級判定への利用、成績分布のガイドラインの設定等)	教務部門		

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
					成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■成績評価の妥当性の事後チェック ■答案の返却 ■採点解答や採点基準の提示 □複数年次にわたって同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ■試験問題のレベルが適切であることのチェック □その他(GPAの進級判定への利用、成績分布のガイドラインの設定等)	総務部門
		5-3-②	卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。	5-3-②-(1) 171	学則等に、修業年限を5年(商船に関する学科は5年6月。)と定めているか。 ■定めている □定めていない	教務部門
				5-3-②-(2) 172	卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、卒業認定基準を定めているか。 ■定めている □定めていない	教務部門
				5-3-②-(3) 173	卒業認定基準に基づき、卒業認定しているか。 ■認定している □認定していない	教務部門
				5-3-②-(4) 174	卒業認定基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知をしていない	教務部門
				5-3-②-(5) 175	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握をしていない	教務部門
6	准学士課程の 学生の受入れ	6-1	入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正数となっていること。	6-1-①-(1) 176	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法(学生募集の方針、選抜区分(学力選抜、推薦選抜等。)、面接内容、配点・出題方針等。)となっているか。 ■なっている □なっていない	教務部門
		6-1-②	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。	6-1-②-(1) 177	検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
				6-1-②-(2) 178	(1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)に沿っているかどうかの検証を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
				6-1-②-(3) 179	(2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立っているか。 ■改善に役立っている □改善に役立っていない	教務部門
		6-1-③	実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	6-1-③-(1) 180	収容定員を学科ごとに学則で定めているか。また、1学級当たり40人を標準としているか。 ■定めている □定めていない	教務部門
				6-1-③-(2) 181	学科ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
				6-1-③-(3) 182	過去5年間の学科ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。 ■適正である □超過又は不足がある	教務部門
				6-1-③-(4) 183	過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 ■行っている □行っていない ■過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない	教務部門
7	准学士課程の 学習・教育の 成果	7-1	卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に照らして、学習・教育の成果が認められること。	7-1-①-(1) 184	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
				7-1-①-(2) 185	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価しているか。 ■把握・評価している □把握・評価していない	教務部門
				7-1-①-(3) 186	(2)の結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	教務部門
		7-1-②	達成状況に関する学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果から判断して、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に沿った学習・教育の成果が認められるか。	7-1-②-(1) 187	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門
				7-1-②-(2) 188	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
				7-1-②-(3) 189	学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、卒業生(卒業後5年程度経った者)に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
				7-1-②-(4) 190	学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、卒業生(卒業後5年程度経った者)に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
				7-1-②-(4) 190	学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
8 専攻科課程の 教育活動の状 況	8-1 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	7-1-③ 就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	7-1-②-(5)	191	(2)～(4)の評価結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進部門
			7-1-③-(1)	192	学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	総務部門
					学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	教務部門
			7-1-③-(2)	193	学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適したものであるか。 ■なっている □なっていない	学生部門
				学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適したものであるか。 ■なっている □なっていない	学生部門	
		8-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	8-1-①-(1)	194	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 ■配置している □配置していない	専攻科・研究推進部門
		8-1-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。	8-1-②-(1)	195	専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。 ■考慮している □考慮していない	専攻科・研究推進部門
		8-1-③ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のパラメータが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	8-1-③-(1)	196	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。 ■採用されている □採用されていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-③-(2)	197	教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教材の工夫 ■少人数教育 ■対話・討論型授業 ■フィールド型授業 ■情報機器の活用 □基礎学力不足の学生に対する配慮 □一般科目と専門科目との連携 □その他	専攻科・研究推進部門
		8-1-④ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	8-1-④-(1)	198	学生への教養教育や研究指導を、適切に行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
		8-1-⑤ 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	8-1-⑤-(1)	199	成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。 ■策定している □策定していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(2)	200	成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
	8-1-⑤-(3)	201	1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	専攻科・研究推進部門		
	8-1-⑤-(4)	202	成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	専攻科・研究推進部門		
	8-1-⑤-(5)	203	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	専攻科・研究推進部門		
	8-1-⑤-(6)	204	定期試験以外の試験（追試、再試、追認試験等）の成績評価方法を定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門		
	8-1-⑤-(7)	205	成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。 ■ある □ない	専攻科・研究推進部門		
	8-1-⑤-(8)	206	成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■成績評価の妥当性の事後チェック ■答案の返却 ■模範解答や採点基準の提示 □複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ■試験問題のレベルが適切であることをチェック □その他（GPAの進級判定への利用、成績分布のガイドラインの設定等）	専攻科・研究推進部門		
	8-1-⑥ 修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。	8-1-⑥-(1)	207	学則等に、修業年限を1年以上と定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門	
		8-1-⑥-(2)	208	修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、修了認定基準を定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門	
		8-1-⑥-(3)	209	修了認定基準に基づき、修了認定しているか。 ■認定している □認定していない	専攻科・研究推進部門	
		8-1-⑥-(4)	210	修了認定基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	専攻科・研究推進部門	
		8-1-⑥-(5)	211	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	専攻科・研究推進部門	

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 専用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等		
	8-2 専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。	8-2-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	8-2-①-(1)	212	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等）となっているか。 ■なっている □なっていない	専攻科・研究推進部門		
			8-2-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。	8-2-②-(1)	213	検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門	
				8-2-②-(2)	214	(1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者に関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門	
			8-2-②-(3)	215	(2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立てているか。 ■改善に役立てている □改善に役立てていない	専攻科・研究推進部門		
		8-2-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	8-2-③-(1)	216	収容定員を専攻ごとに学則等で定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門		
			8-2-③-(2)	217	専攻ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門		
			8-2-③-(3)	218	過去5年間の専攻ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。 ■適正である ■超過又は不足がある	専攻科・研究推進部門		
			8-2-③-(4)	219	過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 ■行っている □行っていない □過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない	専攻科・研究推進部門		
			8-3 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。	8-3-① 成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-3-①-(1)	220	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門
					8-3-①-(2)	221	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価しているか。 ■把握・評価している □把握・評価していない	専攻科・研究推進部門
	8-3-①-(3)	222	(2)の結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない		専攻科・研究推進部門			
	8-3-② 達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-3-②(1)	8-3-②-(1)	223	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門		
			8-3-②-(2)	224	学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門		
		8-3-②(3)	8-3-②-(3)	225	学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門		
			8-3-②-(4)	226	学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門		
		8-3-②(5)	8-3-②-(5)	227	(2)～(4)の評価結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進部門		
			8-3-③ 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-3-③-(1)	228	学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進部門	
	8-3-③-(2)	229		学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 ■なっている □なっていない	専攻科・研究推進部門			
	8-3-④ 修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-3-④-(1)	230	過去5年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進部門			
		9 その他	9-1 いじめの未然防止、早期発見等のための対策が組織的に取られていること。	9-1-①(1)	231	(1)いじめ対策の基本計画は定められているか ■定められている □定められていない	学生部門	
9-1-①(2)	232	(2)いじめ対策マニュアルを整備しているか ■整備している □整備していない		学生部門				
9-1-①(3)	233	(3)いじめ対策プログラムは計画しているか ■計画している □計画していない		学生部門				

資料編

第1章 教育に関する評価関係

入試説明会等状況

中学校教諭対象入試説明会

年度	奈良	大阪	京都	その他	合計
H25	67名	16名	3名	2名	88名
H26	66名	12名	7名	1名	86名
H27	67名	13名	4名	0名	84名
H28	58名	7名	2名	4名	71名
H29	63名	7名	2名	0名	72名
H30	73名	10名	13名	1名	97名
R1	57名	18名	7名	2名	84名
R2	58名	21名	7名	3名	89名
R3	68名	22名	9名	4名	103名
R4	61名	20名	5名	2名	88名

中学生・保護者対象 学校&入試説明会等

年度	学校・入試説明会				学校・入試説明会以外の 本校主催入試説明会の計		合計	
	10月下旬の土曜日		10月下旬の日曜日					
H25	119組	235名	128組	251名	170組	312名	417組	798名
H26	80組	171名	117組	255名	152組	287名	349組	713名
H27	92組	206名	134組	280名	214組	422名	440組	908名
H28	85組	187名	90組	194名	215組	428名	390組	809名
H29	113組	233名	99組	212名	249組	484名	461組	929名
H30	組	名	127組	273名	278組	574名	405組	847名
R1	98組	214名	139組	295名	114組	230名	351組	739名
R2	99組	196名	89組	177名	85組	145名	273組	518名
R3	97組	193名	95組	185名	98組	166名	290組	544名
R4	79組	152名	81組	145名	49組	86名	209組	383名

※H30:12/9 1日開催

学習塾指導者対象入試説明会

年度	参加者数	
H25	40塾	45名
H26	23塾	29名
H27	28塾	32名
H28	25塾	27名
H29	28塾	29名
H30	31塾	39名
R1	21塾	25名
R2	17塾	17名
R3	15塾	15名
R4	16塾	16名

中学校訪問

年 度	訪 問	左のうち県内	
H25	216 校	90 校	
H26	221 校	91 校	
H27	242 校	92 校	
H28	243 校	93 校	
H29	114 校	75 校	
H30	92 校	71 校	
R1	92 校	71 校	
R2	- 校	- 校	※
R3	7 校	7 校	※
R4	11 校	11 校	

※新型コロナウイルス感染症の状況により中止

体験入学

年 度	1日目	2日目	3日目	計	
H25	201 名	194 名	175 名	570 名	
H26	206 名	174 名	163 名	543 名	
H27	189 名	196 名	153 名	538 名	
H28	187 名	190 名	144 名	521 名	
H29	182 名	180 名	136 名	498 名	
H30	167 名	164 名	178 名	509 名	
R1	199 名	193 名	189 名	581 名	
R2	- 名	- 名	- 名	- 名	※
R3	- 名	- 名	- 名	- 名	※
R4	165 名	149 名	127 名	441 名	

※新型コロナウイルス感染症の状況により中止

塾・中学校主催 学校説明会等参加状況

年 度	塾主催説明会	中学校主催説明会	中学校からの本校訪問	計
H25	13 回	10 回	3 回	26 回
H26	13 回	7 回	2 回	22 回
H27	13 回	7 回	8 回	28 回
H28	12 回	8 回	4 回	24 回
H29	8 回	6 回	1 回	15 回
H30	6 回	8 回	1 回	15 回
R1	8 回	5 回	3 回	16 回
R2	3 回	3 回	0 回	6 回
R3	5 回	3 回	0 回	8 回
R4	7 回	5 回	0 回	12 回

入学試験状況

()は女子で内数

年度		機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合 計
H25	総志願者	74	64	73	89	72	372 (59)
	志願者倍率	1.9	1.6	1.8	2.2	1.8	1.9
	推薦志願者数	29	40	39	44	54	206 (48)
	入学者数	40 (1)	42 (4)	42 (5)	42 (3)	41 (18)	207 (31)
H26	総志願者	68	49	85	86	78	366 (44)
	志願者倍率	1.7	1.2	2.1	2.2	2.0	1.8
	推薦志願者数	30	26	50	37	43	186 (34)
	入学者数	42 (1)	42 (9)	40 (2)	41 (2)	41 (10)	206 (24)
H27	総志願者	52	64	64	56	54	290 (43)
	志願者倍率	1.3	1.6	1.6	1.4	1.4	1.5
	推薦志願者数	25	30	35	27	36	153 (25)
	入学者数	42 (2)	42 (5)	40 (0)	42 (6)	41 (14)	207 (27)
H28	総志願者	59	56	67	79	53	314 (60)
	志願者倍率	1.5	1.4	1.7	2.0	1.3	1.6
	推薦志願者数	33	35	40	43	33	184 (46)
	入学者数	41 (7)	41 (9)	41 (7)	40 (7)	42 (14)	205 (44)
H29	総志願者	52	49	53	51	59	264 (50)
	志願者倍率	1.3	1.2	1.3	1.3	1.5	1.3
	推薦志願者数	21	23	32	26	34	136 (33)
	入学者数	42 (5)	42 (9)	40 (4)	41 (8)	42 (15)	207 (41)
H30	総志願者	52	51	69	75	52	299 (50)
	志願者倍率	1.3	1.3	1.7	1.9	1.3	1.5
	推薦志願者数	30	40	37	38	32	177 (39)
	入学者数	41 (3)	41 (4)	42 (2)	40 (4)	40 (20)	204 (33)
H31	総志願者	55	48	53	88	64	308 (67)
	志願者倍率	1.4	1.2	1.3	2.2	1.6	1.5
	推薦志願者数	27	26	35	48	44	180 (45)
	入学者数	42 (6)	40 (6)	41 (2)	41 (12)	41 (19)	205 (45)
2020	総志願者	52	70	60	71	58	311 (51)
	志願者倍率	1.3	1.8	1.5	1.8	1.5	1.6
	推薦志願者数	41	44	41	38	46	210 (42)
	入学者数	41 (4)	42 (9)	42 (0)	40 (6)	40 (18)	205 (37)
R3	総志願者	35	39	50	78	45	247 (50)
	志願者倍率	0.9	1.0	1.3	2.0	1.1	1.2
	推薦志願者数	19	23	32	49	30	153 (44)
	入学者数	40 (6)	42 (8)	41 (3)	42 (13)	40 (16)	205 (46)
R4	総志願者	43	40	41	71	66	261 (69)
	志願者倍率	1.1	1.0	1.0	1.8	1.7	1.3
	推薦志願者数	24	32	27	46	45	174 (55)
	入学者数	43 (8)	42 (8)	42 (8)	41 (10)	42 (23)	210 (57)
R5	総志願者	48	36	47	59	52	242 (59)
	志願者倍率	1.2	0.9	1.2	1.5	1.3	1.2
	推薦志願者数	28	27	30	44	41	170 (50)
	入学者数	41 (5)	42 (12)	42 (6)	41 (10)	43 (22)	209 (55)

※ 志願者倍率は、総志願者数を入学定員(学科欄は40名、合計欄は200名)で割ったもの。

資料 3

編入学試験状況

年度		機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合計	志願者数 内訳			
H25	志願者数	0	1	1	2	1	5	5	0		
	合格者数	0	1	0	0	0	1	工業系	普通科		
	入学者数	0	1	0	0	0	1				
H26	志願者数	1	3	0	2	0	6			H26年度より 普通科系廃止	
	合格者数	0	1	0	1	0	2				
	入学者数	0	1	0	1	0	2				
H27	志願者数	3	1	0	1	0	5	H26年度より 普通科系廃止			
	合格者数	1	1	0	0	0	2				
	入学者数	1	1	0	0	0	2				
H28	志願者数	0	1	0	2	0	3			H26年度より 普通科系廃止	
	合格者数	0	0	0	2	0	2				
	入学者数	0	0	0	2	0	2				
H29	志願者数	1	0	1	2	0	4	H26年度より 普通科系廃止			
	合格者数	0	0	0	0	0	0				
	入学者数	0	0	0	0	0	0				
H30	志願者数	1	1	0	3	0	5			H26年度より 普通科系廃止	
	合格者数	0	1	0	2	0	3				
	入学者数	0	1	0	2	0	3				
H31	志願者数	1	2	0	3	0	6	H26年度より 普通科系廃止			
	合格者数	0	0	0	3	0	3				
	入学者数	0	0	0	3	0	3				
2020	志願者数	1	1	1	3	0	6			H26年度より 普通科系廃止	
	合格者数	0	1	0	3	0	4				
	入学者数	0	1	0	3	0	4				
R3	志願者数	0	3	0	3	1	7	H26年度より 普通科系廃止			
	合格者数	0	2	0	0	0	2				
	入学者数	0	2	0	0	0	2				
R4	志願者数	3	1	0	4	0	8			H26年度より 普通科系廃止	
	合格者数	1	0	0	3	0	4				
	入学者数	1	0	0	3	0	4				
R5	志願者数	1	1	1	4	0	7	H26年度より 普通科系廃止			
	合格者数	0	0	0	2	0	2				
	入学者数	0	0	0	2	0	2				

一般科目 [令和4年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	国語Ⅰ	3	3					学修単位	
	国語Ⅱ	3		3					
	国語Ⅲ	2			2				
	国語表現法	2				2			
	地理	2	2						
	歴史	2		2					
	公共	2			2				学修単位
	政治・経済	2			2				学修単位
	現代社会と法	2					2		学修単位
	基礎数学 α	4	4						
	基礎数学 β	2	2						
	微分積分Ⅰ	4		4					
	微分積分Ⅱ	2			2				
	線形代数	2		2					
	数学特論 α	2			2				
	数学特論 β	1			1				
	地球惑星物理	1	1						
	物理Ⅰ	1	1						
	物理Ⅱ	3		3					
	生物	1	1						
	化学Ⅰ	2	2					物質化学工学科以外	
	化学Ⅱ	2		2					
	化学	4	4					物質化学工学科のみ	
	保健・体育Ⅰ	2	2					学修単位 学修単位	
	保健・体育Ⅱ	2		2					
	体育理論Ⅰ	2			2				
	体育理論Ⅱ	2				2			
	体育実技	1					1		
	英語Ⅰ	3	3						
	英語Ⅱ	3		3					
英語Ⅲ	2			2					
英語Ⅳ	4				4				
英語Ⅴ	2					2			
英文法Ⅰ	2	2					学修単位 学修単位		
英文法Ⅱ	2		2						
英文法Ⅲ	1			1					
選択必修科目	美術	2	※2					学修単位	
	音楽	2	※2					※の内いずれか1科目を選択	
	人間環境学	2					Δ 2	学修単位 Δ の内いずれか1科目を選択	
	地域学	2					Δ 2		
日本文化学	2						Δ 2		
必修科目 (留学生)	留学生の日本語	2			2				
選択科目	実用英語Ⅰ	1			1	(1)	(1)	()は未修得者	
	実用英語Ⅱ	1				1	(1)		
	実用英語Ⅲ	1					1		
	異文化交流Ⅰ	1	1						
	異文化交流Ⅱ	1		1					
	異文化交流Ⅲ	1			1				
	異文化交流Ⅳ	1				1			
	異文化交流Ⅴ	1					1		
	海外協働研修Ⅰ	1	1						
	海外協働研修Ⅱ	1		1					
	海外協働研修Ⅲ	1			1				
	海外協働研修Ⅳ	1				1			
	海外協働研修Ⅴ	1					1		
	修得単位計	79[79]	25[27]	23[21]	16[16]	8[8]	7[7]		

専門科目 (機械工学科)[令和4年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					
	応用数学 α	2				2		学修単位
	応用数学 β	2				2		学修単位
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	機械工学基礎	2	2					
	機械工学ゼミナール	1				1		
	技術英語	2					2	学修単位
	材料学Ⅰ	1		1				
	材料学Ⅱ	2			2			
	機械工作法Ⅰ	2		2				
	機械工作法Ⅱ	2			2			
	材料力学Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	2				2		学修単位
	材料力学演習	1				1		
	流体力学Ⅰ	2				2		学修単位
	流体力学Ⅱ	2				2		学修単位
	流体力学演習	1					1	
	熱工学Ⅰ	2				2		学修単位
	熱工学Ⅱ	2				2		学修単位
	熱工学演習	1					1	
	機械力学Ⅰ	2			2			
	機械力学Ⅱ	2				2		学修単位
	機械力学演習	1				1		
	電気電子工学	2			2			
	計測工学	2					2	学修単位
	制御工学Ⅰ	2				2		学修単位
	制御工学Ⅱ	2					2	学修単位
	応用制御工学	2					2	学修単位
	情報処理	2			2			
	数値計算法	1				1		
	機械設計製図Ⅰ	2	2					
	機械設計製図Ⅱ	2		2				
	創造設計	1			1			
機構学	2		2					
機械設計工学	2					2	学修単位	
機械設計工学演習	2					2		
生産システム工学	2					2	学修単位	
機械工作実習Ⅰ	3	3						
機械工作実習Ⅱ	3		3					
創造設計製作	3			3				
機械工学実験Ⅰ	3				3			
機械工学実験Ⅱ	2					2		
卒業研究	6					6		
選択科目	学外実習	1				1		
専門科目開設単位計		89	9	10	18	28	24	
修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7	
	専門科目	88	9	10	18	27	24	
	計	167	34	33	34	35	31	

専門科目 (物質化学工学科)[令和4年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					
	応用数学 α	2				2		学修単位
	応用数学 β	2				2		学修単位
	応用物理 I	2			2			
	応用物理 II	2				2		
	一般化学演習 I	1	1					
	一般化学演習 II	1		1				
	一般化学演習 III	1		1				
	化学特論 I	1	1					
	化学特論 II	1		1				
	分析化学	2			2			
	機器分析	2					2	学修単位
	有機化学 I	2		2				
	有機化学 II	2			2			
	有機化学 III	2				2		
	有機材料合成化学	1					1	
	機能性高分子化学	2					2	学修単位
	無機化学 I	2		2				
	無機化学 II	2			2			
	固体化学	2				2		学修単位
	基礎電気化学	2					2	学修単位
	物理化学 I	2			2			
	物理化学 II	2				2		
	基礎量子化学	2				2		
	生物化学 I	2		2				
	生物化学 II	2			2			
	生物化学 III	2				2		
	応用微生物学	1				1		
	分子生物学	2					2	学修単位
	生物化学工学	1				1		
	化学工学 I	2			2			
	化学工学 II	2				2		
	微粒子工学	2				2		学修単位
反応工学	2					2	学修単位	
環境分離工学	2					2	学修単位	
プロセス制御	2					2	学修単位	
物質化学工学実験 I	2	2						
物質化学工学実験 II	4		4					
物質化学工学実験 III	4			4				
物質化学工学実験 IV	4				4			
卒業研究	10					10		
選択科目	学外実習	1				1		
専門科目開設単位計		89	6	13	18	27	25	

修得単位	一般科目	79	27	21	16	8	7
	専門科目	88	6	13	18	26	25
	計	167	33	34	34	34	32

資料 4 - 1 - 7

特別活動

単位時間数	学年別配当		
	1年	2年	3年
90	30	30	30

グローバルエンジニア養成教育プログラム [令和4年度開講科目一覧表]

区分	科目名	単位数		備考	
		本科	専攻科		
ベーシック	英語アクティブラーニングI	1			
	英語アクティブラーニングII	1			
	グローバルエンジニアスキル	2			
	異文化交流 I	1		※1, ※3	
	異文化交流 II	1			
	異文化交流 III	1			
	異文化交流 IV	1			
	異文化交流 V	1			
	海外協働研修 I	1		※2, ※3	
	海外協働研修 II	1			
	海外協働研修 III	1			
	海外協働研修 IV	1			
	海外協働研修 V	1			
	アドバンスト	アドバンスト・グローバルコミュニケーション		2	
		海外インターンシップ		2	
アドバンスト・グローバルエンジニアスキル			2		
※1 異文化交流 I～Vのうち、1単位以上修得すること ※2 海外協働研修 I～Vのうち、1単位以上修得すること ※3 グローバルエンジニア養成教育プログラム履修者以外の学生も受講できる					

グローバル工学協働教育プログラム [令和4年度開講科目一覧表]

区分	科目名	単位数		備考
		本科	専攻科	
ベーシック	英語アクティブラーニングI	1		
	英語アクティブラーニングII	1		
	グローバルエンジニアスキル	1		
	異文化交流 I	1		※1, ※3
	異文化交流 II	1		
	異文化交流 III	1		
	異文化交流 IV	1		
	異文化交流 V	1		
	海外協働研修 I	1		※2, ※3
	海外協働研修 II	1		
	海外協働研修 III	1		
	海外協働研修 IV	1		
	海外協働研修 V	1		
	グローバルチャレンジ	1		
	アドバンスト	アドバンスト・グローバルコミュニケーション		2
海外インターンシップ			2	※3, ※4
アドバンスト・グローバルエンジニアスキル			2	
アドバンスト・グローバルチャレンジ			2	※4
※1 異文化交流についてはI～Vのうち、1単位以上修得すること ※2 海外協働研修についてはI～Vのうち、1単位以上修得すること ※3 グローバル工学協働教育プログラム履修者以外の学生も受講できる ※4 2単位以上修得すること				

しなやか教育プログラム [令和4年度開講科目一覧表]

区分	科目名	単位数		備考
		本科	専攻科	
ベーシック	エンジニアの感性と表現Ⅰ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅱ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅲ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅳ	1		
	基礎イノベティブワークショップ	1		
	応用イノベティブワークショップ	1		
	統合イノベティブワークショップ	1		
	ダイバーシティとインクルージョン	1		
アドバンス	エンジニアと経営		2	
	リーダーシップと意思決定		2	
	ビジネスデザイン		2	

専攻科 [令和 4 年度開講科目一覧表]

教養・専門基礎科目

区分	科目名	単位数	学年別配当		備考	
			1年	2年		
教 養	選択必修	特修英語Ⅰ	2	2		4単位以上選択すること
		特修英語Ⅱ	2	2		
		プレゼンテーション英語	2		2	
		アドバンスト・グローバルコミュニケーション	2	2		
	選択必修	地域と世界の文化論	2		2	2単位以上選択すること
		リーダーシップと意思決定	2	2		※2
ビジネスデザイン		2		2	※2	
開設単位数計		14				
専 門 基 礎	必修	地域社会技術特論	2	2		
		技術者倫理	2	2		
	選択必修	数理科学	2	2		2科目以上を選択
		物理学特論A	2	2		
		物理学特論B	2		2	
	選 択	エンジニアと経営	2	2		※2
		インターンシップ	2	2		
		海外インターンシップ	2	2		※3
		アドバンスト・グローバルエンジニアスキル	2	2		※1
		アドバンスト・グローバルチャレンジ	2	2		※3
開設単位数計		20				
教養・専門基礎科目開設単位数計		34				
<p>教養 専門基礎科目修得単位数 計 20単位以上修得すること</p> <p>(※1) グローバル工学協働教育プログラム履修生は必修</p> <p>(※2) しなやかエンジニア教育プログラム履修生は必修</p> <p>(※3) グローバル工学協働教育プログラム履修生はいずれかを履修すること</p>						

専攻科 [令和 4 年度開講科目一覧表]

専門科目 (システム創成工学専攻)

区分	科目名		単位数	学年別配当		備考
				1年	2年	
専 門 必 修	工学基礎研究		10	10		いずれかを選択
	地域創生工学研究		10	10		
	特別研究		10		10	
	システムデザイン演習		3	3		
	システム設計論 I		2	2		
	システム設計論 II		2	2		
	機械制御システムコース	電子情報設計技術基礎	2	2		
	電気電子システム、情報システムコース	機械設計技術基礎	2	2		
	機械制御システムコース	研究力向上セミナーI (機械制御系)	2	2		
	機械制御システムコース	研究力向上セミナーII (機械制御系)	2	2		
	電気電子システムコース	研究力向上セミナー (電気電子系)	2	2		
	情報システムコース	研究力向上セミナーI (情報系)	2	2		
	情報システムコース	研究力向上セミナーII (情報系)	2		2	
	専門必修開設単位数 計			51	39	12
専 門 選 択	機械制御システムコース	実用技術英語 (機械系)	2	2		
	電気電子システム、情報システムコース	実用技術英語 (電気電子・情報系)	2	2		
	3コース共通	計測工学特論	2		2	
		ヒューマンインターフェース	2		2	
	機械制御システムコース	油空圧制御工学	2	2		
		制御工学特論	2	2		
		特殊加工学	2		2	
		工業材料	2		2	
		流体力学特論	2		2	
		計算機援用設計	2		2	
		輸送現象論	2		2	
	電気電子システムコース	電気電子回路特論	2	2		
		電磁気学特論	2	2		
		電子物性	2		2	
		エネルギーエレクトロニクス	2		2	
		情報伝送	2		2	
		電力システム工学特論	2		2	
	情報システムコース	計算理論	2	2		
		計算機ハードウェア	2	2		
		ソフトウェア設計	2		2	
情報工学基礎論		2		2		
メディアシステム論		2		2		
専門選択開設単位数 計			44	16	28	
専門科目開設単位 計			95	55	40	
システム創成工学専攻 合計			129			
専門科目修得単位数 計 42単位以上						

専攻科 [令和 4 年度開講科目一覧表]

専門科目 (物質創成工学専攻)

区分	科目名	単位数	学年別配当		備考	
			1年	2年		
専 門 選 択	必 修	工学基礎研究	10	10		いずれかを選択
		地域創生工学研究	10	10		
		特別研究	10		10	
		研究リテラシー	2	2		
		実践化学英語	2	2		
		先端工学特論	2		2	
		専門必修開設単位数 計	36	24	12	
	専 門 選 択	量子化学	2	2		
		現代有機合成化学	2	2		
		物質分析工学	2	2		
		細胞工学	2	2		
		応用反応工学	2	2		
		選択的有機反応論	2		2	
電子応用化学		2		2		
資源エネルギー工学		2		2		
生物構造化学		2		2		
生物化学工学特論		2		2		
拡散工学特論		2		2		
専門選択開設単位数 計		22	10	12		
専門科目開設単位 計		58	34	24		
物質創成工学専攻 合計		92				
専門科目修得単位数 計 42単位以上						

令和4年度 年間行事予定表

奈良工業高等専門学校

日曜	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1 金	1 春休業(4日まで)			1 水	1 月	1 木
2 土	2 開校記念日(替休日)			2 木	2 火	2 金
3 日	3 憲法記念日			3 金	3 水	3 土
4 月	4 水	4 水	4 土	4 月	4 木	4 日
5 火	5 木	5 木	5 日	5 火	5 金	5 月
6 水	6 金	6 金	6 月	6 水	6 土	6 火
7 木	7 土	7 土	7 火	7 木	7 日	7 水
8 金	8 日	8 日	8 水	8 金	8 月	8 木
9 土	9 月	9 月	9 木	9 土	9 火	9 金
10 日	10 火	10 火	10 金	10 日	10 水	10 土
11 月	11 水	11 水	11 土	11 月	11 木	11 日
12 火	12 木	12 木	12 日	12 火	12 金	12 月
13 水	13 金	13 金	13 月	13 水	13 土	13 火
14 木	14 土	14 土	14 火	14 木	14 日	14 水
15 金	15 日	15 日	15 水	15 金	15 月	15 木
16 土	16 月	16 月	16 木	16 土	16 火	16 金
17 日	17 火	17 火	17 金	17 日	17 水	17 土
18 月	18 水	18 水	18 土	18 月	18 木	18 日
19 火	19 木	19 木	19 日	19 火	19 金	19 月
20 水	20 金	20 金	20 月	20 水	20 土	20 火
21 木	21 土	21 土	21 火	21 木	21 日	21 水
22 金	22 日	22 日	22 水	22 金	22 月	22 木
23 土	23 月	23 月	23 木	23 土	23 火	23 金
24 日	24 火	24 火	24 金	24 日	24 水	24 土
25 月	25 水	25 水	25 土	25 月	25 木	25 日
26 火	26 木	26 木	26 日	26 火	26 金	26 月
27 水	27 金	27 金	27 月	27 水	27 土	27 火
28 木	28 土	28 土	28 火	28 木	28 日	28 水
29 金	29 日	29 日	29 水	29 金	29 月	29 木
30 土	30 月	30 月	30 木	30 土	30 火	30 金
	31 火	31 火	31 火	31 日	31 水	

令和4年度 年間行事予定表

(後期)

日曜	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 土	1 火 木曜振替授業	木 4	木 1	1 日 元日	1 水 学年末試験(本科・7日まで)	水 15 水 5年不可(A)再試験
2 日	2 水	水 5	金 1	2 月 振替休日	2 木	木 15 木
3 月	3 木 文化の日		土 1	3 火	3 金	金 15 金
4 火	4 金 高専祭準備	金 4	日 1	4 水 開祭・祭生集会 ↓ 全国高専体育大会(ラグビーフットボール:9日まで)	4 土 令和5年度入学試験(推薦)(通試)	土 4 土
5 水	5 土 高専祭(6日まで)	土 5	月 1	5 木 全校集会	5 日 (登校禁止)	日 5 日
6 木	6 日	日 6	火 6	6 金	6 月	月 15 月
7 金	7 月 通常授業	月 5	水 7	7 土	7 火 専攻科後期授業終了	火 15 火
8 土	8 火	火 5	木 8	8 日	8 水 試験予備日(午前)・補講(午後) 専攻科特別研究発表会修繕日	水 8 水
9 日	9 水	水 6	金 9	9 月 成人の日	9 木 入学試験前全校清掃	木 16 木
10 月	10 木 スポーツの日	木 5	土 10	10 火 全国高専ササコン(11日まで)	10 金 特別日課(登校禁止)	金 10 金
11 火	11 金	金 5	日 11	11 水	11 土 建国記念の日 (登校禁止)	土 11 土
12 水	12 土 近畿地区高専体育大会(ラグビーフットボール)	土 2	月 12	12 月 月曜振替授業 冬季リレー・ダンス研修会 留学生と語る会	12 日 令和5年度入学試験(学力)	日 12 日
13 木	13 日	日 2	火 13	13 金	13 月 特別日課(登校禁止)	月 13 月
14 金	14 月	月 6	水 14	14 土	14 火 特別日課(登校禁止)	火 14 火
15 土	15 火 TOEIC-IP試験予定日 ↑ 全国高専フロン(16日まで)	火 6	木 15	15 日	15 水	水 15 水
16 日	16 水	水 7	金 16	16 月	16 火 火曜振替授業 5年生を送る会	火 16 火
17 月	17 木 交通安全教室(1・2年)	木 6	土 17	17 火	17 金	金 16 金
18 火	18 金	金 6	日 18	18 水	18 土	土 18 土
19 水	19 土	土 3	月 19	19 月 入学試験前全校清掃	19 日 令和4年度卒業式・修了式	日 19 日
20 木	20 日 入権教育特別講演会(4年)	日 3	火 20	20 金 特別日課(登校禁止22日まで)	20 月 全校集会 5年生進路説明会	月 20 月
21 金	21 月 選抜CBT試験(1~3年) 社会工場実習(4年) 特別日課(5年) 専攻科学外研修	月 7	水 21	21 土 令和5年度入学試験(推薦)	21 火 1年生進路説明会(4月29日(土)新入生オリエンテーション/2分目) 専攻科学年末成績確認期間(22日まで)	火 21 火
22 土	22 火 学芸部部員訓練 学祭スポンサー会	火 7	木 22	22 月 入権教育特別講演会(専攻科・教員)	22 水 閉祭	水 22 水
23 日	23 水 近畿地区高専ロボコン(予定)		金 23	23 金 閉祭	23 月 天理誕生日	月 23 月
24 月	24 木	木 7	土 24	24 火 冬季休業(1月4日まで)	24 金 特別日課(登校禁止)	金 24 金
25 火	25 金	金 7	日 25	25 水	25 土 (登校禁止)	土 25 土
26 水	26 土	土 4	月 26	26 木	26 日 令和5年度入学試験(学力)通試	日 26 日
27 木	27 日 秋季スポンサー会		火 27	27 金	27 月 特別日課(登校禁止)	月 27 月
28 金	28 月 補講日	月 3	水 28	28 土 全国高専英語プレゼン(29日まで)	28 火 特別日課(登校禁止)	火 28 火
29 土	29 火 学校・入試説明会(30日まで)	火 8	木 29	29 日 学年末始休業(1月3日まで)	29 月	月 29 月
30 日	30 水	水 8	金 30	30 月	30 火	火 30 火
31 月	31 木 学年末不可(A)解消期限	木 4	土 31	31 日 補講日	31 月	月 31 月

奈良工業高等専門学校

令和4年度 授業時間割 (後期)

学年	火												水												木												5	6	7	8	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
一 学 年	M	9:00	9:45	10:30	11:15	12:00	12:45	13:30	14:15	15:00	15:45	16:30	17:15	18:00	18:45	19:30	20:15	21:00	21:45	22:30	23:15	24:00	24:45	25:30	26:15	27:00	27:45	28:30	29:15	30:00	30:45	31:30	32:15	33:00	33:45	34:30	35:15	36:00	36:45	37:30	38:15	39:00	39:45	40:30	41:15	42:00	42:45	43:30	44:15	45:00	45:45	46:30	47:15	48:00	48:45	49:30	50:15	51:00	51:45	52:30	53:15	54:00	54:45	55:30	56:15	57:00	57:45	58:30	59:15	60:00	60:45	61:30	62:15	63:00	63:45	64:30	65:15	66:00	66:45	67:30	68:15	69:00	69:45	70:30	71:15	72:00	72:45	73:30	74:15	75:00	75:45	76:30	77:15	78:00	78:45	79:30	80:15	81:00	81:45	82:30	83:15	84:00	84:45	85:30	86:15	87:00	87:45	88:30	89:15	90:00	90:45	91:30	92:15	93:00	93:45	94:30	95:15	96:00	96:45	97:30	98:15	99:00	99:45	100:30	101:15	102:00	102:45	103:30	104:15	105:00	105:45	106:30	107:15	108:00	108:45	109:30	110:15	111:00	111:45	112:30	113:15	114:00	114:45	115:30	116:15	117:00	117:45	118:30	119:15	120:00	120:45	121:30	122:15	123:00	123:45	124:30	125:15	126:00	126:45	127:30	128:15	129:00	129:45	130:30	131:15	132:00	132:45	133:30	134:15	135:00	135:45	136:30	137:15	138:00	138:45	139:30	140:15	141:00	141:45	142:30	143:15	144:00	144:45	145:30	146:15	147:00	147:45	148:30	149:15	150:00	150:45	151:30	152:15	153:00	153:45	154:30	155:15	156:00	156:45	157:30	158:15	159:00	159:45	160:30	161:15	162:00	162:45	163:30	164:15	165:00	165:45	166:30	167:15	168:00	168:45	169:30	170:15	171:00	171:45	172:30	173:15	174:00	174:45	175:30	176:15	177:00	177:45	178:30	179:15	180:00	180:45	181:30	182:15	183:00	183:45	184:30	185:15	186:00	186:45	187:30	188:15	189:00	189:45	190:30	191:15	192:00	192:45	193:30	194:15	195:00	195:45	196:30	197:15	198:00	198:45	199:30	200:15	201:00	201:45	202:30	203:15	204:00	204:45	205:30	206:15	207:00	207:45	208:30	209:15	210:00	210:45	211:30	212:15	213:00	213:45	214:30	215:15	216:00	216:45	217:30	218:15	219:00	219:45	220:30	221:15	222:00	222:45	223:30	224:15	225:00	225:45	226:30	227:15	228:00	228:45	229:30	230:15	231:00	231:45	232:30	233:15	234:00	234:45	235:30	236:15	237:00	237:45	238:30	239:15	240:00	240:45	241:30	242:15	243:00	243:45	244:30	245:15	246:00	246:45	247:30	248:15	249:00	249:45	250:30	251:15	252:00	252:45	253:30	254:15	255:00	255:45	256:30	257:15	258:00	258:45	259:30	260:15	261:00	261:45	262:30	263:15	264:00	264:45	265:30	266:15	267:00	267:45	268:30	269:15	270:00	270:45	271:30	272:15	273:00	273:45	274:30	275:15	276:00	276:45	277:30	278:15	279:00	279:45	280:30	281:15	282:00	282:45	283:30	284:15	285:00	285:45	286:30	287:15	288:00	288:45	289:30	290:15	291:00	291:45	292:30	293:15	294:00	294:45	295:30	296:15	297:00	297:45	298:30	299:15	300:00	300:45	301:30	302:15	303:00	303:45	304:30	305:15	306:00	306:45	307:30	308:15	309:00	309:45	310:30	311:15	312:00	312:45	313:30	314:15	315:00	315:45	316:30	317:15	318:00	318:45	319:30	320:15	321:00	321:45	322:30	323:15	324:00	324:45	325:30	326:15	327:00	327:45	328:30	329:15	330:00	330:45	331:30	332:15	333:00	333:45	334:30	335:15	336:00	336:45	337:30	338:15	339:00	339:45	340:30	341:15	342:00	342:45	343:30	344:15	345:00	345:45	346:30	347:15	348:00	348:45	349:30	350:15	351:00	351:45	352:30	353:15	354:00	354:45	355:30	356:15	357:00	357:45	358:30	359:15	360:00	360:45	361:30	362:15	363:00	363:45	364:30	365:15	366:00	366:45	367:30	368:15	369:00	369:45	370:30	371:15	372:00	372:45	373:30	374:15	375:00	375:45	376:30	377:15	378:00	378:45	379:30	380:15	381:00	381:45	382:30	383:15	384:00	384:45	385:30	386:15	387:00	387:45	388:30	389:15	390:00	390:45	391:30	392:15	393:00	393:45	394:30	395:15	396:00	396:45	397:30	398:15	399:00	399:45	400:30	401:15	402:00	402:45	403:30	404:15	405:00	405:45	406:30	407:15	408:00	408:45	409:30	410:15	411:00	411:45	412:30	413:15	414:00	414:45	415:30	416:15	417:00	417:45	418:30	419:15	420:00	420:45	421:30	422:15	423:00	423:45	424:30	425:15	426:00	426:45	427:30	428:15	429:00	429:45	430:30	431:15	432:00	432:45	433:30	434:15	435:00	435:45	436:30	437:15	438:00	438:45	439:30	440:15	441:00	441:45	442:30	443:15	444:00	444:45	445:30	446:15	447:00	447:45	448:30	449:15	450:00	450:45	451:30	452:15	453:00	453:45	454:30	455:15	456:00	456:45	457:30	458:15	459:00	459:45	460:30	461:15	462:00	462:45	463:30	464:15	465:00	465:45	466:30	467:15	468:00	468:45	469:30	470:15	471:00	471:45	472:30	473:15	474:00	474:45	475:30	476:15	477:00	477:45	478:30	479:15	480:00	480:45	481:30	482:15	483:00	483:45	484:30	485:15	486:00	486:45	487:30	488:15	489:00	489:45	490:30	491:15	492:00	492:45	493:30	494:15	495:00	495:45	496:30	497:15	498:00	498:45	499:30	500:15	501:00	501:45	502:30	503:15	504:00	504:45	505:30	506:15	507:00	507:45	508:30	509:15	510:00	510:45	511:30	512:15	513:00	513:45	514:30	515:15	516:00	516:45	517:30	518:15	519:00	519:45	520:30	521:15	522:00	522:45	523:30	524:15	525:00	525:45	526:30	527:15	528:00	528:45	529:30	530:15	531:00	531:45	532:30	533:15	534:00	534:45	535:30	536:15	537:00	537:45	538:30	539:15	540:00	540:45	541:30	542:15	543:00	543:45	544:30	545:15	546:00	546:45	547:30	548:15	549:00	549:45	550:30	551:15	552:00	552:45	553:30	554:15	555:00	555:45	556:30	557:15	558:00	558:45	559:30	560:15	561:00	561:45	562:30	563:15	564:00	564:45	565:30	566:15	567:00	567:45	568:30	569:15	570:00	570:45	571:30	572:15	573:00	573:45	574:30	575:15	576:00	576:45	577:30	578:15	579:00	579:45	580:30	581:15	582:00	582:45	583:30	584:15	585:00	585:45	586:30	587:15	588:00	588:45	589:30	590:15	591:00	591:45	592:30	593:15	594:00	594:45	595:30	596:15	597:00	597:45	598:30	599:15	600:00	600:45	601:30	602:15	603:00	603:45	604:30	605:15	606:00	606:45	607:30	608:15	609:00	609:45	610:30	611:15	612:00	612:45	613:30	614:15	615:00	615:45	616:30	617:15	618:00	618:45	619:30	620:15	621:00	621:45	622:30	623:15	624:00	624:45	625:30	626:15	627:00	627:45	628:30	629:15	630:00	630:45	631:30	632:15	633:00	633:45	634:30	635:15	636:00	636:45	637:30	638:15	639:00	639:45	640:30	641:15	642:00	642:45	643:30	644:15	645:00	645:45	646:30	647:15	648:00	648:45	649:30	650:15	651:00	651:45	652:30	653:15	654:00	654:45	655:30	656:15	657:00	657:45	658:30	659:15	660:00	660:45	661:30	662:15	663:00	663:45	664:30	665:15	666:00	666:45	667:30	668:15	669:00	669:45	670:30	671:15	672:00	672:45	673:30	674:15	675:00	675:45	676:30	677:15	678:00	678:45	679:30	680:15	681:00	681:45	682:30	683:15	684:00	684:45	685:30	686:15	687:00	687:45	688:30	689:15	690:00	690:45	691:30	692:15	693:00	693:45	694:30	695:15	696:00	696:45	697:30	698:15	699:00	699:45	700:30	701:15	702:00	702:45	703:30	704:15	705:00	705:45	706:30	707:15	708:00	708:45	709:30	710:15	711:00	711:45	712:30	713:15	714:00	714:45	715:30	716:15	717:00	717:45	718:30	719:15	720:00	720:45	721:30	722:15	723:00	723:45	724:30	725:15	726:00	726:45	727:30	728:15	729:00	729:45	730:30	731:15	732:00	732:45	733:30	734:15	735:00	735:45	736:30	737:15	738:00	738:45	739:30	740:15	741:00	741:45	742:30	743:15	744:00	744:45	745:30	746:15	747:00	747:45	748:30	749:15	750:00	750:45	751:30	752:15	753:00	753:45	754:30	755:15	756:00	756:45	757:30	758:15	759:00	759:45	760:30	761:15	762:00	762:45	763:30	764:15	765:00	765:45	766:30	767:15	768:00	768:45	769:30	770:15	771:00	771:45	772:30	773:15	774:00	774:45	775:30	776:15	777:00	777:45	778:30	779:15	780:00	780:45	781:30	782:15	783:00	783:45	784:30	785:15	786:00	786:45	787:30	788:15	789:00	789:45	790:30	791:15	792:00	792:45	793:30	794:15	795:00	795:45	796:30	797:15	798:00	798:45	799:30	800:15	801:00	801:45	802:30	803:15	804:00	804:45	805:30	806:15	807:00	807:45	808:30	809:15	810:00	810:45	811:30	812:15	813:00	813:45	814:30	815:15	816:00	816:45	817:30	818:15	819:00	819:45	820:30	821:15	822:00	822:45	823:30	824:15	825:00	825:45	826:30	827:15

資料 7

令和4年度特別講演会実施一覧

学科	実施日	演題	講師
M	令和4年12月13日(火)	「陶芸ってなんだろう？」	奈良教育大学 教育学部 美術教育講座(工芸分野) 教授
E	令和4年7月7日(木)	「自然に学ぶモノづくり」	豊橋技術科学大学 総合教育院 教授
S	令和4年11月1日(火)	「先進ロボットの開発」	川崎重工業株式会社 精密機械・ロボットカンパニー ロボットディビジョン 商品企画総括部 総括部長(理事)
I	令和4年12月15日(木)	「The Rhythm of Life: 画像解析と計算機シミュレーションによる生体医工学研究」	兵庫県立大学大学院 情報科学研究科 教授
C	令和4年7月7日(木)	「極端紫外線リソグラフィー技術について」	兵庫県立大学 学長特別補佐(先端科学技術研究担当) 高度産業科学技術研究所 所長 極端紫外線リソグラフィー研究開発センター長/教授
専攻科	令和4年11月10日(木)	「高専卒業後から現在まで」	株式会社アンド 技術顧問

令和4年度第4学年対象進路セミナー実施一覧

学科	実施日	講師
M	令和5年2月7日(火)	平成19年度卒業生 (株式会社タカトリ ものづくり革新本部 新素材機器カンパニー 設計部 機械設計課) 平成29年度専攻科修了生 (九州大学大学院 総合理工学府 先端エネルギー理工学専攻 博士課程3年)
S	令和4年6月23日(木)	平成30年度専攻科修了生 (株式会社近計システム 社会システム事業部 技術部 ゲート設計Gr.)
C	令和4年12月20日(火)	令和3年度卒業生 (第一工業製薬株式会社)

資料 9

令和4年度秋季社会工場見学, 専攻科学外研修

期日	クラス	行 程	引 率 教 員	
10月21日 (金)	4M	DMG森精機(株)伊賀事業所, ナガシマスパーランド	谷口	廣
	4E	シャープミュージアム, 伊賀上野城・上野公園, パナソニックライティングシステムズ(株)伊賀工場	大谷	頭師
	4S	(株)MSTコーポレーション, 奈良公園, 奈良国立博物館	山口(和)	西田
	4I	兵庫県立大学 Web見学, eBASE(株) Web見学	松尾	
	4C	三井化学(株)大阪工場, 浜寺公園, 不二製油(株)阪南事業所	伊月	米田
10月21日 (金)	専攻科(1年)	ジャパンマリンユナイテッド(株)津事業所, 伊勢神宮・おかげ横丁周辺散策	福岡	關
	専攻科(2年)	東レ・カーボンマジック(株), 黒壁スクエア周辺散策	中村(秀)	上野

年度別博士号取得者一覽

年 度	区 分		学 科 別 博 士 号 取 得 者 数						
	現 員	校 長	一 般	機 械	電 気	電 制	情 報	物 化	合 計
平成30年度	77	1	17	10	8	8	9	12	65
平成31年度	75	1	15	10	9	8	9	12	64
令和2年度	75	1	15	9	8	6	9	12	60
令和3年度	75	1	13	9	8	7	9	12	59
令和4年度	72	1	15	8	8	8	9	12	61

令和4年度 クラブ顧問・部員数一覧

体育部

クラブ名	顧問教員 (一番左が連絡担当)	部員数					計
		1年	2年	3年	4年	5年	
アーチェリー	石丸裕士 三木功次郎 本間啓道 山口賢一 岩田大志	2	4	0	0	0	6
合気道	石飛学 片倉勝己 池田陽紀 松浦幸仁	5	1	3	2	4	15
弓道	谷口幸典 北村誠 新井由美	8	21	13	9	10	61
剣道	池田陽紀 土井滋貴 須田敦	6	4	3	2	0	15
硬式野球	内田眞司 平俊男 小柴孝 酒井史敏	12	4	12	3	7	38
サッカー	松尾賢一 上野秀剛 藤井隆輔 山口智浩	5	7	5	8	0	25
柔道	森弘暢 矢野充志 山田裕久	0	2	2	2	0	6
少林寺拳法	直江一光 松井真希子	0	0	4	0	0	4
水泳	石飛学 廣和樹 橋爪進 松村寿枝	8	6	7	9	2	32
ソフトテニス	西田茂生 宇田亮子 伊月亜有子 米田京平 藤井隆輔	6	7	4	11	0	28
卓球	上島智史 榎原和彦 飯田賢一 中山敏男 亀井稔之 松井真希子	7	11	10	8	4	40
テニス	中村秀美 福岡寛 山口賢一 伊月亜有子	13	13	4	5	0	35
バスケットボール	新野康彦 稲田直久 頭師孝拓 嶋田芳	6	4	8	4	0	22
バドミントン	岡村真吾 中村篤人 玉木隆幸 林啓太 伊月亜有子	10	9	2	13	0	34
バレーボール	松井良明 太田孝雄 石水明香 板倉和裕 道本祐子	13	10	9	9	0	41
ハンドボール	大谷真弘 小坂洋明 豊田洋平 坂本雅彦	3	6	0	9	2	20
ラグビー	森弘暢 市川嘉裕 矢野充志 山口和也	7	4	7	4	3	25
陸上競技	安田智之 稲田直久 山中聡恵 C.E.グレイディ 飯間圭一郎 米田京平 中村篤人	11	6	9	6	5	37
	小計	122	119	102	104	37	484

文化部

からくり	中村篤人 飯間圭一郎 橋爪進 石飛学 頭師孝拓 伊月亜有子 池田陽紀	20	3	5	1	0	29
機械研究会	須田敦 頭師孝拓	12	2	8	7	2	31
軽音楽	山口和也 谷口幸典 大谷真弘	12	20	31	9	11	83
茶道	西田茂生 C.E.グレイディ 松村寿枝	8	3	1	5	3	20
システム開発研究会	橋爪進 中村篤人 玉木隆幸 山口和也	3	0	3	7	3	16
将棋	玉木隆幸 岡村真吾	8	7	1	4	3	23
情報処理研究会	岩田大志 山口賢一 松尾賢一	5	7	5	11	6	34
吹奏楽	芦原佑樹 顯谷智也子 藤田直幸 林啓太 土井滋貴	7	1	3	10	11	32
美術	市川嘉裕	0	6	6	4	9	25
放送	芦原佑樹 山口賢一	1	8	7	4	11	31
	小計	76	57	70	62	59	324

同好会

化学同好会	林啓太 山田裕久 伊月亜有子 米田京平	3	11	14	9	9	46
合唱同好会	松井良明 稲田直久	1	3	0	1	2	7
クイズ研究会	C.E.グレイディ	2	8	12	1	11	34
現代視覚文化研究会	北村誠 飯間圭一郎 上野秀剛	0	1	0	5	1	7
手芸同好会	石水明香	5	4	0	3	7	19
数学同好会	矢野充志	6	2	1	3	0	12
生協学生同好会	飯間圭一郎 伊月亜有子	2	2	0	2	1	7
電気技術研究会	大谷真弘 芦原佑樹	6	3	3	1	1	14
寮アスレチック同好会	内田眞司 山口賢一 林啓太 松井真希子	31	29	28	13	17	118
	小計	56	63	58	38	49	264

各学年部員数※	1年	2年	3年	4年	5年	合計
		254	239	230	204	145

※各学年部員数はのべ数(複数の部に所属している者もカウント)

学生会執行部	飯間圭一郎 池田陽紀 太田孝雄	20	5	8	10	4	47
--------	-----------------	----	---	---	----	---	----

令和4年度 大会等成績一覧

<体育系>

大会名	月・日	種目	成績	選手名
第104回全国高校野球選手権大会 春 奈良大会	4.23.5.3	硬式野球 2回戦 対 高円・高円芸術・国際 20-2 (5回コールド) 3回戦 対 奈良大付 2-3	3回戦敗退	
	5.21~22	硬式野球 1回戦 対 神戸市立 2-16	入賞なし	
第59回近畿地区高等専門学校大会	7.3	陸上競技 総合	3位	
		男子100m	4位	矢部 亨 (2M)
			8位	藤保 慈元 (4C)
		男子200m	5位	藤保 慈元 (4C)
			7位	澤 聖士朗 (1E)
		男子400m	5位	笹川 航平 (3E)
		男子800m	2位	木下 隼 (5S)
			6位	勝浪 琢磨 (3C)
		男子1500m	6位	石谷 仁 (1S)
		男子5000m	2位	古岡 誠也 (1E)
			6位	山田 智也 (2M)
		男子110mH	入賞なし	
		男子4×100mリレー	4位	藤保 慈元 (4C) 矢部 亨 (2M) 上北 涼斗 (2M) 澤 聖士朗 (1E)
		男子4×400mリレー	3位	矢部 亨 (2M) 笹川 航平 (3E) 上林 優生 (4M) 木下 隼 (5S)
		男子走高跳	4位	音成 岬 (5C)
		男子走幅跳	入賞なし	
		男子砲丸投	優勝	明石 駿汰 (4C)
			5位	竹田 時英 (31)
		男子円盤投	2位	竹田 時英 (31)
			4位	明石 駿汰 (4C)
	6位	甲斐 廉也 (1E)		
女子100m	優勝	奥田 陽美 (2C)		
	4位	川本 葉 (1E)		
	5位	村上 瑞折 (1E)		
女子4×100mリレー	優勝	山口 叶夢 (5C) 奥田 陽美 (2C) 西前 若菜 (4M) 川本 葉 (1E)		
女子走幅跳	優勝	奥田 陽美 (2C)		
	3位	山口 叶夢 (5C)		
	4位	川本 葉 (1E)		
女子砲丸投	2位	山口 叶夢 (5C)		
	4位	西前 若菜 (4M)		
7.17~18	バスケットボール 男子	2位		
6.25~26	バレーボール 男子	3位		
	女子	予選敗退		
7.2~3	ソフトテニス 団体	入賞なし		
	個人 男子	入賞なし		
	個人 女子	予選敗退		
6.25~26	卓球 団体 男子	3位	坂上 僚 (4M) 乾 慎平 (4M) 竹田 岳人 (41) 竹田 悠十 (4S) 橋詰 尚幸 (3E) 森口 和也 (3E)	
	個人 男子ダブルス	3位	坂上 僚 (4M) 乾 慎平 (4M)	
	個人 男子シングルス	入賞なし		
	団体 女子	3位	横山 朋代 (4M) 金子 わかな (3C) 武内 涼子 (21) 折本 万尋 (21)	
	個人 女子ダブルス	3位	阪部 文音 (2C) 高山 ひなた (1E)	
	個人 女子シングルス	入賞なし	横山 朋代 (4M) 高山 ひなた (1E)	
7.16~17	柔道 団体 男子	3位	柳澤 真秀 (3E) 濱田 壮汰 (4E)	
	個人 男子 66kg級	入賞なし	水口 旭 (4E)	
	個人 男子 73kg級	3位	濱田 壮汰 (4E)	
	女子 無差別級	優勝	水口 旭 (4E) 石田 真子 (2M)	
7.9~10	剣道 団体 男子	6位	大友 一馬 (4M) 明見 龍之介 (3C) 大久保 蕾 (2E) 内川 忠大 (2E)	
	団体 女子	優勝	島袋 航太郎 (2C) 須摩瀬 唯人 (2C)	
	個人 男子	入賞なし	吉松 蒼唯 (3M) 末永 小夏 (1M)	
	個人 女子	2位	末永 小夏 (1M)	
7.9~11	サッカー	入賞なし 優秀選手賞	小屋 匡輝 (4M)	
7.2~3	ハンドボール	優勝		
7.2~3	テニス 団体 男子	入賞なし		
	個人 男子ダブルス	入賞なし		
	個人 男子シングルス	入賞なし		
	団体 女子	入賞なし		
	個人 女子ダブルス	2位	山口 璃桜 (41) 矢田 衣千加 (2M)	
個人 女子シングルス	2位	山口 璃桜 (41)		

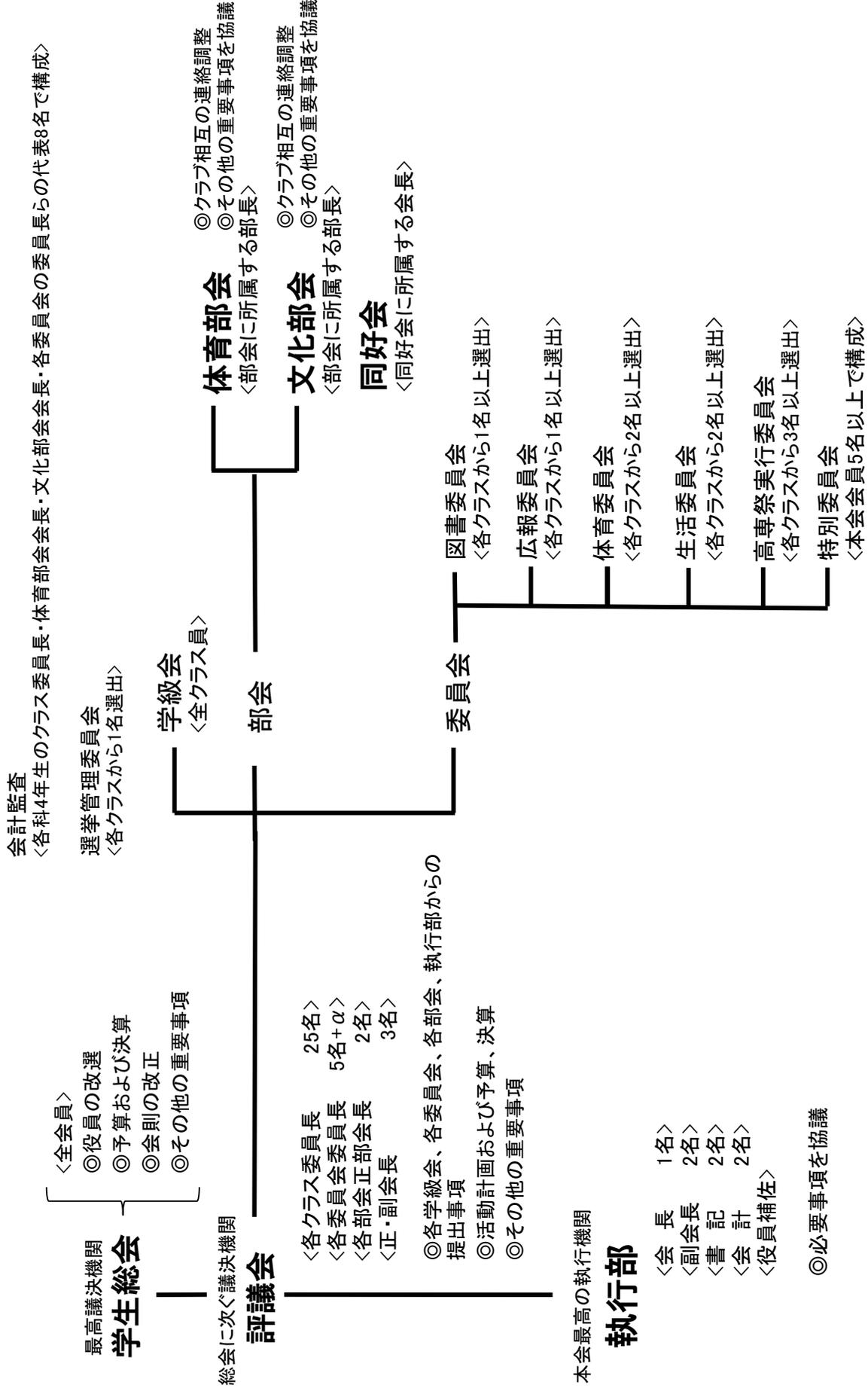
大会名	月・日	種目	成績	選手名
	7.2~3	バドミントン 団体 男子	3位	足立 徳 (4C) 上埜 雄大 (4M) 松本 直人 (2M) 横田 侑空 (2M) 清水 颯真 (2M) 増田 良亮 (21) 数中 天空 (31) 赤土 樹 (2C)
		個人 男子ダブルス 個人 男子シングルス 団体 女子	3位 優勝 優勝	横田 侑空 (2M) 松本 直人 (2M) 横田 侑空 (2M) 奥村 望央 (1C) 藤井 理莉 (1C) 北村 穂佳 (1C) 濱田 明莉 (1C) 奥村 望央 (1C) 藤井 理莉 (1C)
	7.2	水泳 総合	2位	
		男子50m自由形 男子100m自由形 男子200m自由形 男子400m自由形 男子800m自由形 男子100m背泳ぎ 男子100m平泳ぎ 男子200m平泳ぎ 男子100mバタフライ 男子200m個人メドレー 男子4×100mリレー 男子4×200mリレー 男子4×100mメドレーリレー 女子50m自由形 女子100m自由形 女子100m背泳ぎ 女子200m個人メドレー 女子4×50mリレー 女子4×50mメドレーリレー	6位 7位 3位 8位 優勝 優勝 5位 入賞なし 6位 2位 4位 8位 5位 7位 6位 7位 8位 2位 優勝 2位 優勝 3位 4位 6位 3位 2位 優勝 2位	堀田 壮馬 (4C) 中口 康太 (3E) 藤井 晴翔 (2M) 三日月 咲斗 (1E) 今元 賢 (3E) 今元 賢 (3E) 鈴木 誠二郎 (4E) 岡橋 空輝 (1M) 安田 怜生 (2M) 小山 遼 (4M) 好村 勇人 (1E) 藤井 晴翔 (2M) 谷山 雄亮 (4S) 谷山 雄亮 (4S) 前田 稀央 (3E) 大西 祥太 (3C) 堀田 壮馬 (4C) 藤井 晴翔 (2M) 安田 怜生 (2M) 今元 賢 (3E) 縄手 祥希 (5C) 北野 結士 (5M) 口前 太郎 (5M) 井上 水輝 (5E) 今元 賢 (3E) 安田 怜生 (2M) 藤井 晴翔 (2M) 堀田 壮馬 (4C) 上中 理央 (2M) 清家 莉恵 (2C) 上中 理央 (2M) 前田 沙耶花 (1E) 橋本 悠希 (41) 高田 葉奈 (2E) 前田 沙耶花 (1E) 前田 沙耶花 (1E) 清家 莉恵 (2C) 高田 葉奈 (2E) 上中 理央 (2M) 前田 沙耶花 (1E) 高田 葉奈 (2E) 上中 理央 (2M) 清家 莉恵 (2C)
第55回近畿地区高専弓道大会	6.26	ラグビー	優勝	
		弓道 団体 男子 団体 女子 個人 女子	2位 2位 優勝 2位	大野 悠翔 (4S) 松生 天真 (3S) 中井 響稀 (2S) 城戸 隼斗 (3C) 飯田 琢也 (3M) 林 瑛人 (21) 吉田 彼方 (4E) 福王 彰音 (4E) 口井 想来 (3C) 山田 怜奈 (4C) 中村 伊吹 (41) 清江 由麻 (3C) 中村 伊吹 (41)
第73回奈良県民体育大会 (弓道競技の部)	7.3	弓道 団体 女子 (市郡対抗団体戦大和郡山市女子 団体チーム選手として出場) 個人 女子	2位 2位	口井 想来 (3C) 口井 想来 (3C)
第104回全国高校野球選手権大会 奈良大会	7.18	硬式野球 2回戦 対 王寺工業 0-10 (6回コールド)	2回戦敗退	
第57回全国高等専門学校体育大会	8.20	陸上競技 総合順位 男子100m 男子800m 男子5000m 男子砲丸投 男子円盤投 女子100m 女子走幅跳 女子砲丸投	20位 予選敗退 予選敗退 6位 2位 18位 5位 5位 9位	矢部 亨 (2M) 木下 隼 (5S) 吉岡 誠也 (1E) 明石 駿汰 (4C) 竹田 時英 (31) 奥田 陽美 (2C) 奥田 陽美 (2C) 山口 叶夢 (5C)
		8.27~28 柔道 女子無差別級	優勝	石田 真子 (2M)
		8.25~26 剣道 団体 女子 個人 女子	入賞なし 入賞なし	吉松 蒼唯 (3M) 末永 小夏 (1M) 末永 小夏 (1M)
		8.24~26 テニス 個人 女子ダブルス 個人 女子シングルス	入賞なし 入賞なし	山口 璃桜 (41) 矢田 衣千加 (2M) 山口 璃桜 (41)
		9.3~4 ハンドボール	予選敗退	
		9.3~4 バドミントン 個人 男子シングルス 団体 女子 個人 女子ダブルス 個人 女子シングルス	入賞なし 入賞なし 入賞なし 入賞なし	横田 侑空 (2M) 奥村 望央 (1C) 藤井 理莉 (1C) 北村 穂佳 (1C) 濱田 明莉 (1C) 奥村 望央 (1C) 藤井 理莉 (1C) 奥村 望央 (1C)

大会名	月・日	種目	成績	選手名
	9.3~4	水泳 総合 男子100m自由形 男子200m自由形 男子400m自由形 男子100m平泳ぎ 女子50m自由形 女子100m自由形 女子200m個人メドレー 女子4×50mフリーリレー	7位 予選敗退 2位 優勝 予選敗退 3位 3位 5位 2位	藤井 晴翔 (2M) 今元 賢 (3E) 今元 賢 (3E) 安田 怜生 (2M) 上中 理央 (2M) 上中 理央 (2M) 前田 沙耶花 (1E) 前田 沙耶花 (1E) 高田 葉奈 (2E) 上中 理央 (2M) 清家 莉恵 (2C)
	1.4~9	ラグビーフットボール アーチェリー 個人 男子30mダブル 個人 女子30mダブル	対 仙台高専 (名取キャンパス) 14-15 1回戦敗退 2位 3位 8位 12位 7位	眞鍋 宇太郎 (2E) 藤長 賢志 (1C) 松村 青 (2E) 西本 浩太郎 (2E) 森 琴音 (2E)
第29回西日本地区高等専門学校アーチェリー競技会	8.23~24			
第9回全国高等専門学校弓道大会	9.1~2	弓道 男子団体の部	入賞なし	松生 天眞 (3S) 城戸 陽斗 (3C) 大野 悠翔 (4S) 林 瑛人 (2I) 幸 大仁 (4S) 鶴口 輝千代 (3I) 中井 響稀 (2S)
		女子団体の部	入賞なし	福王 彩音 (4E) 西井 想来 (3C) 山田 怜奈 (4C) 中村 伊吹 (4I)
		女子個人の部	3位 入賞なし	中村 伊吹 (4I) 満江 由麻 (3C)
第17回奈良県短水路選手権水泳競技大会	12.18	水泳 男子100m平泳ぎ 男子100m自由形	5位 8位 予選敗退	安田 怜生 (2M) 今元 賢 (3E) 藤井 晴翔 (2M)
奈良県ジュニア新春水泳記録会	1.8	水泳 男子50m自由形 女子50m自由形	3位 2位 5位	今元 賢 (3E) 上中 理央 (2M) 前田 沙耶花 (1E)

<文化系>

大会名	月・日	種目	成績	選手名
第29回全国高等専門学校将棋大会	8.24~26	将棋 団体戦	予選敗退	矢部 亨 (2M) 神元 調結 (2S)
		男子個人戦	ベスト8 ベスト16	渡利 世明 (1M) 笹原 大雅 (5S)
		女子個人戦	予選敗退	迫 雅悦 (5S)
			予選敗退	渡邊 昌隆 (5C)
			予選敗退	日下 優人 (2I) 佐藤 航太 (1E) 仙入 汐夏 (2S)
GNSS・QZSSロボットカーコンテスト	10.22	システム開発研究会	審査員特別賞	神元 調結 (2S)
第14回全国高等学校鉄道模型コンテスト	8.19~21	機械研究会 H〇車輻部門 モジュール部門	努力賞 ベストクリエイティブ賞	
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022近畿地区大会	10.23	ロボコンプロジェクト Aチーム「三笠 (ミカサ)」 Bチーム「ONE-BOX (ワンボックス)」	アイデア賞 準優勝	
第16回近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト	11.12~13	シングル部門 チーム部門	第2位 第4位 第2位	星野 百奈 (2E) 神元 調結 (2S) 小原 みなも (2M) 升岡 瑞葉 (2I) 岡野 響 (2E)
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022全国大会	11.27	ロボコンプロジェクト Aチーム「三笠 (ミカサ)」	優勝	
第16回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト	1.28~29	シングル部門 チーム部門	第4位 優勝	星野 百奈 (2E) 小原 みなも (2M) 升岡 瑞葉 (2I) 岡野 響 (2E)

《 学生会組織図 》



注 〈 〉は構成メンバー・◎印は審議事項、協議事項および任務

学生支援センター相談件数

年度	学年		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	保護者	教職員	合計
	相談項目										
H30 (SSW除く)	心理相談	人数	20	10	9	14	6	3	19	17	98
		延べ数	43	14	10	33	20	15	39	27	201
	学業	人数	14	10	12	8	23	4	9	5	85
		延べ数	17	13	30	38	54	4	10	10	176
	対人関係	人数	18	16	10	5	7	2	5	8	71
		延べ数	32	20	13	9	12	6	7	14	113
	進路相談	人数	4	7	7	21	19	8	6	0	72
		延べ数	7	7	9	30	27	10	9	0	99
	異性問題	人数	1	3	1	0	4	1	0	1	11
		延べ数	1	5	1	0	11	1	0	1	20
	家庭内問題	人数	8	2	1	3	3	0	7	5	29
		延べ数	12	3	1	5	4	0	11	6	42
	その他	人数	11	5	6	8	1	1	11	28	71
		延べ数	12	5	9	11	1	14	24	59	135
合計	人数	76	53	46	59	63	19	57	64	437	
	延べ数	124	67	73	126	129	50	100	117	786	
R1 (SSW含む)	心理相談	人数	21	11	5	13	5	11	16	71	153
		延べ数	60	38	7	18	7	19	17	160	326
	学業	人数	15	14	18	16	3	1	9	17	93
		延べ数	38	32	24	43	3	3	14	39	196
	対人関係	人数	7	24	11	5	3	0	1	68	119
		延べ数	15	65	24	6	3	0	4	201	318
	進路相談	人数	1	3	1	13	7	0	0	6	31
		延べ数	1	9	1	33	7	0	0	9	60
	異性問題	人数	4	0	3	4	0	1	0	15	27
		延べ数	4	0	3	7	0	1	0	53	68
	家庭内問題	人数	2	2	1	0	3	2	1	20	31
		延べ数	2	2	1	0	3	2	1	33	44
	その他	人数	11	14	3	5	1	2	9	56	101
		延べ数	15	31	3	5	1	4	23	128	210
合計	人数	61	68	42	56	22	17	36	253	555	
	延べ数	135	177	63	112	24	29	59	623	1222	
R2 (SSW含む)	心理相談	人数	5	4	3	0	1	1	4	4	22
		延べ数	23	16	9	0	6	1	9	51	115
	学業	人数	17	3	3	8	3	3	11	0	48
		延べ数	23	7	10	12	3	3	15	0	73
	対人関係	人数	1	1	2	1	1	0	0	2	8
		延べ数	5	1	17	1	1	0	0	15	40
	進路相談	人数	1	1	0	13	19	2	4	1	41
		延べ数	7	6	0	23	23	21	14	1	95
	異性問題	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延べ数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家庭内問題	人数	2	1	1	1	1	0	0	4	10
		延べ数	6	1	6	1	1	0	0	17	32
	その他	人数	5	6	3	7	6	3	8	18	56
		延べ数	15	33	12	11	6	82	10	19	188
合計	人数	31	16	12	30	31	9	27	29	185	
	延べ数	79	64	54	48	40	107	48	103	543	
R3 (SSW含む)	心理相談	人数	3	8	8	4	5	3	8	12	51
		延べ数	6	16	12	10	82	11	14	37	188
	学業	人数	10	8	8	6	5	0	9	5	51
		延べ数	27	37	11	8	5	0	10	11	109
	対人関係	人数	1	2	2	6	2	1	2	16	32
		延べ数	1	9	8	75	25	1	3	71	193
	進路相談	人数	2	2	4	8	47	8	13	2	86
		延べ数	3	4	9	15	86	30	13	6	166
	異性問題	人数	0	1	1	1	2	0	0	0	5
		延べ数	0	1	1	1	4	0	0	0	7
	ハラスメント	人数	0	2	0	1	0	0	0	5	8
		延べ数	0	5	0	1	0	0	0	5	11
	家庭内問題	人数	0	3	1	1	1	0	0	2	8
		延べ数	0	3	1	2	32	0	0	2	40
その他	人数	7	4	4	3	2	4	19	36	79	
	延べ数	23	10	6	26	2	20	38	74	199	
合計	人数	23	30	28	30	64	16	51	78	320	
	延べ数	60	85	48	138	236	62	78	206	913	
R4 (SSW含む)	心理相談	人数	3	7	11	9	19	3	6	16	74
		延べ数	5	12	41	28	90	4	13	76	269
	学業	人数	78	8	8	31	3	2	10	8	148
		延べ数	116	19	18	38	5	11	27	19	253
	対人関係	人数	3	3	4	0	4	0	2	2	18
		延べ数	3	11	5	0	10	0	2	2	33
	進路相談	人数	2	5	1	22	20	2	8	9	69
		延べ数	2	8	1	29	91	4	14	14	163
	異性問題	人数	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		延べ数	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	ハラスメント	人数	5	0	0	0	0	0	1	3	9
		延べ数	8	0	0	0	0	0	2	11	21
	家庭内問題	人数	0	0	3	5	2	0	0	0	10
		延べ数	0	0	8	6	2	0	0	0	16
その他	人数	10	2	4	18	7	0	32	90	163	
	延べ数	12	2	16	20	21	0	44	225	340	
合計	人数	101	25	31	86	55	7	59	128	492	
	延べ数	146	52	89	122	219	19	102	347	1096	

令和4年度 保健室利用学生数

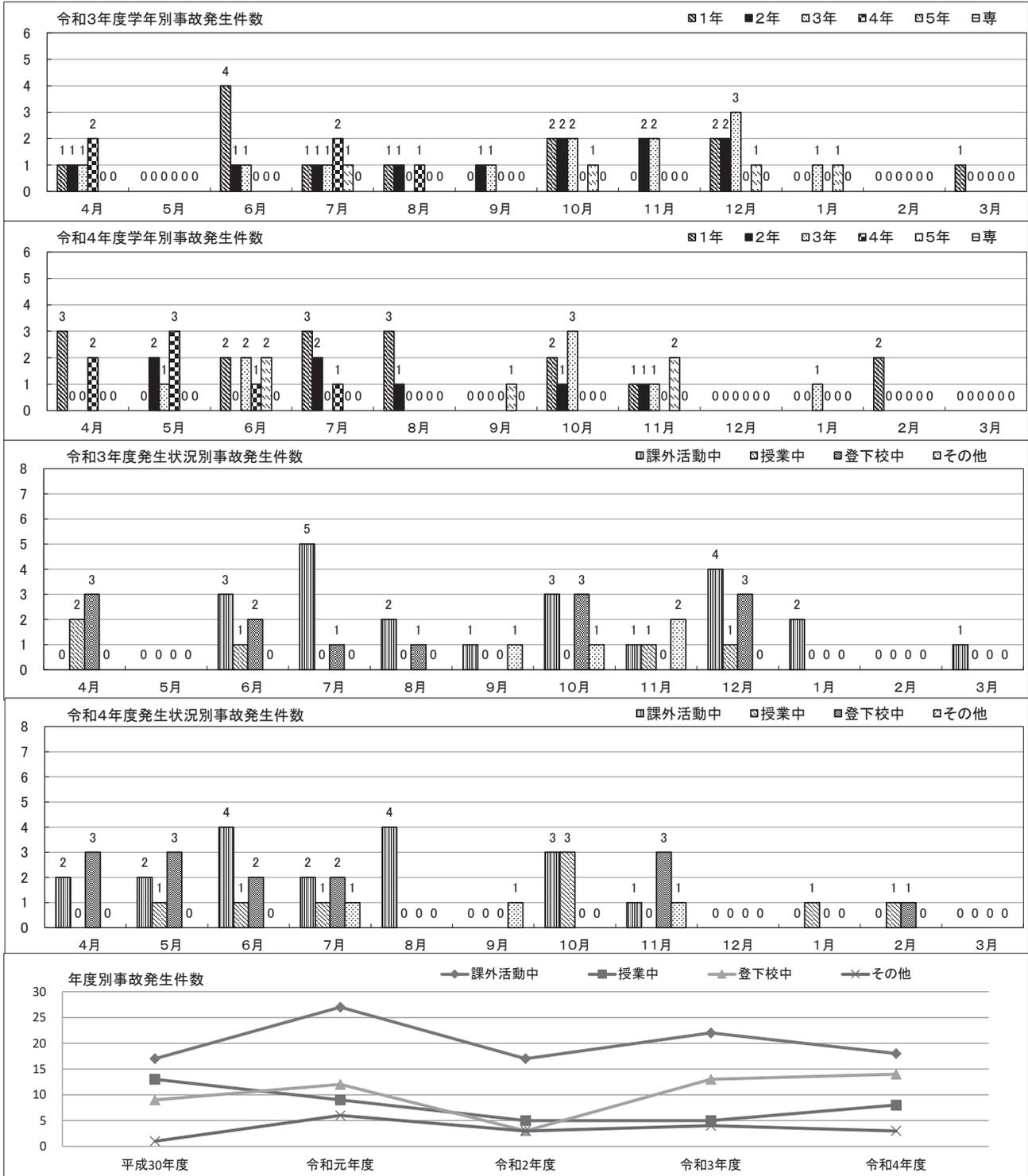
月	区分	怪我等	体調不良等	相談等	総数	登校日数
4		20	22	8	50	18(春季休業)
5		27	20	16	63	17
6		22	29	10	61	22(前期中間試験)
7		19	22	10	51	20(前期末試験)
8		6	10	4	20	8(前期末試験・夏季休業)
9		3	0	4	7	0(夏季休業)
10		33	24	8	65	20
11		11	19	9	39	20(後期中間試験)
12		11	16	5	32	17(後期中間試験・冬季休業)
1		11	17	10	38	18(冬季休業)
2		4	5	7	16	11(学年末試験)
3		4	2	2	8	0(学年末休業)
合計		171	186	93	450	171

保健室利用状況

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
怪我等	151	274	110	140	171
体調不良等	272	313	134	178	186
相談等	133	216	73	60	93
合計	556	803	317	378	450

資料 16

令和3・4年度 学生事故発生件数



資料 17

入学料免除者数（高専機構）

年 度	申請者数	全額免除	半額免除	不許可
平成30年度	0	0	0	0
令和元年度	2	2	0	0
令和2年度	0	0	0	0
令和3年度	0	0	0	0
令和4年度	1	0	0	1

入学料減免者数（高等教育の修学支援新制度）

年 度	申請者数	満額減免	2/3減免	1/3減免	不認定・辞退
令和2年度	15	4	2	3	6
令和3年度	6	5	0	1	0
令和4年度	11	6	2	2	1

資料 18

授業料免除者数

授業料減免者数（高等教育の修学支援新制度）

※令和2年4月から「高等教育の修学支援新制度」（4年生以上の学生（収入等の要件有）に対し、①授業料等の減免（授業料と入学料の免除または減額）と②給付型奨学金の2つの経済支援を行う）が開始。

※減免額については、(1)「第Ⅰ区分：満額（上限の範囲内）」 (2)「第Ⅱ区分：第Ⅰ区分の減免額の2/3」 (3)「第Ⅲ区分：第Ⅰ区分の減免額の1/3」
(4)「停止：適格認定（家計）により支援対象外」 (5)「不認定」 (6)「その他」

年 度	申請者数	(1) 全額減免	(2) 2/3 減免	(3) 1/3 減免	(4) 停止	(5) 不認定	(6) その他
令和2年度	前期	83	33	13	10	0	27
	後期	56	32	11	9	4	0
令和3年度	前期	67	39	12	7	3	6
	後期	65	38	11	9	4	2
令和4年度	前期	53	36	6	8	1	1
	後期	55	35	7	6	4	2

授業料免除者数（高専機構）

年 度	前 期				後 期			
	申請者数	全額免除	半額免除	不許可	申請者数	全額免除	半額免除	不許可
平成30年度	27	12	8	7	25	12	9	4
令和元年度	29	14	11	4	28	15	10	3
令和2年度	24	11	11(3)	2	21	9	10(2)	2
令和3年度	8	1	5(2)	2(1)	7	1	5	1
令和4年度	4	1	2	1	2	1	1	0

() が付いている授業料免除者は、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免」の免除額が「高専機構による授業料免除」の免除額（不許可含む）より多いため、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免」（2/3又は1/3減免）を適用している者。

資料 19

日本学生支援機構賞与奨学生採用者数

	本 科					専 攻 科					採用者数	採用者数	
	在学採用 (第一種)	在学採用 (第二種)	緊急採用 (第一種)	応急採用 (第二種)	予約採用	在学採用 (第一種)	在学採用 (第二種)	緊急採用 (第一種)	応急採用 (第二種)	無利子 (第二種)	合計 (第一種)	合計 (第二種)	
平成30年度	6	1	0	0	3	6	0	0	0	0	15	1	
申請者数	6	1	0	0		6	0	0	0	0			
推薦者数	6	1	0	0		6	0	0	0	0			
採用者数	6	1	0	0	3	6	0	0	0	0			
令和元年度	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0	4	1	
申請者数	2	1	1	1		1	0	0	0	0			
推薦者数	1	0	1	1		1	0	0	0	0			
採用者数	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0			
令和2年度	5	1	0	0	0	2	1	0	0	1	6	2	
申請者数	5	1	0	0		2	1	0	0	1			
推薦者数	5	1	0	0		2	1	0	0	1			
採用者数	4	1	0	0	0	2	0	0	0	1			
令和3年度	6	3	0	0	2	5	4	0	0	0	9	3	
申請者数	6	3	0	0		5	4	0	0	0			
推薦者数	5	3	0	0		5	4	0	0	0			
採用者数	4	2	0	0	2	3	1	0	0	0			
令和4年度	1	1	0	0	0	1	3	0	0	0	0	3	
申請者数	1	1	0	0		1	3	0	0				0
推薦者数	0	1	0	0		1	3	0	0				0
採用者数	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0			

※予約採用は、中学校で予め申請をし、本校入学後に届け出ることで採用が決定される。
 ※第一種・第二種併用申請者等は第一種・第二種それぞれに計上する。

資料 20

日本学生支援機構給付奨学生採用者数

令和元年度		本科4年			本科3年 (予約採用)			採用者数	採用候補者数		
		自宅生	自宅外生	社会的養護		自宅生	自宅外生	社会的養護	合 計		
進学届提出者数		1	1	0	申請者数	21	3	0	2	17	
採用者数		1	1	0	推薦者数	21	3	0			
					採用候補者数	15	2	0			
令和2年度		本科4年～専攻科2年			本科3年 (予約採用)			採用者数	採用候補者数		
		自宅生	自宅外生	社会的養護		自宅生	自宅外生	社会的養護	合 計		
進学届 (編入含む) 提出者数		採用者	14	2	0	申請者数	11	2	1	56	13
在学予約採用		申請者	22	7	0	推薦者数	11	2	1		
		推薦者数	21	6	0	採用候補者数	10	2	1		
在学採用		採用者	11	4	0	/					
		申請者	40	2	0						
		推薦者数	40	2	0						
採用者		24	1	0							
令和3年度											
進学届 (編入含む) 提出者数		採用者	10	2	1	申請者数	9	0	0	19	8
在学採用		申請者	14	0	0	推薦者数	9	0	0		
		推薦者数	14	0	0	採用候補者数	8	0	0		
採用者		6	0	0							
令和4年度											
進学届 (編入含む) 提出者数		採用者	9	0	0	申請者数	5	0	0	20	3
在学採用		申請者	13	1	0	推薦者数	5	0	0		
		推薦者数	12	1	0	採用候補者数	3	0	0		
採用者		10	1	0							

※令和2年4月から「高等教育の修学支援新制度」(4年生以上の学生(収入等の要件有)に対し、①授業料等の減免(授業料と入学金の免除または減額)と②給付型奨学金の2つの経済支援を行う)が開始。

進路状況

年度	学科	卒業生数	求人		就職者			進学・その他
			企業数	求人数	民間企業	官公庁	計	
平成30年度	機械工学科	37	1090	354	15	1	16	21
	電気工学科	39		236	11	0	11	28
	電子制御工学科	36		240	15	0	15	21
	情報工学科	38		186	14	0	14	24
	物質化学工学科	37		131	17	0	17	20
令和元年度	機械工学科	36	1120	332	13	1	14	22
	電気工学科	34		237	16	0	16	18
	電子制御工学科	34		221	11	0	11	23
	情報工学科	40		227	16	0	16	24
	物質化学工学科	34		131	14	0	14	20
令和2年度	機械工学科	36	935	260	13	1	14	22
	電気工学科	48		235	23	0	23	25
	電子制御工学科	34		227	11	0	11	23
	情報工学科	35		195	15	0	15	20
	物質化学工学科	35		119	13	0	13	22
令和3年度	機械工学科	32	848	248	18	0	18	14
	電気工学科	38		209	19	1	20	18
	電子制御工学科	37		215	13	0	13	24
	情報工学科	39		175	21	0	21	18
	物質化学工学科	32		92	8	0	8	24
令和4年度	機械工学科	35	894	301	16	1	17	18
	電気工学科	39		241	14	0	14	25
	電子制御工学科	35		196	12	0	12	23
	情報工学科	32		180	8	0	8	24
	物質化学工学科	36		114	13	0	13	23

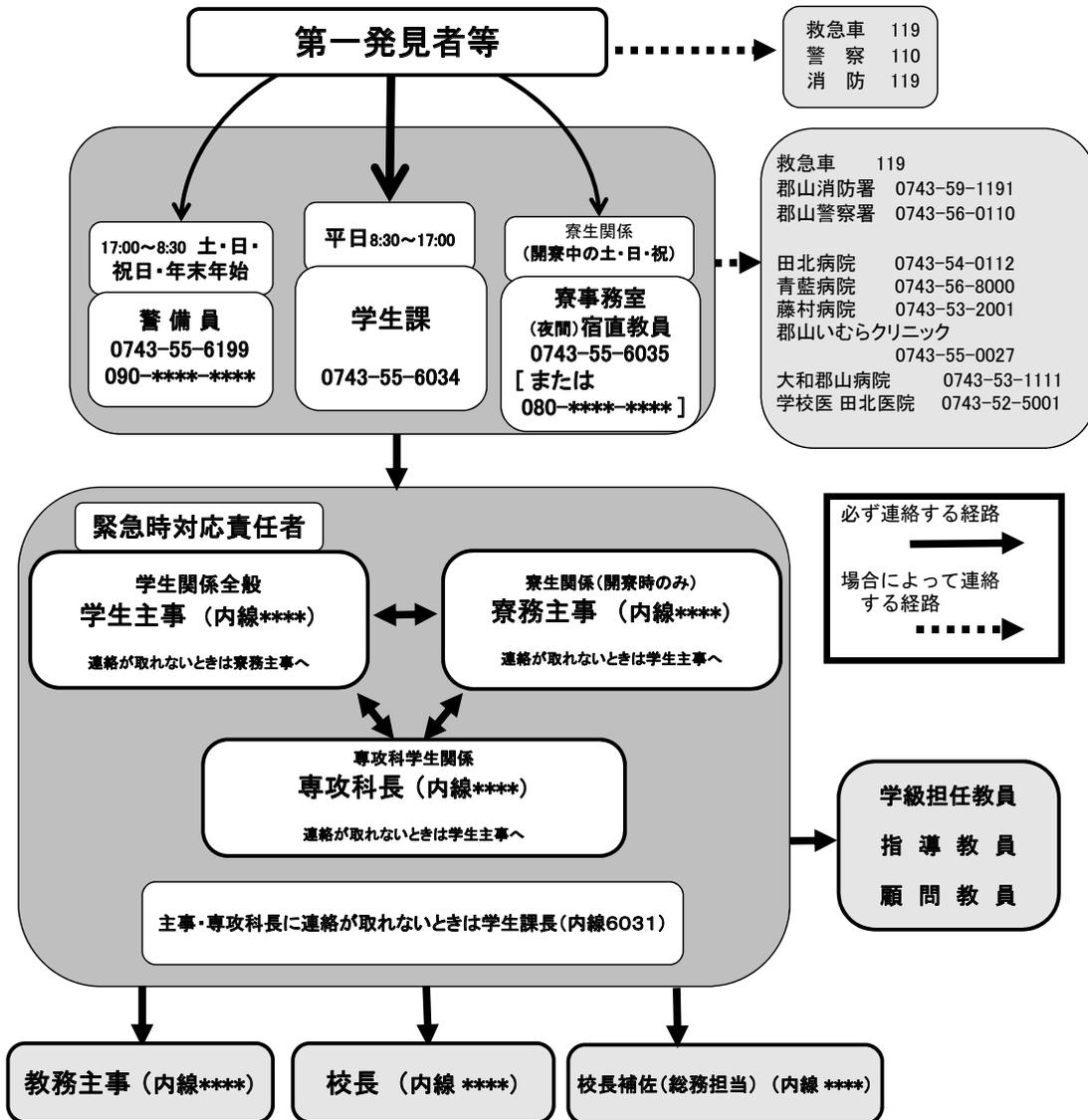
単車通学許可申請者

	学 年	申請者数	許可数
平成30年度	2	0	0
	3	2	2
	4	2	2
	5	1	1
	専攻科	15	15
	合 計	20	20
令和元年度	2	0	0
	3	4	3
	4	2	2
	5	2	2
	専攻科	11	11
	合 計	19	18
令和2年度	2	0	0
	3	4	2
	4	3	3
	5	2	2
	専攻科	10	10
	合 計	19	17
令和3年度	2	1	0
	3	3	3
	4	2	1
	5	3	3
	専攻科	9	9
	合 計	18	16
令和4年度	2	1	0
	3	6	5
	4	4	3
	5	1	1
	専攻科	11	11
	合 計	23	20

※1年生は運転免許の取得を認めていない

奈良高専学生関係事故等緊急時連絡ルート

(图中「内線」は令和5年8月現在の対象教員研究室の内線電話番号)



- 事故等の第一発見者は、生命の安全に留意し現場対応(救急車要請、警察通報)を行うとともに、速やかに関係部署へ連絡し応援を求める。
- 緊急時対応責任者は、状況に応じ速やかに校長に報告するとともに、関係教職員とともにその対応に当たる。
- 緊急時には次のことに留意する。
 - (1) 生命の維持を最優先し、全教職員が適切な応急措置、救急体制がとれるように周知しておく。
 - (2) 冷静で的確な判断と指示をする。
 - (3) 救急車が必要だと判断した際には、直ちに救急車の要請を行う。
 - (4) けが等で病院に搬送するときは、緊急時を除き、保護者の意向を確認する。
 - (5) 事故について、保護者に事故発生状況、程度、今後の対応など詳細に納得のいく説明をする。
 - (6) 事故等緊急時連絡チェックリスト(別記)により関係教職員等に確実に連絡する。
 - (7) 緊急時対応責任者は、経過及び対応を簡潔かつ正確に記録しておく(またはその指示をする)。

学生委員会違反件数

() は関係者数

違反・事件内容	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
無許可単車・自動車通学 免許取得要項違反	5	(5)	18	(14)	4	(4)	4	(4)	4	(4)	4	(4)
交通違反・事故	29	(33)	73	(72)	21	(20)	38	(38)	105	(105)		
不祥事件 (条例違反・窃盗・不正利用等)	4	(4)	3	(3)	4	(4)	2	(3)	5	(5)		
暴力・脅迫行為	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
合 計	38	(42)	94	(89)	29	(28)	44	(45)	114	(114)		

寮生数推移調(平成30年度～令和4年度)

	4 月		1 0 月			4 月		1 0 月		
	学 年	男 子	女 子	男 子		女 子	学 年	男 子	女 子	男 子
平成 30 年度	1年	22	6	21	6	1年	15	4	15	4
	2年	17	4	17	4	2年	20	6	20	5
	3年	17 (4)	5	17 (4)	5	3年	18 (2)	4	18 (2)	4
	4年	17	5 (2)	16	5 (2)	4年	19 (4)	5	19 (4)	5
	5年	22 (3)	6 (2)	22 (3)	6 (2)	5年	14	5 (2)	12	5 (2)
	小計	95 (7)	26 (4)	93 (7)	26 (4)	小計	86 (6)	24 (2)	84 (6)	23 (2)
	合計	121 (11)		119 (11)		合計	110 (8)		107 (8)	

	4 月		1 0 月			4 月		1 0 月		
	学 年	男 子	女 子	男 子		女 子	学 年	男 子	女 子	男 子
令和 2 年度	1年	21	6	23	7	1年	20	9	20	9
	2年	16	4	16	3	2年	22	6	20	6
	3年	21 (3)	5 (1)	21 (3)	5 (1)	3年	15 (3)	3	13 (3)	2
	4年	17 (2)	4	17 (2)	4	4年	19 (3)	5 (1)	16 (3)	4 (1)
	5年	18 (4)	5	17 (4)	5	5年	17 (2)	4	15 (2)	4
	小計	93 (9)	24 (1)	94 (9)	24 (1)	小計	93 (8)	27 (1)	84 (8)	25 (1)
	合計	117 (10)		118 (10)		合計	120 (9)		109 (9)	

	4 月		1 0 月		
	学 年	男 子	女 子	男 子	女 子
令和 4 年度	1年	23	8	23	9
	2年	20	9	20	9
	3年	21 (2)	7 (1)	20 (2)	7 (1)
	4年	11 (3)	2	10 (3)	2
	5年	14 (3)	3 (1)	9 (3)	3 (1)
	小計	89 (8)	29 (2)	82 (8)	30 (2)
	合計	118 (10)		112 (10)	

※ ()は留学生で内数

※ 短期留学生を除く

学 寮 の 日 課 表

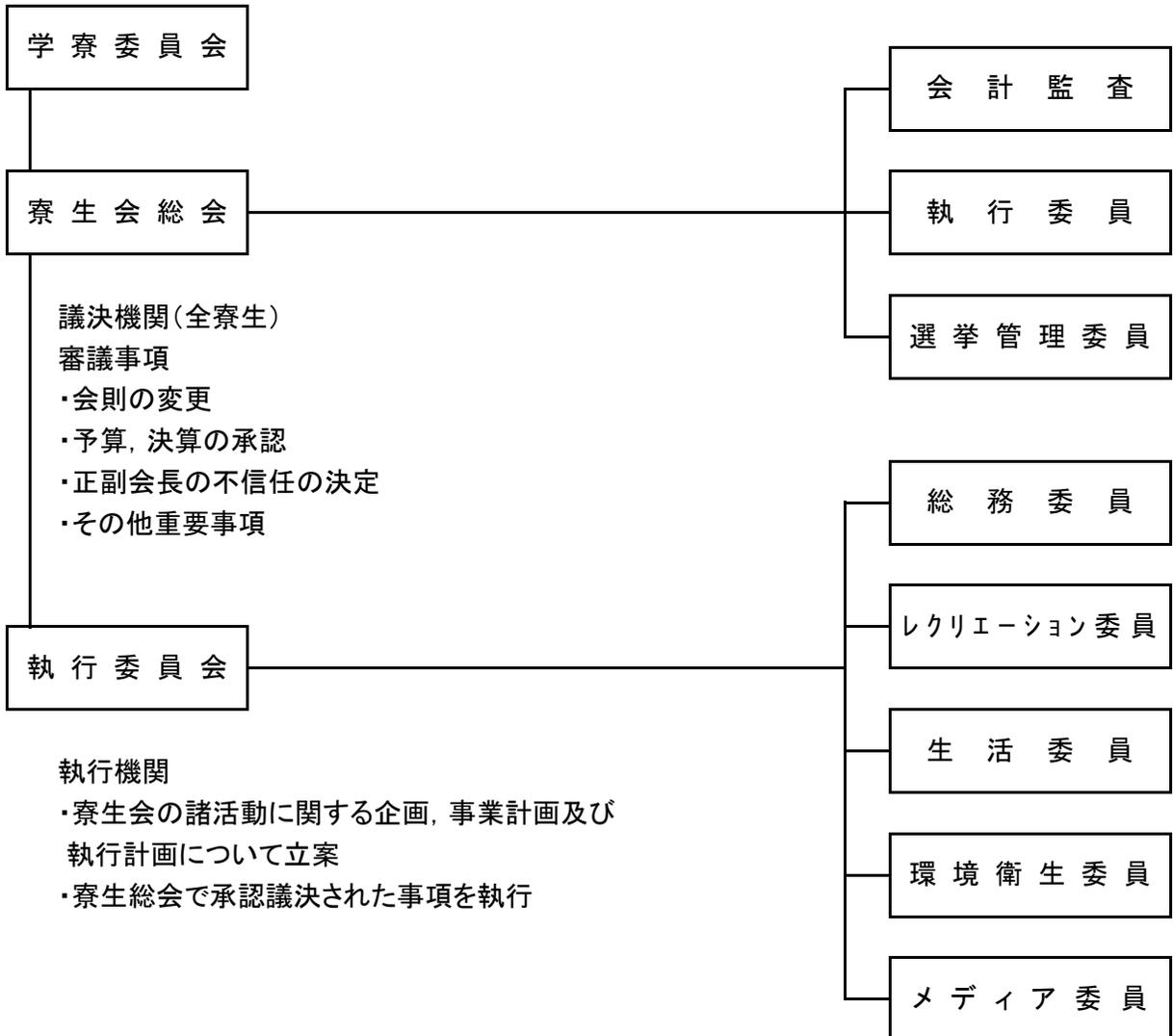
寮生は、基本的に以下の日課表に従って自主的に規則正しい生活をしなければならない。

時 間		内 容
男 子	女 子	
7:00	7:00	起床
7:00 ~ 7:25	7:00 ~ 7:25	清掃
7:30	7:25	点呼報告 (R4. 10~)
7:50	7:50	朝食を知らせる放送
7:50 ~ 8:30	7:50 ~ 8:30	朝食時間
8:15	8:15	登校を促す放送
8:30 ~ 8:40	8:30 ~ 8:40	食堂の片づけ
12:10 ~ 13:10	12:10 ~ 13:10	昼食時間
17:30 ~ 19:15	17:30 ~ 19:15	夕食時間
18:30 ~ 21:30	18:00 ~ 21:00	入浴時間
21:30	21:30	門限
22:00	21:30	点呼報告
23:30	23:30	1年生の消灯時間
1:00	1:00	全寮棟の消灯時間

備考

- ◎ 消灯時刻は、定期試験の1週間前から試験最終日までは自由とする。
- ◎ 冬季は一部変更することがある。

寮生会の組織



学寮の年間行事(令和4年度)

月	諸 行 事
4 月	開寮, 寮生集会, 入寮式, 新入寮生歓迎会(特別食のみ), 連休に伴う閉寮
5 月	開寮, 寮生集会, 春季スポーツ大会
6 月	避難訓練
7 月	寮祭(オンライン), 1年生寮生保護者との懇談会(オンライン), 寮通信の発行
8 月	大掃除, 1年生部屋替え, 夏季休業による閉寮
9 月	
10 月	開寮, 寮生集会, 寮長・副寮長選挙, 避難訓練, 秋季スポーツ大会
11 月	
12 月	5年生と語る会(オンライン), 大掃除(コロナウイルスの影響により中止), 寮通信の発行, 冬季休業による閉寮
1 月	開寮, 寮生集会, 留学生と語る会(オンライン)
2 月	学寮送別会(オンライン), 学年末・春季休業による閉寮
3 月	寮通信の発行, 部屋替え, 入寮予定者オリエンテーション

専攻科入学者選抜方法

年 度	選 抜 方 法 ・ 日 程		
平成31年度	推 薦 5月24日(木)	学 力 検 査 6月16日(土)	社 会 人 9月26日(水)
2020年度	推 薦 5月23日(木)	学 力 検 査 6月15日(土)	社 会 人 9月25日(水)
令和3年度	推 薦 5月14日(木)	学 力 検 査 9月5日(土)	社 会 人 9月23日(水)
令和4年度	推 薦 5月20日(木)	学 力 検 査 6月12日(土)	社 会 人 9月22日(水)
令和5年度	推 薦 5月19日(木)	学 力 検 査 6月18日(土)	社 会 人 9月21日(水)

※1 令和3年度推薦選抜 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み面接は実施せず

※2 令和3年度学力選抜 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み選抜期日を6月13日(土)から9月5日(土)に変更した

年度別専攻科入学状況

年度	専攻名	コース名	入学定員	志願倍率	志願者	合格者	入学者	入学者の出身高専別内訳 ()は社会人で内数	
平成三十 年度	システム創成 工学	機械制御システムコース	12	1.6	19	13	11	本校	11
		電気電子システムコース	6	1.5	9	8	6	本校	6
		情報システムコース	6	2.7	16	12	10	他高専	1
	物質創成工学	-	6	2.3	14	13	10	本校	10
	合 計		30	1.9	58	46	37	本校	36
							他高専	1	
平成三十 一 年度	システム創成 工学	機械制御システムコース	12	2.5	30	21	15	本校	15
		電気電子システムコース	6	3.5	21	18	14	本校	14
		情報システムコース	6	2.7	16	12	9	本校	9
	物質創成工学	-	6	2.2	13	12	7	本校	7
	合 計		30	2.7	80	63	45	本校	45
							他高専	0	
2020 年度	システム創成 工学	機械制御システムコース	12	2.1	25	20	12	本校	12
		電気電子システムコース	6	2.7	16	13	12	本校	11
		情報システムコース	6	2.5	15	15	12	他高専	1
	物質創成工学	-	6	2.7	16	11	7	本校	12
	合 計		30	2.4	72	59	43	本校	7
							他高専	42	
令和三 年度	システム創成 工学	機械制御システムコース	12	1.6	19	14	12	本校	12
		電気電子システムコース	6	2.5	15	12	10	本校	9
		情報システムコース	6	2.0	12	10	9	他高専	1
	物質創成工学	-	6	2.0	12	9	9	本校	9
	合 計		30	1.9	58	45	40	本校	39
							他高専	1	
令和四 年度	システム創成 工学	機械制御システムコース	12	1.7	20	15	11	本校	10
		電気電子システムコース	6	3.2	19	12	8	他高専	1
		情報システムコース	6	2.0	12	9	8	本校	8
	物質創成工学	-	6	2.3	14	12	10	本校	8
	合 計		30	2.2	65	48	37	本校	10
							他高専	36	
							他高専	1	

専攻科学力検査科目と学力検査の日時及び検査場（令和5年度）

区 分		出 題 分 野 (内 容)	
各専攻共通（一般科目）		数学（微分積分，線形代数）	
専 門 科 目	システム創成 工学専攻	機械制御システムコース	熱・水力学，材料力学，電気回路 以上3分野から2分野選択
		電気電子システムコース	電気電子工学（電磁気学，電気回路，アナログ電子回路）
		情報システムコース	情報工学（論理回路，情報数学，情報理論，データ構造とアルゴリズム，プログラミング，計算機ネットワーク）
	物質創成工学専攻	化学工学（流動，伝熱，物質移動）， 物理化学（熱力学及び反応速度論）， 無機化学（元素の性質，化学結合論，固体化学）， 分析化学（酸塩基平衡，沈殿平衡，錯生成平衡，分配平衡，酸化還元平衡）， 有機化学（脂肪族及び芳香族化合物）， 生物化学（生体成分及び代謝） 以上6分野から3分野選択	

(学力検査)

月 日	時 間	科 目 等	検 査 場
6月18日（土）	9：10～10：10	数 学	奈良工業高等専門学校
	10：30～12：30	専門科目	
	13：30～	面 接	

令和4年度 専攻科授業時間割

専攻科	学年	月				水				木				金				
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
専攻科 一年	1	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	
	2	研究力向上ゼミ (浦井・中山)	工学基礎研究・地域創生工学研究 (浦井・中山)	工学基礎研究・地域創生工学研究 (浦井・中山)	システム設計論Ⅱ (須田)	地域存在技術特 (藤田 谷口 額 谷)	技術者倫理 (岩向・平田)	機械設計技術基 (藤田 橋爪)	システム設計論Ⅱ (須田)	システム設計論Ⅱ (上野)	電子情報設計技術基礎 (土井)	研究力向上ゼミ (浦井・中山)	アドバンスド・フロー・シミュレーション (林)	アドバンスド・フロー・シミュレーション (林)	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究
	3																	
	4																	
専攻科 二年	1	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	
	2	実践化学英語 (林)	理研工学 (伊月)	量子化学 (松浦)	流体力学特論 (松本)	エレクトロニクス (石原)	情報伝送 (須田)	地域と世界の文化論 (松井真)	システム設計論Ⅱ (須田)	システム設計論Ⅱ (上野)	計測工学特論 (玉木)	工業材料 (木田)	特別研究	特別研究	特別研究	特別研究	特別研究	特別研究
	3																	
	4																	
専攻科 一年	1	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	
	2	電気回路特論 (大谷)	リーダシップと意思決定 (額谷)	電気回路特論 (大谷)	電気回路特論 (大谷)	計算機ハードウェア (山口賢)	現代有機合成化学 (電井)	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究
	3																	
	4																	
専攻科 二年	1	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	9:00-10:30	10:40-12:10	13:10-14:40	14:50-16:20	
	2	電気回路特論 (大谷)	リーダシップと意思決定 (額谷)	電気回路特論 (大谷)	電気回路特論 (大谷)	計算機ハードウェア (山口賢)	現代有機合成化学 (電井)	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究	工学基礎研究・地域創生工学研究
	3																	
	4																	

専攻科特別講演会

回	日 時	講演者職名	演 題
20	平成 22 年 6 月 7 日(月) 14:40~16:10	元大阪大学総長	ナノサイエンスのロマン
21	平成 22 年 12 月 10 日(金) 15:00~17:00	京都大学名誉教授	次世代エネルギーシステムと電池
22	平成 23 年 12 月 16 日(金) 13:00~14:30	日本資材(株)取締役社長	企業における研究の目的と研究員の姿勢
23	平成 25 年 1 月 25 日(金) 13:00~14:30	豊橋技術科学大学教授	センサと LSI の融合が導くイノベーション
24	平成 25 年 12 月 20 日 (金) 14:40~16:10	大阪大学大学院教授	再生医療実用化の現状と取り組みについて
25	平成 26 年 10 月 10 日 (金) 13:00~14:35	近畿大学水産研究所 所長・特任教授	クロマグロの完全養殖技術の開発と産業化
26	平成 27 年 11 月 13 日(金) 13:00~14:35	京都大学医学部附属病院 医療情報企画部 助教	コンピュータが視る世界, コンピュータが描く世界
27	平成 28 年 12 月 8 日(木) 14:40~16:15	東レ(株)先端材料研究所 新エネルギー材料研究室室長 リサーチフェロー/工務技監	新素材研究と医療・環境分野への適用
28	平成 29 年 11 月 30 日(木) 14:40~16:15	奈良先端科学技術大学院 大学 情報科学研究科 准教授	試行錯誤で行動を学習する人工知能ロボットの進化
29	平成 30 年 10 月 18 日(木) 14:40~16:15	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科教授	スピン電子工学：入門
30	令和元年 12 月 12 日(木) 15:00~16:30	大阪大学院情報科学 研究科 情報数理学専攻 情報フォトニクス講座 助教	コンピューテーショナルイメージング
31	令和 3 年 1 月 21 日(木) 15:00~16:30	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 情報科学領域 ソフトウェア工学研究室助教	ソフトウェアエコシステム研究： ドキュメンテーション・オープンサイエンス・エコノミクス
32	令和 3 年 11 月 11 日(木) 14:50~16:20	山本光学株式会社 執行役員 開発部 部長	現場主義と一気通貫のものづくり
33	令和 4 年 11 月 10 日(木) 15:00~16:00	株式会社アンド 技術顧問	高専卒業後から現在まで

専攻科修了者の進路

奈良工業高等専門学校

年度	専攻名	進路				
		就職	進学	その他		
30	システム創成工学	機械制御システムコース	クオリカプス(株) 1 (株)ヒラノテクシード 1 追手門学院小学校(教員) 1 計 3	奈良先端科学技術大学院大学 7 京都工芸繊維大学大学院 3 京都大学大学院 1 計 11	未定 1 計 1	
		電気電子システムコース	サントリーホールディングス(株) 1 計 1	東北大学大学院 2 岡山大学大学院 1 千葉大学 1 奈良先端科学技術大学院大学 1 大阪大学大学院 1 計 6	計 0	
		情報システムコース	富士通エフサスシステムズ(株) 1 ゾーホージャパン(株) 1 ハイウェイ・ツール・システム(株) 1 e-BASE(株) 1 計 4	奈良先端科学技術大学院大学 2 大阪大学大学院 1 計 3	計 0	
	物質創成工学	三菱ガス化学(株) 1 オリエント化学工業(株) 1 計 2	東京工業大学大学院 2 大阪大学大学院 2 東京大学大学院 1 筑波大学大学院 1 奈良先端科学技術大学院大学 1 計 7	計 0		
		計 10	27	1		
	R1	システム創成工学	機械制御システムコース	セイコーエプソン(株) 1 (株)奥村組 1 計 2	奈良先端科学技術大学院大学 4 大阪大学大学院 3 京都工芸繊維大学大学院 2 計 9	計 0
			電気電子システムコース	計 0	奈良先端科学技術大学院大学 4 名古屋大学大学院 1 京都大学大学院 1 計 6	計 0
		物質創成工学	情報システムコース	TRUNK(株) 1 自衛隊 幹部候補生 1 TISシステムサービス(株) 1 (株)ヘッドジャパン 1 フェンリル(株) 1 計 5	奈良先端科学技術大学院大学 5 計 5	計 0
			計 3	5	0	
		計 10	25	0		

年度	専攻名	進 路						
		就 職	進 学	そ の 他				
R2	システム創成工学	機械制御システムコース	ソフトバンク(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	5	未定	3
			(株)トクピ製作所	1	大阪大学大学院	3		
				京都大学大学院	1			
				同志社大学大学院	1			
			計	2	計	10	計	3
	電気電子システムコース	近畿日本鉄道(株)	1	大阪大学大学院	3	未定	2	
		寺崎電気産業(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	3			
		パナソニック(株)インダストリアルソリューションズ社	1	東京工業大学大学院	2			
				同志社大学大学院	1			
			計	3	計	9	計	2
情報システムコース	アステック(株)	2	奈良先端科学技術大学院大学	3	未定	3		
	(株)アイティフォース	1						
	(株)A H I R U	1						
			計	4	計	3	計	3
物質創成工学			奈良先端科学技術大学院大学	6				
			京都大学大学院	1				
			神戸大学大学院	1				
			大阪大学大学院	1				
		計	0	計	9	計	0	
	計		9		31		8	
R3	システム創成工学	機械制御システムコース	日立造船(株)	1	大阪大学大学院	4		
			(株)小松製作所	1	奈良先端科学技術大学院大学	3		
			新明和工業(株)	1	東北大学大学院	1		
			(株)アル テクナ	1	京都工芸繊維大学大学院	1		
			計	4	計	9	計	0
	電気電子システムコース	大阪ガス(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2			
		ヤンマーホールディングス(株)	1	東北大学大学院	2			
		(株)ビーネックスソリューションズ	1	北陸先端科学技術大学院大学	1			
		日立造船(株)	1	東京工業大学大学院	1			
		TBSアクト(株)	1	大阪大学大学院	1			
パナソニック(株)エレクトリックワークス		1						
(株)中央エンジニアリング		1						
		計	7	計	7	計	0	
情報システムコース	(株)マネーフォワード	1	奈良先端科学技術大学院大学	10				
	大研医器(株)	1						
	(株)NTTデータSBC	1						
	(株)はてな	1						
		計	4	計	10	計	0	
物質創成工学	出光興産(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2				
	三菱ガス化学(株)	1	北海道大学大学院	1				
	旭化成(株)	1						
	住友電気工業(株)	1						
		計	4	計	3	計	0	
計		19		29		0		

年度	専攻名	進 路				
		就 職	進 学	そ の 他		
R4	システム創成工学	機械制御システムコース	オーツェイド(株)	1 奈良先端科学技術大学院大学	2 未定	1
			ファナック(株)	1 大阪大学大学院	1	
			(同)日本テキサスインスツルメンツ	1		
			オムロン(株)	1		
			大阪ガス(株)	1		
			ジョンソンコントロールズ(株)	1		
			中西金属工業(株)	1		
			(株)イトーキ	1		
			ダイキン工業(株)	1		
			東京ロボティクス(株)	1		
	計	10	計	3	計	1
	電気電子システムコース	アイテック 阪急阪神(株)	1 大阪大学大学院	2		
		パナソニック(株)	1 奈良先端科学技術大学院大学	1		
くらしアプライアンス社		1 京都大学大学院	1			
ダイダン(株)		1 東北大学大学院	1			
豊橋技術科学大学 研究員	1 岡山大学大学院	1				
計	4	計	6	計	0	
情報システムコース	ソニーグローバルマニュファクチュアリング&オペレーションズ(株)	1 奈良先端科学技術大学院大学	4	未定	1	
	(株)ハイマックス	1				
	eBASE(株)	1				
	(株)テイジイエル	1				
	(株)KMS	1				
計	5	計	4	計	1	
物質創成工学	(株)呉竹	1 京都大学大学院	2			
	日東電工(株)	2 奈良先端科学技術大学院大学	1			
		筑波大学大学院	1			
		大阪大学大学院	1			
		九州大学大学院	1			
計	3	計	6	計	0	
計	22		19		2	

奈良高専JABEE修了者進路状況

平成17年度												平成18年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
4	8	0	12	2	6	0	8	2	3	0	5	9	6	1	16	2	11	1	14	2	3	0	5
33.3%	66.7%	0.0%		25.0%	75.0%	0.0%		40.0%	60.0%	0.0%		56.3%	37.5%	6.3%		14.3%	78.6%	7.1%		40.0%	60.0%	0.0%	

平成19年度												平成20年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
2	12	1	15	6	11	0	17	3	4	0	7	6	11	3	20	7	8	1	16	3	3	0	6
13.3%	80.0%	6.7%		35.3%	64.7%	0.0%		42.9%	57.1%	0.0%		30.0%	55.0%	15.0%		43.8%	50.0%	6.3%		50.0%	50.0%	0.0%	

平成21年度												平成22年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3	8	1	12	4	4	2	10	3	5	0	8	11	9	0	20	5	10	1	16	2	2	0	4
25.0%	66.7%	8.3%		40.0%	40.0%	20.0%		37.5%	62.5%	0.0%		55.0%	45.0%	0.0%		31.3%	62.5%	6.3%		50.0%	50.0%	0.0%	

平成23年度												平成24年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
9	8	0	17	3	8	2	13	2	8	0	10	8	6	0	14	6	6	1	13	4	3	0	7
52.9%	47.1%	0.0%		23.1%	61.5%	15.4%		20.0%	80.0%	0.0%		57.1%	42.9%	0.0%		46.2%	46.2%	7.7%		57.1%	42.9%	0.0%	

平成25年度												平成26年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
7	7	0	14	6	13	1	20	5	6	0	11	2	12	0	14	10	7	0	17	2	5	0	7
50.0%	50.0%	0.0%		30.0%	65.0%	5.0%		45.5%	54.5%	0.0%		14.3%	85.7%	0.0%		58.8%	41.2%	0.0%		28.6%	71.4%	0.0%	

平成27年度												平成28年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3	7	0	10	3	12	0	15	2	7	0	9	1	9	0	10	2	10	0	12	0	8	0	8
30.0%	70.0%	0.0%		20.0%	80.0%	0.0%		22.2%	77.8%	0.0%		10.0%	90.0%	0.0%		16.7%	83.3%	0.0%		0.0%	100.0%	0.0%	

平成29年度												改組前 累計											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
7	10	0	17	5	12	1	18	2	11	0	13	72	113	6	191	61	118	10	189	32	68	0	100
41.2%	58.8%	0.0%		27.8%	66.7%	5.6%		15.4%	84.6%	0.0%		37.7%	59.2%	3.1%		32.3%	62.4%	5.3%		32.0%	68.0%	0.0%	

平成30年度												令和元年度											
システム創成工学専攻(SI専攻)												システム創成工学専攻(SI専攻)											
AMコース				AEコース				AIコース				AMコース				AEコース				AIコース			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3	11	1	15	1	6	0	7	4	3	0	7	2	9	0	11	0	6	0	6	5	5	0	10
20.0%	73.3%	6.7%		14.3%	85.7%	0.0%		57.1%	42.9%	0.0%		18.2%	81.8%	0.0%		0.0%	100.0%	0.0%		50.0%	50.0%	0.0%	

令和2年度												令和3年度											
システム創成工学専攻(SI専攻)												システム創成工学専攻(SI専攻)											
AMコース				AEコース				AIコース				AMコース				AEコース				AIコース			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
2	10	3	15	3	9	2	14	4	3	3	10	3	9	0	12	5	6	0	11	4	10	0	14
13.3%	66.7%	20.0%		21.4%	64.3%	14.3%		40.0%	30.0%	30.0%		25.0%	75.0%	0.0%		45.5%	54.5%	0.0%		28.6%	71.4%	0.0%	

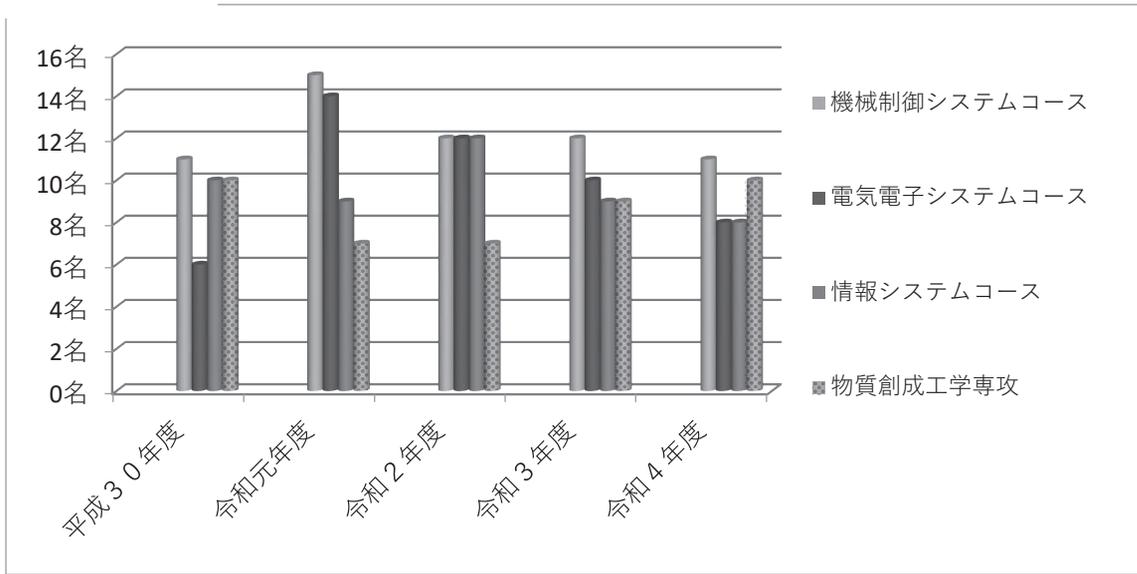


図 専攻科入学者数の推移

企業・大学等インターンシップ参加者数（専攻科・延べ人数）

年 度	システム創成工学専攻			物質創成 工学専攻	合 計
	機械制御 システム コース	電気電子 システム コース	情報 システム コース		
平成30年度	5	3	7	5	20
令和元年度	11	4	7	1	23
令和2年度	4	2	1	1	8
令和3年度	5	10	3	0	18
令和4年度	11	10	8	6	35

※海外インターンシップ含む

専攻科生の論文等の学会発表件数

発表先	年度	機械制御システムコース	電気電子システムコース	情報システムコース	物質創成工学専攻	合計
学術雑誌論文	平成30年度	4	5	0	0	9
	令和元年度	4	2	1	0	7
	令和2年度	3	1	0	3	7
	令和3年度	1	1	1	0	3
	令和4年度	4	0	1	0	5
国際学会発表	平成30年度	8	4	1	6	19
	令和元年度	8	4	3	16	31
	令和2年度	4	1	5	3	13
	令和3年度	13	0	1	3	17
	令和4年度	8	2	4	9	23
国内学会発表※	平成30年度	26	20	12	36	94
	令和元年度	21	15	10	32	78
	令和2年度	19	12	16	23	70
	令和3年度	13	23	15	19	70
	令和4年度	11	18	25	24	78
その他 (特許, 研究紀 要, 解説等)	平成30年度	0	1	0	0	1
	令和元年度	0	4	0	0	4
	令和2年度	2	0	0	0	2
	令和3年度	1	0	0	0	1
	令和4年度	0	0	0	0	0

※国内で開催された国際学会での発表は、国際学会発表欄に含めるものとする

専攻科生の学外表彰実績

学生氏名		タイトル	授与機関・学会議名
			賞名
システム創成工学専攻	電気電子システムコース 増田 樹	奇モードと偶モードに着目した非接触エネルギー伝送の解析	電気学会 令和4年全国大会 令和4年電気学会全国大会優秀論文発表賞
	電気電子システムコース 増本 千裕	エポキシを被膜したFe-B微粒子を用いた LbL法アシスト複合めっきによるFe-B/Epoxy複合膜の作製	表面技術協会関西支部 第24回関西表面技術フォーラム 研究奨励賞
	情報システムコース 山崎 心	自己テスト可能なスキャンC素子のレイアウトレベル設計	令和3年度第3ブロック専攻科研究フォーラム 優秀発表
	情報システムコース 渡邊 未来	メルセンヌ・ツイスタのための最小テスト系列組込み法	情報処理学会 第21回情報科学技術フォーラム FIT論文賞
物質創成工学専攻 宇賀 正紘	層状複水酸化物のアルカリ型燃料電池用電解質への応用と イオン伝導機構の解明	関西電気化学研究会 奨励賞	
物質創成工学専攻 栗原 悠花	4級ホスホニウムイオン液体を電解質とした 高電位作動リチウムイオン電池の開発	第12回高専-TUT太陽電池合同シンポジウム&GEAR防災・減災(エネルギー) シンポジウム&GEARマテリアル(エネルギー)シンポジウム&GEARエネルギー・ 環境シンポジウム 優秀ポスター発表賞	
物質創成工学専攻 塩見 光平	脂質化Coumarinを用いたカチオン性脂質と両イオン性脂質から 構成されるリポソームの相分離解析	日本膜学会・第44年会 学生賞	

第2章 研究に関する評価関係

科学研究費等受入実績調べ

(単位:件、円)

学 科 名	科学研究費補助金 外数(研究分担金)		共 同 研 究 (産学連携等研究費)		受託研究・受託事業 (産学連携等研究費)		補 助 金 事 業		奨 学 寄 寄 附 金		う ち 県 内		う ち 県 外	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
平成30年度	24 (10)	22,152,560 【6,540,000】 (2,250,000) 【675,000】	29	16,391,861	13	35,902,870	10	26,223,357	104	30,586,200	39	10,891,400	65	19,694,800
令和元年度	21 (10)	21,050,000 【6,180,000】 (2,095,000) 【628,500】	21	13,018,292	13	74,772,371	10	27,626,242	98	23,626,236	43	12,103,236	55	11,523,000
令和2年度	21 (14)	21,132,163 【6,120,000】 (2,920,000) 【876,000】	25	18,386,280	8	82,910,278	12	181,197,588	76	9,681,000	29	4,276,000	47	5,405,000
令和3年度	25 (13)	31,788,197 【9,272,460】 (2,041,000) 【612,300】	14	10,570,000	5	38,882,999	8	15,950,000	65	14,234,000	29	3,254,000	36	10,980,000
令和4年度	27 (15)	23,310,000 【6,780,000】 (3,280,960) 【984,288】	13	6,985,000	8	29,263,000	6	5,700,000	76	17,916,000	35	12,420,000	41	5,496,000

外数【間接経費】

令和 4 年度 科学研究費採択状況一覽

年度	種別	申請数	採択数	採択延長除く 期間延長除く	採択率	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	氏名	種別	配分額(千円)	内 課 題	
											課題番号	題
	特別推進研究	0	0	0	-	0	0					
	新学術領域研究	0	0	0	-	0	0					
	学術家革領域研究	0	0	0	-	0	0					
	基礎研究(S)	0	0	0	-	0	0					
	基礎研究(A)	0	0	0	-	0	0					
	基礎研究(B)	3	3	1	33.3%	2,900	870	後藤 景子	継続	1,781	21H00811	大気圧プラズマジェット表面改質技術を用いたテキスタイルの濡れ制御
						0	0	朴 權基	期間延長	0	17K04598	音声データ分析による英語ブレイン・ジョン読書の教育評価方法に関する研究開発
						0	0	直江 一光	期間延長	0	18K04830	微生物を含むマイクロバイオームを気相中マイクロロリクターとする生体ファイバーの合成
						0	0	宇田 亮子	期間延長	0	18K05068	光オン化マラチンゲートグリーン誘導体によるDNA固定化の構築とメカニズムの解明
						0	0	中村 篤人	期間延長	0	19K04202	音波共振管実験と分子軌道力学に基づく非平衡状態下の蒸気係数測定法の開発
						400	120	福岡 寛	継続	520	19K04182	衝撃波閉じ込め領域の制御に向けた壁面表面設計
						500	150	松尾 實一	継続	650	20K03143	自由手書きされた重ね文字認識を可能とする前処理の実現
						400	120	竹原 信也	継続	380	20K03286	技術者倫理教育の教育実践研究を通じた教育改善と初等的な学習教材の開発
						100	30	谷口 幸典	継続	130	20K04204	圧粉成形における降伏関数パラメータの同定手法一般化と成形不良事例の解析
						800	240	堀井 総之	継続	1,040	20K05482	PXXをコアとする多様な含酸素芳香族化合物の合成と物性評価
						700	210	山口 智浩	継続	520	20K11946	多目的強化学習の学習結果全ての分布を可視化する報酬生成履歴に基づくベクトル空間の構築
						700	210	中村 秀美	継続	910	20K12248	イオン交換/キレート繊維を用いた半導体めっきゼロ・エミッションプロセスの構築
						900	210	平 俊男	継続	1,170	21K03824	深層学習を用いた分子軌道計算の高速化
						1,600	480	早川 恭弘	継続	2,080	21K03990	認知症予防・発症診断・進行抑制のための革新的自立型歩行システムの開発
				21	42.0%	800	240	藤田 直幸	継続	910	21K04162	100MHz動作を狙ったサブプロセッサ内包アルミナナノワイヤの創成
						1,200	360	宇田 亮子	継続	1,170	21K05219	標的がん細胞の殺菌と同時殺菌を可能にするpH応答性分子含有リポソームの開発
						1,200	360	飯田 賢一	継続	1,560	21K05858	収穫・管理支援用運搬台車の開発
						700	210	岩田 大志	継続	910	21K11820	多入力多出力の非同期式順序素子を対象としたシステム容易化設計
						700	210	上野 秀剛	継続	910	21K11842	生体情報を用いたプログラム理解のマイクログラフ分析
						500	150	新井 由美	継続	650	20K00288	新聞小説を標本とする大正末～昭和戦前期の文学環境に関する基礎的研究
						700	210	津本 祐子	継続	910	21K00805	日本人EFL学習者の英語産出における統語構造の複雑性の発達
						1,000	300	酒井 史敏	新規	1,300	22K04005	機械システムにおける反復学習同定法のためのパラメータ空間表現
						700	210	顯谷 智也子	新規	2,340	22K02908	協働学習におけるグループ編成パターンの構築と学習活性化度の定量的効果測定の研究
						1,800	540	芦原 佑樹	新規	2,340	22K04147	電離圏対流・水平構造観測を実現するロケットGNSS-TECトモグラフィ
						700	210	林 啓太	新規	585	22K04820	表面電位制御ペナルティ法によるメッシュ状中空シリカ粒子の調製
						700	210	石丸 裕士	新規	910	22K03014	客観指標に基づいたポストコロナ対応型グループ学習による高専生命科学授業の開発
	挑戦的研究(萌芽)	3	0	0	0.0%							
						1,300	390	須田 敦	継続	1,680	21K14111	能動制御キャスターを複数同時制御する体系的振動制御手法
						1,200	360	松本 充夫	継続	1,580	21K13892	光ビームセットが導く特異相形成過程の形成過程と起源の解明
						400	120	坂倉 和裕	新規	520	22K18085	ナールド・ド・モーデー政權下のインドにおける政治運動
	研究活動スタート支援(ひらめき 女とまめサイエンス)	0	0	0	-	0	0	顯谷 智也子	期間延長	0	19K23307	アクティブラビニングにおける基礎的・汎用的能力の定量的評価の研究
						270	270	玉木 隆幸	新規	270	22H01448	光を探る ～ 光で透明な材料は制れるか？ ～
						440	440	福田 龍一	新規	440	22H04138	無自覚な不安行動を気づかせ危険感受性を養う、危険回避ナッジシステムの開発と導入
	小計(代表)	72	27	27	37.5%	23,310	6,780			26,736		
	基礎研究(A) 研究分担者					340	102	坂倉 和裕	新規	442	22H00049	分権化と集権化の政治学：インド28州から見る「民主主義」の展開と再生への道
	基礎研究(B) 研究分担者					300	90	上島 智史	継続	380	19H04367	司法積極主義と社会運動からみる現代インドの自由民主主義体制の持続可能性
	基礎研究(B) 研究分担者					141	42	上島 智史	継続	183	20H01394	防災・災害復興に向けた地図・総図資料の歴史GISデータ化
	基礎研究(B) 研究分担者					320	96	大谷 真弘	継続	416	21H03513	選定時間がネットワークダイナミクスに誘発させる安定化・多様化の基礎と革新的応用
	基礎研究(B) 研究分担者					650	195	岩田 大志	新規	845	22H02469	XR(リアリティ)太陽光型植物工場システムの開発
	基礎研究(B) 研究分担者					300	90	顯谷 智也子	新規	390	22H03591	格子番号によるインターネット経路セキュリティの実現
	基礎研究(C) 研究分担者					135	41	新井 由美	新規	176	20K00346	新聞小説の多角的分析 - 1920年代から1940年代を中心に
	基礎研究(C) 研究分担者					200	60	後藤 景子	継続	260	20K02417	電界糸糸法とインシット法による再生繊維の持続可能染色加工
	基礎研究(C) 研究分担者					30	9	太田 孝雄	継続	39	20K04219	多品種少量生産用半導体製造向け多層イオンマネージメント装置の開発
	基礎研究(C) 研究分担者					50	15	太田 孝雄	継続	65	20K04944	大気圧プラズマを応用した多層塗膜における対象表面に制御可能な剥離性易くする手法の開発
	基礎研究(C) 研究分担者					150	45	後藤 景子	継続	195	21K02084	フィンパル水を用いた布の洗滌処理の解析および最適化手法の提案
	基礎研究(C) 研究分担者					150	45	中村 篤人	新規	195	21K02498	オンライン授業におけるICT活用指導技術の習得・評価に関する基礎的研究
	基礎研究(C) 研究分担者					385	116	新井 由美	新規	501	22K02089	日本近代文学と近代絵画の関係を中心とする学術領域横断的研究
	基礎研究(C) 研究分担者					50	15	藤田 直幸	新規	65	22K04767	レーザー誘起改質法による超短時間で電子貯蔵型 WO3/W 光電極の形成
	基礎研究(C) 研究分担者					80	24	福岡 寛	新規	104	22K04882	非平衡気相レーザープロセスによる複合ナノ粒子の形成過程の解明と複合構造制御
	小計(分担)	15	15	15	100.0%	3,281	984			4,265		
	合計	87	42	42	48.3%	26,591	7,764					

4年度

令和4年度 受託研究・受託事業・補助金事業一覧

受託研究

学 科	氏 名	受託研究申込者	所 在 地	研 究 題 目	研 究 期 間	研究経費受入額
電気工学科	池田 陽紀	企業等との守秘義務の関係上、個人を特定できる情報を割愛することといたしました。ご了承願います。			R4.4.14-R5.3.20	1,375,000
物質化学工学科	山田 裕久	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発 機構	神奈川県川崎市幸区大宮町 1310 ミューザ川崎セントラルタワー 18階	『燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた 共通課題解決型産学官連携研究開発事業 /水素利用等高度化先端技術開発/PEFC 用イオン液体含浸型Pt/MPC高活性・高 耐久カソード触媒合成技術の研究開発』 (令和4年度分)	R2.7.31-R6.3.31	18,160,000
機械工学科	福岡 寛	国立大学法人東京大学 工学系・情報理工学系等 事務部長 櫻井 明	東京都文京区本郷7-3-1	脳深部計測のための音響光技術開発 (日本医療研究開発機構(AMED)革新的技 術による脳機能ネットワークの全容解明プ ロジェクト)	R4.4.1-R5.3.31	2,730,000
物質化学工学科	宇田 亮子	国立研究開発法人科学技術振興機 構 分任研究契約担当者 契約部長 近藤 章博	東京都千代田区四番町5番 地3	紫外光応答性経皮リボソームの開発/研究 成果展開事業/研究成果最適展開支援プ ログラム(A-STEP)トライアウト	R4.10.1-R6.3.31	1,495,000
機械工学科	谷口 幸典	企業等との守秘義務の関係上、個人を特定できる情報を割愛することといたしました。ご了承願います。			R4.12.12-R5.3.31	325,000
計	5件					24,085,000

受託事業

学 科	氏 名	受託事業申込者	所 在 地	プログラム名	受託期間	受託金額
広報センター長	芦原 佑樹	生駒市長 小紫 雅史	奈良県生駒市東新町8番38 号	令和4年度いこまこチャレンジ教室 (生駒市科学教室)	R4.8.1-R5.3.31	100,000
情報工学科	内田 真司	郡山城にぎわいづくり実行委員会 会長 飯田 喜代視	奈良県大和郡山市北郡山町 248番地4	郡山城天守台プロジェクトマッピング	R4.8.15-R4.11.26	78,000
物質化学工学科	山田 裕久	大学共同利用機関法人 情報・シス テム研究機構 機構長 藤井 良 一	東京都立川市緑町10番3号	AI等の活用を推進する研究データエコシ テム構築事業	R4.12.21-R5.3.31	5,000,000
計	3件					5,178,000

補助金事業

学 科	氏 名	補助事業実施者	所 在 地	プロジェクト名	補助期間	補助金額
物質化学工学科	亀井 稔之	公益財団法人 高橋産業経済研究 財団	東京都品川区西五反田2丁目 12番19号 五反田NNビル10階	導入容易ならせん分子ユニットの開発 (高橋産業経済研究財団 令和4年度助成 金)	R4.4.1-R6.3.31	1,500,000
校長	後藤 景子	奈良県知事 荒井 正吾	奈良県奈良市柏木町129番地 1	令和4年度奈良高専技術情報活用支援事 業補助金	R4.4.1-R5.3.31	1,200,000
一般教科	竹原 信也	関西工学教育協会高専部会長 近畿大学工業高等専門学校校長 齋 藤 公博	三重県名張市春日丘7番町1 番地	ファブ(Fab)施設機能を有する高専型・地域 共創拠点の形成にむけたアウトリーチ活動 の試み (令和4年度関西工学教育協会高専部会 教育研究助成)	R4.6.17-R5.3.31	150,000
産学協働・地域 創生研究セン ター長	上野 秀剛	公益財団法人寺田科学技術育英会 理事長 寺田 俊彦	奈良県大和高田市東雲町3 番17号	研究クラスターの支援を通じた学生の社会 実装への参加(令和4年度公益財団法人寺 田科学技術育英会助成)	R4.9.14-R5.3.31	1,500,000
一般教科	竹原 信也	公益財団法人ちゅうでん教育振興 財団 事務局長 山崎 貴史	愛知県名古屋市東区東桜二 丁目6番30号 東桜会館4階	地域資源を活用したFab施設・地域共創拠 点形成の試み (2022年度 ちゅうでん教育振興助成(高等 専門学校の部))	R5.4.1-R6.3.31	850,000
電子制御工学科	西田 茂生 他	独立行政法人工業所有権情報・研 修館	東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー 8階	令和5年度知財力開発校支援事業	R5.4.1-R6.3.31	500,000
計	6件					5,700,000

令和4年度 共同研究一覧

	学 科	氏 名	会 社 名	所 在 地	研 究 題 目	変更契約	研 究 期 間	研究経費受入額
1	情報工学科	松尾 賢一					R4.4.1 ~ R5.3.31	220,000
2	機械工学科	谷口 幸典					R4.5.6 ~ R5.3.31	420,000
3	機械工学科	廣 和樹					R4.5.17 ~ R5.3.31	77,000
4	電子制御工学科	樺 弘明 早川 恭弘					R4.6.13 ~ R5.3.31	999,000
5	電気工学科	大谷 真弘					R4.8.30 ~ R5.2.28	0
6	物質化学工学科	松浦 幸仁					R4.10.24 ~ R5.3.14	500,000
7	情報工学科	松尾 賢一				期間延長 研究費増額	R4.4.1 ~ R6.3.31	330,000
8	機械工学科	谷口 幸典					R5.4.1 ~ R6.3.31	1,089,000
9	電子制御工学科	樺 弘明 早川 恭弘				期間延長	R4.6.13 ~ R6.3.31	-
10	機械工学科	福岡 寛				期間延長 研究費増額	R2.5.26 ~ R6.3.31	500,000
11	情報工学科	上野 秀剛				期間延長 研究費増額	R2.5.26 ~ R6.3.31	500,000
12	物質化学工学科	中村 秀美				期間延長 研究費増額	R4.4.1 ~ R6.3.31	500,000
13	情報工学科	上野 秀剛				期間延長 研究費増額	R4.4.1 ~ R6.3.31	1,300,000
14	電子制御工学科	飯田 賢一				期間延長 研究費増額	R2.4.2 ~ R6.3.31	550,000
	計	13件（期間延長のみの変更契約分は件数に含まない）						6,985,000

企業等との守秘義務の関係上、個人を特定できる情報を割愛することといたしました。ご了承願います。

49	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.8.3
50	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.8.1
51	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.8.30
52	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.8.26
53	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.8.31
54	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.9.30
55	福岡准教授・谷口准教授 研究助成金			○	750,000円		R4.10.25
56	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	40,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.9.28
57	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	40,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.9.27
58	亀井准教授研究助成金			○	16,000円		R4.10.5
59	谷口准教授研究助成金			○	300,000円		R4.10.28
60	須田谷口教育研究助成金			○	20,000円		R4.10.18
61	谷口准教授研究助成金			○	330,000円		R4.11.10
62	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.11.10
63	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.10.28
64	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.10.31
65	奈良高専産学連携推進助成金			○	100,000円	奈良高専教育研究及び産学官金・地域連携事業に関する助成のため	R4.11.25
66	飯田教授研究助成金			○	550,000円		R4.11.25
67	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.12.2
68	須田谷口教育研究助成金			○	50,000円		R4.12.7
69	教育助成金			○	5,000,000円	教育の助成	R4.12.9
70	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.12.28
71	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	100,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5.2.10
72	石飛 学教授研究助成金			○	1,200,000円		R5.2.22
73	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5.3.2
74	学内福利厚生向上及び教育環境整備支援の助成金			○	5,500,000円	学内福利厚生向上及び教育環境整備支援助成のため	R5.2.27
75	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5.3.27
76	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5.5.11
合 計						17,916,000円	

学会賞等の受賞状況(奈良高専在任期間中)

学科	氏名	年月	賞の名称	主催者	備考
物質化学工学科	中村 秀美	平成30年4月	平成29年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰 一般部門 理事賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	教育・研究を通じた地域社会貢献と人材育成の推進
一般教科	竹原 信也	平成30年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	技術者教育としての社会科教育を考えるー10年の取組とその成果ー
情報工学科	山口 賢一	平成31年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	プログラミング導入教育の地域への普及促進とセキュリティ人材確保に向けた取り組み
電気工学科	芦原 佑樹	平成31年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	ステークホルダー・コミュニケーションを通じた学生育成
物質化学工学科	伊月 亜有子	令和2年9月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生に寄り添った指導支援の実践
電気工学科	芦原 佑樹	令和2年9月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	ステークホルダー・コミュニケーションを通じた学生育成
電子制御工学科	玉木 隆幸	令和3年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生とのコミュニケーションを中心とする教育研究の実践
情報工学科	岩田 大志	令和3年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	高専間人事交流を活用したIoTシステムに関する教育研究の展開
電気工学科	石飛 学	令和4年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	日本を元気にするエンジニア人材の育成
情報工学科	上野 秀剛	令和4年4月	令和3年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰 若手部門 理事賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	シームレスな学生教育・研究・社会実装の結合
機械工学科	酒井 史敏	令和4年5月	2022年度システム制御情報学会賞 論文賞	一般社団法人システム制御情報学会	射影型反復学習同定法のためのパラメータ空間表現の推定

特許出願・登録状況

No	学科	氏名	特許出願日	出願番号	特許登録日	発明の名称	特許権者
1	機械工学科	小柴 孝	2005.02.10	2005-034243	2007.06.22 (特許第3972109号)	液体の曳糸性評価方法	国立高等専門学校機構
2	電子制御工学科	早川 恭弘	2005.12.20	2005-365829	2009.11.27 (特許第4411439号)	靴底及び靴	国立高等専門学校機構
3	機械工学科	児玉 謙司	2013.05.24	2013-109894	2017.10.27 (特許第6230096号)	強磁性非磁性複合体	国立高等専門学校機構
4	電子制御工学科 電気工学科	玉木 隆幸 小野 俊介	2013.07.25	2013-154687	2018.03.23 (特許第6308733号)	レーザ加工装置および製造方法	国立高等専門学校機構
5	校長 電気工学科	谷口 研二 土井 滋貴	2015.06.22	2015-124380	2019.06.14 (特許第6539126号)	揺れ検知駆動装置および揺れ検知駆動方法	国立高等専門学校機構
6	校長 電気工学科	谷口 研二 土井 滋貴	2019.05.15	2019-091803	2020.10.16 (特許第6779537号)	揺れ検知駆動装置および揺れ検知駆動方法	国立高等専門学校機構
7	電気工学科	石飛 学	2018.01.18	2018-006806	2022.08.04 (特許第7117725号)	インダクタ、インダクタを備えた装置及びインダクタの製造方法	国立高等専門学校機構 株式会社ダイヘン 株式会社アード

第3章 社会との連携，グローバル教育，男女共同参画推進関係

公開講座実施実績一覧（令和3年度）

講座名	開催日時	対象	募集人数 (受講者数)	担当学科 または委員会
電気工学科オンライン体験授業	第1回11月13日(土) 11:00~11:40	中学生 (1~3年)	300 (約75)	電気工学科
	第2回11月23日(火・祝) 15:00~15:40			
	第3回12月12日(日) 13:00~13:40			

公開講座実施実績一覧（令和4年度）

講座名	開催日時	対象	募集人数 (受講者数)	担当学科 または委員会
からくり人形をつくろう	9月17日(土) 13:00~15:00	小学生 (4~6年)と 保護者	20 (18)	機械工学科
デジタルファブリケーション入門～デジタル工作機械を使ってみよう～	9月3日(土) 10:00~15:00	小学生(6年)、 中学生(1・2年)	8 (6)	機械工学科
楽しいIoT教室 ～こんなものがインターネット につながる!～	10月1日(土) 13:00~16:00	中学生 (1~3年)	16 (5)	電気工学科
電気工学科オンライン体験授業	第1回10月8日(土) 15:00~15:45	中学生 (1~3年)	20 (40)	電気工学科
	第2回11月3日(木・祝) 13:00~13:45			
	第3回12月4日(日) 11:00~11:45			
楽しく作るライン追跡ロボット ～君にもできるロボット製作～	9月10日(土) 10:00~15:00	小学生 (5~6年)と 保護者	24 (20)	電子制御工 学科
ビジュアルプログラミングで プログラミングを学ぼう (初級・中級)	8月6日(土) 10:00~16:00	小学生(4~6年) と保護者、 中学生(1~3年) と保護者	40 (33)	情報工学科

令和4年度 学市連携事業一覧

学市連携「出前授業」

※令和4年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、大和郡山市、生駒市共に小中学校への出前授業は実施しませんでした。

学市連携「科学教室（高専教室）」

市	テーマ名	担当学科	実施日	対象	人数	備考
大和郡山市	1 パソコンでアニメーションを作ろう	情報工学科 松尾・山口(賢)・上野 教育研究支援室 西野	①6月11日(土) ②6月25日(土) ③7月2日(土)	小学校4年生～中学校1年生	15	少年少女パソコン教室
	2 セッケンって油から作れるんだ～やってみて、感じて、語る科学実験	物質化学工学科 宇田	9月10日(土)	小学校5・6年生とその保護者等	26	12組(小学生12名、保護者等12名、受講者妹2名)
	3 3次元プリンタ入門！～サンタさんをプリントアウト！～	機械工学科 須田・谷口	12月10日(土)	小学校5・6年生	15	
					56	

学市連携「科学教室（いこまっこチャレンジ教室）」

市	テーマ名	担当学科	実施日	対象	人数	備考
生駒市	1 6足歩行ロボットを作ろう！	電子制御工学科 玉木 教育研究支援室 道下	11月13日(日)	小学校1～4年生とその保護者等	20	9組(小学生9名、保護者等10名、受講者妹1名)
	2 手作りモーターを作ろう！	電気工学科 池田・石飛	3月5日(日)	小学校5・6年生	7	
					27	

令和4年度 学市連携以外派遣事業一覧

	派遣事業	派遣者	実施日	派遣先
1	脱炭素を実現する夢の水素エネルギー（奈良県水素普及啓発イベント） 科学教室「燃料電池を作ってみよう」	物質化学工学科 山田	7月31日(日)	イオンモール大和郡山 (大和郡山市)
2	出前授業「音や音声の特徴を調べてみよう」	情報工学科 松村	9月30日(金)	三笠中学校 (奈良市)

令和4年度 展示会・地域連携事業一覧

	展示会・地域連携事業名	実施者	実施日	会場・実施場所
1	NEW 環境展	物質化学工学科 中村	5月25日(水) ～ 5月27日(金)	東京ビッグサイト (東京都江東区)
2	国際フロンティア産業メッセ 2022	物質化学工学科 中村 情報工学科 上野	9月1日(木) ～ 9月2日(金)	神戸国際展示場 (兵庫県神戸市)
3	けいはんなビジネスメッセ 2022	産学協働・地域創生研究センター	10月6日(木) ～ 10月7日(金)	けいはんなオープンイノベーションセンター (京都府相楽郡)
4	MOB10 テーマ別大学・高専合同研究シーズ発表会	情報工学科 上野	10月18日(火)	クリエイション・コア東大阪 (大阪府東大阪市)
5	奈良クラブイベント『SDGsデー』水素エネルギー啓発	機械工学科 谷口・福岡・須田 物質化学工学科 山田	10月23日(日)	ロートフィールド奈良 (奈良市)
6	ものづくりマッチング商談会	産学協働・地域創生研究センター	11月9日(水)	奈良県 コンベンションセンター (奈良市)
7	奈良県福祉フェア	電子制御工学科 早川	11月12日(土)	県営福祉パーク (田原本町)
8	ビジネスチャンス発掘フェア	物質化学工学科 中村	11月16日(水) ～ 11月17日(木)	マイドーム大阪 (大阪府大阪市)
9	大和郡山市・阪南大学・奈良高専 3機関連携「大和郡山城天守台プロジェクトマップ」	情報工学科 内田 一般教科 竹原	11月26日(土)	大和郡山城 (大和郡山市)
10	奈良先端科学技術大学院大学主催 地域共創推進室シンポジウム「栄える奈良 備える奈良」 技術講演	情報工学科 上野	1月31日(火)	奈良県 コンベンションセンター (奈良市)
11	京都ビジネス交流フェア 2023	機械工学科 須田 電気工学科 池田 電子制御工学科 中村 物質化学工学科 山田	2月16日(木) ～ 2月17日(金)	京都パルスプラザ (京都府京都市)
12	イノベーションストリーム KANSAI	機械工学科 須田 電気工学科 池田 電子制御工学科 中村	2月21日(火) ～ 2月22日(水)	グランフロント大阪北館 (大阪府大阪市)
13	MOB10-Café ここから始まる産学連携『奈良高専』	物質化学工学科 中村	3月8日(水)	クリエイション・コア東大阪 (大阪府東大阪市)

施設開放状況一覧

年度	日付	使用目的	使用団体	選択教室5	教室(5E)	大視聴覚室	視聴覚室	電子工学実験室	第一会議室	大講義室	本館LR	大会議室	プール更衣室	第1体育館	第2体育館	陸上競技場	心臓フィット	テニスコート	7-フィールド
H30年度	H30.5.13	第68回市民体育大会	大和郡山市体育協会											300	300			300	300
	H30.5.13	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会														80		
	H30.5.20	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会														80		
	H30.6.17	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会														80		
	H30.7.15	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会														80		
	H30.12.16	第28回大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会														250		
小計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300	300	0	570	300	300
R1年度	R1.5.12	第69回市民体育大会	大和郡山市体育協会											300	300			300	300
	R1.5.19	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会														80		
	R1.5.26	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会														80		
	R1.10.5	第50回市民陸上競技大会	大和郡山市体育協会														200		
	R1.12.15	大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会														250		
小計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300	300	0	610	300	300
R2年度		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため貸出実績なし																	
小計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R3年度	R3.5.9	第70回市民体育大会	大和郡山市体育協会															100	100
	R3.6.20	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会														20		20
	R3.7.18	第70回市民体育大会(アーチェリーのみ)	大和郡山市体育協会																20
	R3.8.7	第45回やまの夏まつりサライズ	大和郡山市商工会																20
	R3.8.8	第45回やまの夏まつりサライズ	大和郡山市商工会																20
	R3.12.12	大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会														200		
小計														0	0	0	240	100	140
R4年度	R4.5.8	第71回市民体育大会	大和郡山市体育協会											200	200			200	200
	R4.12.11	大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会																200
小計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200	200	0	200	200	200
年平均				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	160.00	160.00	0.00	324.00	180.00	188.00
合計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	800	800	0	1620	900	940

留学生年度別受入一覧表

年度	機械工学科		電気工学科		電子制御工学科		情報工学科		物質化学工学科		計		在籍数		退学数		卒業数			備考		
	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	進学	帰国	就職			
30					1 7オス		1 7オス				1 マレーシア	1 3	3 8			5						
1		1 マレーシア							1 モンゴル		1 1	4 11					1 1	5				
2		1 マレーシア					1 インドネシア		1 インドネシア		2 4	2 10	4 6			2 2						
3									1 インドネシア		1 3	4 9	5 6			1 2			1 2			
4									1 7オス		1 3	4 10	6 10			4 4						

国際交流 派遣・受入事業一覧

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2・3年度は海外派遣及び海外からの受入なし

国際交流派遣

年度	No.	日程	内容	参加学生		国・地域	派遣先 学校名等
				学年	人数		
令和4年度	1	令和4年8月12日(金) ～9月10日(土)	研究室でのプロジェクト活動、研究発表など	専攻科1・2年 (1MC 1名, 2MC 1名)	2名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク

国際交流受入

年度	No.	日程	内容	参加学生		国・地域	派遣元 学校名等
				学年	人数		
令和4年度	1	令和5年3月22日(水) ～3月29日(水)	学科見学、学校紹介、日本文化の紹介、文化交流、社会工場見学等	学生 教員	32名 3名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク

オンライン国際交流

年度	No.	日程	事業名	参加学生		国・地域	相手先 学校名等
				学年	人数		
令和2年度	1	令和2年5月16日(土)	International STEM Students' Forum 2020	本科1～5年	22名	香港	香港VTC 香港專業教育學院
	2	令和2年6月23日(火) ～8月6日(木)	ビデオカンファレンス	本科1～5年	19名	台湾	国立中山大学附属国光高級中学 (Guo Guang Laboratory School)
	3	令和2年8月27日(木) ・11月16日(月) ・11月24日(水)	Asian Youth Forum 2020 ウェビナー (ウェブセミナー)	本科2年 (2M 1名, 2I 3名, 2C 1名)	5名	台湾, 韓国, ベトナム, インドネシア	奈良女子大学附属中等教育学校他, 台湾, 韓国, ベトナム, インドネシアのAYF参加校
	4	令和2年12月4日(金)	Asian Youth Forum 2020 英語ディスカッション・プレゼン報告発表会	本科2年 (2M 1名, 2I 3名, 2C 1名)	5名	台湾, 韓国, ベトナム, インドネシア	奈良女子大学附属中等教育学校他, 台湾, 韓国, ベトナム, インドネシアのAYF参加校
	5	令和2年10月9日(金) ～2月5日(金)	E-palプロジェクト	本科1～5年	30名	台湾	国立中山大学附属国光高級中学 (Guo Guang Laboratory School)
	6	令和2年11月7日(土) ・11月21日(土)・12月5日(土) ・12月19日(土)・1月9日(土)	ISTS / JSTS2020代替プログラム SDGs Webinar 2020 “今”を視て創造する新しいSDGs	本科5年, 専攻科1年 (5M 1名, 1AM 2名)	3名		SDGs Webinar 2020 参加高専及び参加技科大
	7	令和2年11月7日(土)	オンライン国際交流イベント	本科1～5年	40名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク
	8	令和2年12月11日(金)	オンライン国際交流イベント	本科1～5年	38名	シンガポール	リパブリック ポリテクニク
	9	令和2年12月19日(土)	レゴを活用した英語コミュニケーション ワークショップ	本科1～5年	29名		
	10	令和3年2月11日(木)	オンラインディスカッション 科学における女性と女児の国際デー記念 プログラム(アメリカ大使館主催)	本科1年	4名	アメリカ	
	11	令和3年3月29日(月)	オンライン国際交流イベント	本科1～5年	14名	香港	香港VTC 香港專業教育學院 リパブリック ポリテクニク
令和3年度	1	令和3年4月22日(木) ～5月20日(木)	ビデオカンファレンス	本科1～5年	20名	台湾	国立中山大学附属国光高級中学 (Guo Guang Laboratory School)
	2	令和3年8月6日(金) ・8月11日(水)	Asian Youth Forum 2021 ウェビナー (ウェブセミナー)	本科1～4年 (1M, 1I, 2I, 2C, 4C)	5名	台湾, 韓国, ベトナム, インドネシア	奈良女子大学附属中等教育学校他, 台湾, 韓国, ベトナム, インドネシアのAYF参加校
	3	令和3年5月27日(木) ～1月31日(月)	オンライン異文化交流プロジェクト	本科1～5年	43名	台湾	国立中山大学附属国光高級中学 (Guo Guang Laboratory School)
	4	令和3年9月8日(水) ～9月15日(水)	オンラインシリアル未来理工系人材育成 プログラム(岐阜高専主催)	本科1・3年 (1C 1名, 3C 1名)	2名	アメリカ	
	5	令和3年9月13日(月) ～9月15日(水)	オンラインGECEPサマースクール	本科1～5年	43名	香港	香港VTC 香港專業教育學院
	6	令和3年9月6日(月)・9月9日(木) ・9月16日(木)・9月30日(木) ・10月7日(木)・10月14日(木) ・10月21日(木)・10月28日(木) ・11月4日(木)・11月11日(木) ・11月18日(木)・11月25日(木) ・11月26日(金)	オンライン海外協働研修	本科1～5年	5名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク
	7	令和3年10月29日(金) ・11月12日(金)・11月19日(金) ・11月26日(金)・12月17日(金)	ロボテクスオンラインセミナー	本科1～5年	8名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク
	8	令和4年1月4日(火)	オンラインGECEPウィンタースクール	本科1～5年	13名	アメリカ フランス	GOOGLE DATA Center International Thermo Nuclear
	9	令和4年1月6日(木) ～1月8日(土)	オンライン国際交流イベント	本科1～5年	16名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク
	10	令和4年3月28日(月) ～3月30日(水)	オンラインGECEPスプリングスクール	本科1～5年	29名	アメリカ	TESLA, SPACE X
令和4年度	1	令和4年6月15日(水)	バーチャルキャンパスツアー	本科1～5年	20名	香港	香港VTC 香港專業教育學院
	2	令和4年6月15日(水)	海外学術交流校異文化交流 オンラインプレゼンテーション	本科1～5年	20名	シンガポール	テマセク ポリテクニク
	3	令和4年9月7日(水)	オンラインツアー	本科1～5年	31名	韓国	サムスン・イノベーションコミュニ アム
	4	令和4年9月8日(木)	オンラインツアー	本科1～5年	29名	アメリカ	シリコンバレー・ビッグテック企業 (Google本社他)
	5	令和4年9月12日(月)	オンライン国際交流イベント	本科5年	2名	シンガポール タイ	ナンヤン ポリテクニク カセサート大学
	6	令和4年9月13日(火)	外国人留学生との国際交流 マレーシア、ラオスの文化紹介オン ラインプレゼンテーション	本科1～5年	30名		
	7	令和4年9月6日(火) ～9月15日(木)	GECEPサマースクール (STEM English オ ンライン集中イマージョンプログラム)	本科1～5年	33名		
	8	令和4年9月16日(金)	バーチャルオンライン国際交流プログラム	本科1～5年	27名	香港	香港VTC 香港專業教育學院
	9	令和4年9月16日(金)	協働STEMものづくりワークショップ	本科1～5年	25名	香港	香港VTC, IVE 香港專業教育 学院・職業訓練局
	10	令和4年11月7日(月)	オンライン国際交流イベント	本科5年	2名	シンガポール タイ	ナンヤン ポリテクニク カセサート大学
	11	令和4年11月12日(土)	オンライン3か国異文化交流	本科1～5年	33名	シンガポール タイ	ナンヤン ポリテクニク カセサート大学

資料 54

教員の兼業状況

年 度	平成30年度	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
承認件数	5 1 件	4 2 件	5 3 件	5 3 件	4 9 件

資料 55

非常勤講師の配置状況

(令和 4 年度)

学 科	科目等	人数 (延べ)	授業時間数/週		備 考
			前期	後期	
一般教科	国 語	1	2	4	国語Ⅱ（古），国語Ⅲ
	社 会	1	4	6	歴史，地域学
	体 育	1	6	4	保健・体育Ⅱ，体育実技
	数 学	2	1 0	1 4	数学特論 α，応用数学 α，応用数学 β，微分積分Ⅰ
	物 理	1	4	4	物理Ⅰ，物理Ⅱ
	生 物	1	6	4	生物
	芸 術	2	0	1 2	美術，音楽
	英 語	4	2 4	2 2	英文法Ⅰ，英文法Ⅱ，英語Ⅱ，英語Ⅳ
機械工学科	—	1	4	2	機械設計製図Ⅰ，情報処理
電気工学科	—	1	4	4	電気工学演習Ⅰ，アナログ回路
専攻科	—	5	1 0	6	技術者倫理，実用技術英語（電気・情報系），グローバルエンジニアスキル，アドバンスト・グローバルエンジニアスキル，特修英語Ⅰ，特修英語Ⅱ，プレゼンテーション英語
留学生	日本語	1	4	4	留学生の日本語
	電 気	1	2	2	電磁気学，電気回路
	計	2 2	8 0	8 8	

授業アンケート結果総括（令和4年度）

【授業内容に関する質問】

設問	設問内容	全校平均	M	E	S	I	C
1	担当教員の指導（話し方・問いかけ・指示・板書等）は適切であり、授業の進行や内容は整理されていて理解しやすかったと思いますか。	3.42	3.37	3.42	3.46	3.45	3.34
2	担当教員は学生の理解度を確認しながら授業を進めていたと思いますか。	3.32	3.28	3.35	3.37	3.34	3.24
3	授業の進め方や授業内容は、最初の授業で説明されたシラバスに沿っていたと思いますか。	3.51	3.47	3.51	3.52	3.56	3.43
4	授業の形態（講義、演習、実験、実習、グループワーク等）は内容を理解するうえで適切であり、到達目標（シラバス参照）を達成するための工夫があったと思いますか。	3.39	3.35	3.40	3.41	3.44	3.31
5	授業で使用了教材（教科書・参考図書・配付資料・課題・宿題等）は、内容を理解するうえで適切であったと思いますか。	3.38	3.36	3.43	3.42	3.38	3.28

設問1～5 そう思う（4点）、ややそう思う（3点）、あまりそうは思わない（2点）、そう思わない（1点）

【検証】

- ・昨年度に比べ、設問1～5で平均点が0.1点以上上がっている。回答も「そう思う」、「ややそう思う」が多く平均点は高い。
- ・いずれの設問においても学科間の大きな差は認められない。

【自学自習と学習時間】

設問	設問内容	全校平均	M	E	S	I	C
6	あなたは授業概要の把握、予習のために、積極的にシラバスを活用できたと思いますか。	2.77	2.74	2.82	2.76	2.70	2.74
7	あなたはこの授業の内容を理解するために努力（予習・復習、質問等）をして、積極的に内容の理解を目指す行動がとれたと思いますか。	3.09	3.01	3.10	3.12	3.10	3.05
8	あなたがこの科目の学習を行った時間（授業時間、予習・復習、宿題、試験勉強等含む）はどのくらいですか。過当たりの平均値で答えてください。	2.30	2.15	2.34	2.34	2.16	2.45

設問6, 7 そう思う（4点）、ややそう思う（3点）、あまりそうは思わない（2点）、そう思わない（1点）

設問8 270分以上（4点）、180分～270分（3点）、120～180分（2点）、120分未満（1点）

【検証】

- ・昨年度に比べ、設問7では平均点が0.1点上昇しており、概ね授業内容を理解するための努力をしていることが窺える。
- ・過当たりの学習時間は180分前後と昨年度に比べ若干増加した（昨年度は180分未満）。
- ・シラバスの使用には改善の余地がある。積極的に活用できるようにさらなる周知・工夫が必要である。
- ・いずれの設問においても学科間の大きな差は認められない。

【学習到達度、学習満足度】

設問	設問内容	全校平均	M	E	S	I	C
9	あなたはこの授業でどの程度到達目標を達成できましたか。優・良・可の基準で自己評価してください。	2.98	2.82	2.98	3.06	3.09	2.88
10	あなたのこの授業に対する総合的満足度はどのくらいですか。	3.31	3.22	3.31	3.36	3.37	3.26

設問9 優（4点）、良（3点）、可（2点）、不可（1点）

設問10 満足（4点）、やや満足（3点）、やや不満足（2点）、不満足（1点）

【検証】

- ・昨年度に比べ、設問9では平均点が0.07点、設問10では平均点が0.10点上がっている。
- ・設問9では「優」「良」の回答が多いものの、科目によっては「可」が半数程度あるものもあり、ばらつきが見られる。
- ・設問10ではほとんどの授業で3点を超えており、学生は概ね授業に対して満足しているものと考えられる。
- ・いずれの設問においても学科間の大きな差は認められない。
- ・自由記述回答に関しては、低学年のクラスではどの学科も比較的良好に書かれている。また特定のクラスでも記述数が多い。

【web アンケートについて】

webによるアンケートに移行して3年目であるが、授業によって回答数に大きなばらつきがあり、統計データの信頼性としては少し疑問が残った。まだ定着度が高くないため、webアンケートの回答数を増やすための対策が必要である。

令和4(2022)年度 授業チェックシート

授業科目			開講時期	
対象クラス				
担当者名			記入日	

以下の事項を記入してください。(リストから選択、一部自由記述)

1. 学生に授業科目の学習到達目標・教育方法等の説明をしましたか？					
2. 開講時にシラバスの内容を説明しましたか？					
3. 授業はシラバスの内容・授業計画に沿って実施しましたか？					
4. 適切な教材を用いていますか？					
5. 学生の授業中の反応をチェックして、活用していますか？					
6. 課題・レポート・小テスト等を適切に実施しましたか？					
7. 成績はシラバスの評価割合に従って評価しましたか？					
8. (学修単位科目のみ)授業時間以外の学習の指導とその評価をしましたか？					
9. 成績評価の根拠資料(定期試験、小テスト、課題など)は適切に保存していますか？					
10. 学生の興味や理解度を高める工夫をしましたか？					
(「はい」の場合は具体的な内容を記入してください。)					
11. 授業アンケートや公開授業などの点検結果を来年度の授業に反映しますか？					
(「はい」の場合は具体的な内容を記入してください。)					
12. 学生が授業に自律的に取り組む試みを行っていますか？ (例えば、創造性を養う、能動的に授業参加する、授業時間外の学習を促すなど)					
(「はい」の場合は具体的な内容を記入してください。)					
13. 試験・レポート・課題の回数および返却率について (レポートなどは書き直しや修正など教育的なやりとりがなされていれば、最終版そのものを返却する必要はない)					
定期試験	回数: 回 返却率: %				
小テスト・口頭試問	回数: 回 返却率: %				
レポート・課題等	回数: 回 返却率: %				
14. 授業時間外に行った学習指導等について (○をつけてください)					
オフィスアワー		学力補充の補講		課題・レポート指導	
補充試験・追実験		その他			
15. 授業改善で効果的な成果があった事例があれば記入してください					

令和4年度 授業チェックシート集計結果

学科等		設問番号・内容														はい/総数				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	オフイス アワー	課題・ レポート	追試験・ 追実験	その他	
本 科	国語	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	5/18	0/18
	社会	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	20/28	14/28
	英語	31/31	31/31	31/31	31/31	31/31	31/31	31/31	31/31	31/31	31/31	31/31	31/31	31/31	31/31	31/31	31/31	24/31	14/31	0/31
	体育	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	23/25	0/25	0/25
	数学	45/45	45/45	45/45	45/45	45/45	45/45	45/45	45/45	45/45	45/45	45/45	45/45	45/45	45/45	45/45	45/45	45/45	37/45	12/45
	理科	42/42	42/42	42/42	42/42	42/42	42/42	42/42	42/42	42/42	42/42	42/42	42/42	42/42	42/42	42/42	42/42	27/42	22/42	13/42
	芸術	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	0/5	5/5	5/5
	機械	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	14/35	17/35	3/35
	電気	46/46	46/46	46/46	46/46	46/46	46/46	46/46	46/46	46/46	46/46	46/46	46/46	46/46	46/46	46/46	46/46	32/46	32/46	7/46
	電子制御	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	4/36	23/36	3/36
	情報	30/30	30/30	30/30	30/30	30/30	30/30	30/30	30/30	30/30	30/30	30/30	30/30	30/30	30/30	30/30	30/30	20/30	11/30	0/30
	物質化学	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	10/37	26/37	0/37
	小計	378/378	378/378	378/378	378/378	378/378	378/378	378/378	378/378	378/378	378/378	378/378	378/378	378/378	378/378	378/378	378/378	277/378	188/378	57/378
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	73.3%	49.7%	15.1%
専 攻 科	社会	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0
	英語	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0
	体育	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0
	数学	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	0/1
	理科	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	0/2	0/2	0/2
	機械	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	6/9	4/9	1/9
	電気	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	2/14	6/14	2/14
	電子制御	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	0/4	3/4	0/4
	情報	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	0/5	4/5	0/5
	物質化学	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	10/14	10/14	3/14
	総数	49/49	49/49	49/49	49/49	49/49	49/49	49/49	49/49	49/49	49/49	49/49	49/49	49/49	49/49	49/49	49/49	28/49	28/49	5/49
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	57.1%	57.1%	10.2%
	総数	427/427	427/427	427/427	427/427	427/427	427/427	427/427	427/427	427/427	427/427	427/427	427/427	427/427	427/427	427/427	427/427	305/427	193/427	62/427
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	71.4%	45.2%	14.5%

【評価】
 ・問8のチェック項目（「学修単位の科目について授業時間以外の学習の指導とその評価をされましたか？」）については令和3年度との比較で14ポイントほど低下している。100%を目指す項目なので、委員会にて詳細を確認したい。
 ・基本12項目の集計結果のうち、2項目が昨年度よりポイント数が下がっていた。一つは上記の問8で、もう一つは問10（「学生の興味や理解度を高める工夫をされましたか？」）であるが、低下は0.8ポイントで大きな変化ではないと思われる。
 ・問14の各項目も昨年より割合は上がっており、丁寧な指導が行われていると判断できる。

令和4年度 卒業生・修了生アンケート集計結果（抜粋：ディプロマポリシー達成割合）

単位：%

本科	(1) 人文・社会・自然についての豊かな教養を培ち、自主的に系統的に学習ができる。 【基礎力】	(2) 各専門課程の人材養成目的、教育目標に資する知識・技術・能力を習得する。 【専門応用力】	(3) 多様な個性や価値観を持つ他者と意思疎通し、同じ目的に向けて協働できる。 【協働力】	(4) 技術者としての倫理観を培ち、責任ある行動をもって社会に貢献できる。 【社会実践力】
1. ポリシーを満たすまでの能力は身につかなかった	8.0	7.4	5.5	7.4
2. ポリシーをほぼ満たす能力が身についた	42.3	44.8	37.4	38.0
3. ポリシーを完全に満たす能力が身についた	32.5	30.7	33.8	31.9
4. ポリシー以上の能力が身についた	17.2	17.1	23.3	22.7

システム創成工学専攻

専攻科	(A) 幅広い視野と教養	(B) 技術者、科学者としての高度な倫理観	(C) 工学の基礎	(D) 研究成果の発信力	(E) 技術者に必要な英語力	(F) 専門分野の知識	(G) システムの設計力	(H) 問題解決能力
1. ポリシーを満たすまでの能力は身につかなかった	2.6	0.0	2.5	5.1	10.3	3.1	3.1	0.0
2. ポリシーをほぼ満たす能力が身についた	20.5	10.3	20.5	23.1	43.6	18.8	15.6	21.9
3. ポリシーを完全に満たす能力が身についた	41.0	53.8	38.5	35.9	25.6	28.1	43.8	37.5
4. ポリシー以上の能力が身についた	35.9	35.9	38.5	35.9	20.5	50.0	37.5	40.6

物質創成工学専攻

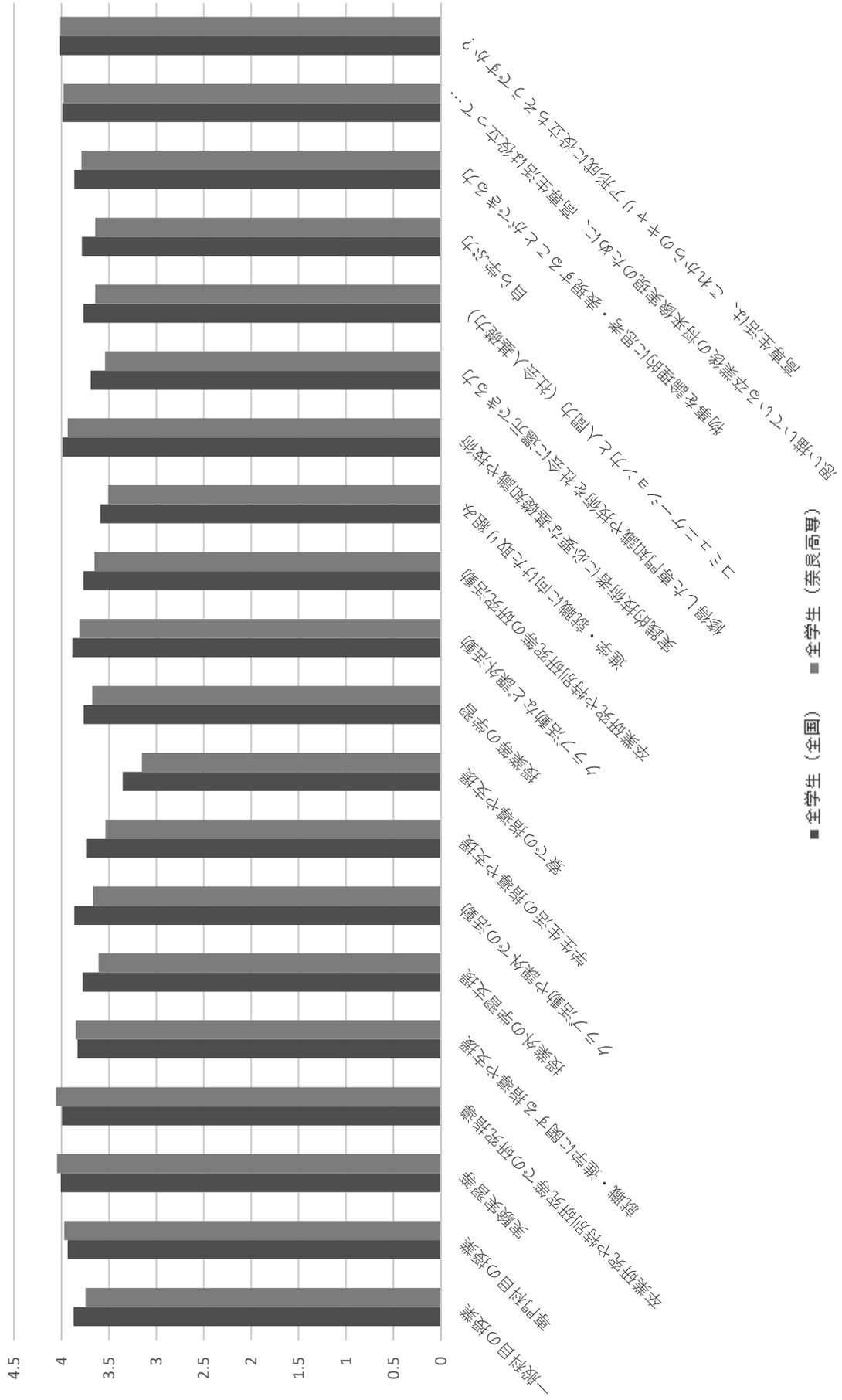
(F) 専門分野の知識2	(G) 物質・材料の抽出力	(H) 優れた技術・研究能力
0.0	0.0	0.0
50.0	62.5	75.0
37.5	37.5	25.0
12.5	0.0	0.0

【評価】

- ・本科においてはDPを満たさないという自己評価は全ての項目で8%を下回り、90%以上のものが一定の水増しにあると自己評価していることは、卒業単位が揃っていることと判断できる。
- ・このことから本校のDPが適切であること、また卒業生がDPを満たしていることが自他ともに認められるものであることが判断できる。
- ・専攻科においてはDPを満たさないという自己評価はほとんど全項目で5%を下回り、90%以上のものが一定の水増しにあると自己評価している。修了単位が揃っていることと同値である。
- ・このことから本校の専攻科のDPが適切であること、また修了生がDPを満たしていることが自他ともに認められることが判断できる。
- ・ただし、専攻科生全体の約10%が「技術者に必要な英語力」がポリシーのレベルまで到達していないと自己評価していること、物質創成工学において「ほぼ満たす」という評価がF、G、Hにおいて50%を越えている点は注意深く様子を見るべき点と考える。

令和4年度 学びの状況調査集計結果（全国高専と奈良高専との比較）

全国平均との比較（全学生）



あ と が き

教育・研究の高度化，教育機関の個性化・多様化，教育の成果（アウトカムズ）の可視化，組織運営の活性化等の要求から高等教育機関における内部質保証システムの重要性は今後も益々高まると予想される。本報告書は，本校の内部質保証の評価点検結果をまとめたものであり，各部門の総括と重点課題，各学科の総括，機関別認証評価の観点に合わせた自己点検評価からなる本文編と，関係する資料からなる資料編で構成されている。

今年度は主に，本文はR 4年4月からR 5年3月まで，資料はH 30年4月からR 5年3月までの5年間を対象としてまとめている。

本校は外部評価として，運営諮問会，認定専攻科審査，専攻科特例認定審査，機関別認証評価等を受けている。また，日本工学教育協会が認定する「国立高専教育国際標準 (KOSEN International Standard : KIS)」が始まり，将来的には本校も受審を予定している。なお，KIS評価・認定プロセスは，R 5年にJABEEの定める認定機関認証評価基準を満たしていることが認証されている。外部評価の選択も必要となり，H 17年から日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けていたシステム創成工学教育プログラムは，R 3年度をもって認定を終えた。

さて，本年度の運営諮問会は「奈良高専の開祖計画について」（案）をテーマとして開催の予定である。10年先を見越した改組を，事務部や教学IR室および教育の質保証に関わるデータに基づいて計画し，その計画を運営諮問会で外部有識者の皆様からのご意見をいただいてブラッシュアップできればより良いものになると考える。さらに改組の前後においても自己点検・評価を継続し成果を確認することの重要性はますます増えてゆくことと思われる。そのためにも本校教職員の点検評価への協力をお願いしたい。

本報告書は，平成13年12月発行からはじまった「自己点検・評価報告書－奈良高専の教育・研究・社会貢献への取組みと課題」以来，形式や内容をリニューアルしながら，過去の「報告」に重点をおいたものから，「点検評価」に重点を移し教育の外部評価，内部質保証に資するよう改善を続けている。

今後も本校教職員が一丸となり，本校の教育研究活動をさらに改善，発展させていくが，この報告書がその一助になると期待している。

最後に，ご多忙の中，本報告書の執筆，編集にご尽力頂きました教職員の方々に深甚な謝意を表します。

令和5年10月

奈良工業高等専門学校 校長補佐（総務担当） 榊原 和彦

奈良高専の教育・研究・社会貢献への取組みと課題
—自己点検・評価報告書—

令和5年10月発行

編 集 奈良工業高等専門学校総務委員会
発 行 独立行政法人 国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校
〒639-1080 奈良県大和郡山市矢田町2-2
TEL 0743-55-6013
URL <https://www.nara-k.ac.jp/>